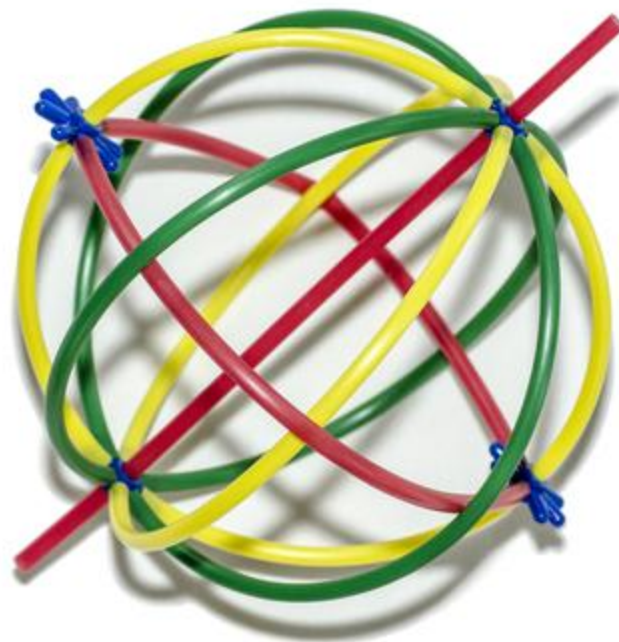


Deloitte.

デロイト トーマツ



令和7年度熊本市知財経営支援モデル地域創出事業（ちざまるプロジェクト）
調査報告書_公表

事務局：有限責任監査法人トーマツ
2026年3月31日

トーマツ.

目次



ちざまるプロジェクト

目次

■ Executive Summary	p.4
■ 事業プロデューサー・プロデューサー補佐について	p.13
■ 次年度以降の方向性	p.17
■ 事業の全体像（目的、概要、運営体制）	p.21
■ 実施内容及び結果	p.29
①地域知財経営支援ネットワークの強化	p.31
②スタートアップ等地域中小企業への伴走支援	p.90
③知財マインドの向上・普及啓発	p.117
■ 事業PD派遣によって得られた知識・ノウハウ	p.143

Executive Summary



ちざまるプロジェクト

支援検討会はオンラインも活用して定期的に開催し、その他については現地対面で同日開催するなどして、効果的かつ効率的な開催方法で実施しました

全体スケジュール

	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
地域連携会議 3回		連携会議① 7/16			連携会議② 10/22		連携会議③ 12/25			
支援検討会 4回			支援検討会① 9/3			支援検討会② 11/19		支援検討会③ 1/19		支援検討会④ 3/6
研修会 4回					研修会① 10/22	ちざまる トークvol.1	研修会② 12/25		研修会③ 2/13	研修会④ 3/6
伴走支援		支援先企業選定	伴走支援							
		PDチーム 組成	PDチーム 会議	PDチーム会議	PDチーム会議	PDチーム会議	PDチーム会議	PDチーム会議	PDチーム会議	PDチーム会議
情報発信・PR						11/25 PRTIMES 情報発信		1/16 PRTIMES 情報発信	成果報告会 2/13	
参考		第1回熊本県 知財支援機 関連携会議 7/16					第2回熊本県 知財支援機 関連携会議 12/2		Innovation Fes. Kumamoto と連携	

各種会議体においては、1年目「機運醸成」として目指す状態のイメージを達成することを念頭においた取組を実施しました

各種会議体等における取組ポイント

1年目 機運醸成		会議名等	取組ポイント	
目指す状態のイメージ（例）				
スタートアップ等	<ul style="list-style-type: none"> できるだけ多くのスタートアップ等地域中小企業が経営課題や事業成長における知財の重要性を知る 無関心層が初級層に上がっている 	地域連携会議	<ul style="list-style-type: none"> 熊本市が注力している4つのテーマで分科会を開催し、テーマごとに知財に関連する課題・取組に関する議論を行い、互いの理解を深めつつ今後の連携可能性を検討できる仕掛けづくりをしました 	
支援機関等	<ul style="list-style-type: none"> 各支援機関が「知財」という観点で、どのような取組をしているのか・できるのかということと、どのような支援が求められているのかを把握している 	研修会	<ul style="list-style-type: none"> 一般の参加者も対象にしたイベント形式の研修会とすることで、無関心層を初級にしていくためのきっかけとできるようにしました 	
ネットワークメンバーの関係性		支援検討会	<ul style="list-style-type: none"> チームリーダーから伴走支援参画メンバー全員に対して、支援方針等を説明いただきました。第3回はアンケートで質問を事前回収した上で、支援内容についてチームメンバーと議論しました 	
		PDチーム会議	<ul style="list-style-type: none"> 伴走支援MTGの前にPDチームメンバー（支援側）で支援内容や各自の役割について確認することで、チームメンバー全体を巻き込んだ支援となるようにしました 	
		①連携強化	伴走支援MTG	<ul style="list-style-type: none"> 共通のフォーマットである「取組シート」を活用して、関係者が情報を整理・確認しやすいようにしました 支援先企業のニーズに応じて柔軟に外部専門家（例：弁護士、ブランディング専門家等）をアサインしました
		②伴走支援	フォローアップ	<ul style="list-style-type: none"> 事務局が伴走支援MTGとは別で支援先企業と個別に連絡を取り、TODOの確認や支援方針について適宜確認できるようにしました
		③情報発信・PR	成果報告会	<ul style="list-style-type: none"> 熊本におけるスタートアップ関連イベント（Innovation Fes. Kumamoto, IFK）と連携することで関係者への周知や認知度向上につなげました
		メディア等での情報発信	<ul style="list-style-type: none"> 熊本市からPRTIMES等を活用したプレスリリースを行い、各種会議体の開催実績や一般参加のイベント周知等を行い、認知度向上や機運醸成につながる取組を行いました 	

分科会や大学との連携、柔軟な外部専門家の活用、熊本のスタートアップイベントとの連携のほか、熊本での活動実績が豊富な事業PDや支援機関同士の密な関係性などが特徴的でした

ちぎまるプロジェクトの特徴的な取組

① 地域知財経営支援ネットワークの強化

- 支援機関同士の理解や取組検討を促すための分科会の開催
- 知財リテラシーの無関心層を引き上げていくためのイベント形式の研修会
- スタートアップ創出のキーマンである大学との連携や関係性強化（今後、教職員やURA向けの勉強会開催予定）

② スタートアップ等地域中小企業への伴走支援

- 関係者が情報を整理・確認しやすいようにするための、共通のフォーマットである「取組シート」の活用
- 支援先企業のニーズに応じた柔軟な外部専門家（例：弁護士、ブランディング専門家等）のアサイン

プロデューサー(PD)チーム

- 熊本での活動実績も豊富で、関係者とのリレーションも豊富な事業PDのアサイン
- 地域企業における知財経営の在り方を意識してプロジェクト全体をリード

③ 知財マインドの向上・普及啓発

- 熊本におけるスタートアップ関連イベント（Innovation Fes. Kumamoto, IFK）との連携
- 熊本市からPRTIMES等を活用したプレスリリースの実施

支援機関

- 地域のスタートアップ・中小企業支援における支援機関同士の関係性が、比較的高いレベルで構築されている
- 過去の知財関連の取組でも連携してきた実績があり、新しい取組を実施しやすい状況

事務局と支援機関メンバーが積極的に情報・意見交換しながら本事業を進めました

ちざまるプロジェクトでの各種取組の経緯や概要

事業PD等及び事務局

事業PD及び事務局での議論・検討 0

【ポイント】熊本版知財経営支援ネットワークの在り方等の仮案設定

- ✓ 連携して「知財経営ロールモデル企業」を創出する、という仮目標を設定した
- ✓ 熊本市や受託事業者が既に地域中小企業や支援機関の情報や関係性を構築していたため、伴走支援先候補のリストアップ・事前ヒアリングや参画機関に対する期待値やアウトカムなどの事前検討・共有、をスムーズに行うことができた

事業PD及び事務局での議論・検討 1

【ポイント】ゴールの検討及び議論を活発化させる施策の検討

- ✓ 事務局ではなく参画機関が主体的にゴールを設定できるようなやり方を検討した
- ✓ 少人数（4-5人単位）のグループを作った方が議論が進むと想定した
- ✓ 分科会で議論をリードするホスト機関を選定し、事前の打合せも実施した
- ✓ 熊本市が注力したい「金融・大学・グローバル・事業承継」をテーマとした

事業PD及び事務局での議論・検討 2

【ポイント】支援機関ごとの具体的な取組について解像度を上げることを目指す

- ✓ 既に支援機関間で一定の関係性がありコミュニケーションも円滑ではあるが、お互いの取組について把握できていないと具体的な相談を持ちかけにくいと考え、各自の取組や経営支援内容の可視化を検討した
- ✓ 伴走支援を進める中で、知財は「短期」ではなく「中長期」の経営戦略と相性がよく、その定着を目指してはどうかという議論が進行した
- ✓ 大学（大学発SU）や事業承継の領域を念頭に置いたとき、「企業価値」という共通のキーワードを向上させることが重要という認識で一致した

事業PD及び事務局での議論・検討 3

【ポイント】これまでの議論・取組や事業PDの考えを踏まえた今後の方向性の検討

- ✓ 分科会や伴走支援を通して感じたことや事業PD自身が考える「知財経営」をベースに、週次MTGで「熊本ならではのビジョン」について深く議論した
- ✓ 伴走支援の進め方について支援メンバーからも意見をもらってより良いものにしていきたいという事業PDからの提案を受け、事前にアンケートを実施した上で第3回支援検討会で議論する場を設けることにした

支援機関メンバー（ちざまるメンバー）

7/16 第1回地域連携会議

【ポイント】本事業における「ゴール設定＝ビジョン」を検討するきっかけ

- ✓ 既に熊本では支援機関間の関係性が構築されており、会議中に活発な意見交換がなされ、本事業を通してどのようなゴール（ビジョン＝在りたい姿）を目指すのか、という一歩先の意見が出ていた

10/22 第2回地域連携会議 & 第1回研修会

【ポイント】分科会で議論を促し、やるべきことの解像度の向上を目指す

- ✓ 4つの分科会ごとに九州会弁理士に同席してもらい、それぞれの課題やゴールに対する知財の関わり方を議論した
- ✓ 特に、「大学WG」では具体的な方向性について、「事業承継WG」ではこれまで知財を念頭においた動きをしていなかったことなどが共有された
- ✓ 地域及び関係者間での事業の浸透を目的に、事業名の通称を「ちざまるプロジェクト」とした

12/25 第3回地域連携会議 & 第2回研修会

【ポイント】ビジョン（仮案）や各自取組の共有とちざまるトークの開催

- ✓ 「企業価値向上に資する中長期的な知財戦略」がある企業創出やそれを支援できる体制の構築、をゴール（仮案）として全体に共有した
- ✓ 各支援機関から具体的な取組等を発表してもらった後に2回目の分科会を実施し、来年度に向けたより具体的な動きを検討いただいた
- ✓ 一般向けの研修会を「ちざまるトーク」と名付け、関係者以外の方々にも気軽に参加いただけるような仕掛けを検討した

3/6 第4回支援検討会 & 第4回研修会

【ポイント】来年度以降の方針を踏まえた支援機関との意見交換等

- ✓ 地域中小企業のみならず、支援機関やその他ステークホルダーの知財リテラシーが向上することで、エコシステムの構築・拡大が図られていく旨を共有した
- ✓ 支援機関からはピッチイベントでの知財リスクに対する具体的な対策案や事業承継をテーマとした際の進め方の懸念点、大学で実施するセミナーの案内など積極的な意見公開・情報提供が行われた

分科会の設置により、熊本市が注力したいテーマごとに支援機関メンバーで活発な議論ができ、来年度以降の事業では「大学発スタートアップ」を重点テーマにすることにつながりました

ちぎまるプロジェクトで特筆すべき取組の内容（1 / 4）

特筆すべき取組等	概要	結果	来年度以降の取組への接続
<div data-bbox="20 391 72 881" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">① 連携強化</div> <div data-bbox="84 586 298 686" style="text-align: center;"> <h3>分科会の設置・設計</h3> </div>	<ul style="list-style-type: none"> テーマごとに4-5名の支援機関メンバーを配置 議論をリードする役割として「ホスト機関」を事務局で選定 全2回開催し、来年度以降の取組等について議論した内容を成果報告会でホスト機関が発表 	<ul style="list-style-type: none"> 熊本市が注力したい「金融・大学・グローバル・事業承継」をテーマとすることでグループでの議論を具体的な取組につなげやすくなった 来年度以降注力するテーマとして「大学発スタートアップ」「事業承継」を選定することにつながった 	<ul style="list-style-type: none"> テーマごとにセミナー・ワークショップ形式等による知見・ノウハウの深掘り等を検討
<div data-bbox="20 881 72 1365" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">① 連携強化</div> <div data-bbox="84 1100 277 1146" style="text-align: center;"> <h3>大学連携</h3> </div>	<ul style="list-style-type: none"> 熊本大学ベンチャー推進部門での知財領域の取組等を本事業にてどのように推進できるか検討 12月に熊本大学の知財等担当する部署を事務局で訪問し、本事業の説明同大学の取組について意見交換を実施 	<ul style="list-style-type: none"> 3/26に熊本大学主催で教職員・URA・学生等向けの知財セミナーを開催 九州会で同大学出身の弁理士も参加するなど、連携強化にもつながった 成果報告会において、熊本大学側から「ロールモデル」の輩出を目指したいとの発言 	<ul style="list-style-type: none"> 本事業の重点テーマとして「大学発スタートアップ」が選定 本事業関係者（支援機関等）によるセミナー開催 本事業において、大学の人材育成や支援機関との連携強化に資する取組を検討・実施

「事業承継」「金融」においても、それぞれ分科会での議論や意見交換がきっかけとなり、具体的な動きや来年度以降の取組につながりました

ちぎまるプロジェクトで特筆すべき取組等の内容（2 / 4）

特筆すべき取組等	概要	結果	来年度以降の取組への接続
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">①連携強化</p> <p style="text-align: center;">事業承継</p>	<ul style="list-style-type: none"> 熊本市では、アツギ支援や事業承継に関する事業を実施するなど、事業承継領域に注力 分科会では「これまで事業承継で知財を念頭においてきていなかった」という趣旨の意見も出てきていた 	<ul style="list-style-type: none"> 熊本商工会議所からの提案で、当初支援機関メンバーに入っていなかった「熊本県事業承継・引継ぎ支援センター」が加わることになり、支援ネットワーク拡充につながった INPIT（（独）工業所有権情報・研修館）などの専門機関と連携した経営指導員向け勉強会の開催など、具体的な取組の提案まで行われた 	<ul style="list-style-type: none"> 本事業の重点テーマとして「事業承継」を選定 分科会で検討された具体的な取組である「人材育成に資するセミナー開催」を実施予定
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">①連携強化</p> <p style="text-align: center;">金融</p>	<ul style="list-style-type: none"> 伴走支援では、全てのチームに必ず金融機関（地銀、VC等）に参画いただいた 分科会では、肥後銀行・熊本銀行の両地銀に、ホスト機関として議論をリードしていただいた 	<ul style="list-style-type: none"> 肥後銀行の取引先に特許庁担当者が訪問し、具体的な知財支援の提供等につながった 特許庁が主催する知財金融関連の事業やセミナーへの関心度が高まった 	<ul style="list-style-type: none"> 地銀等の金融機関の取組や支援において、知財関わるような内容におけるセミナーの検討

熊本では過去に知財関連イベントが開催されていたり、受託事業者含めスタートアップ支援機関で連携が図られていたりしたことが会議体での活発な議論や外部専門家のスムーズなアサインにつながりました

ちぎまるプロジェクトで特筆すべき取組の内容（3 / 4）

特筆すべき取組等	概要	結果	来年度以降の取組への接続
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">① 連携強化</p> <p>地域連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> 熊本では、本事業開始以前から知財関連のイベントが開催されていたり、スタートアップ支援領域では受託事業者を含めて既に密な連携体制が取れていた 	<ul style="list-style-type: none"> 各会議体で参加している支援機関メンバー等から積極的な発言や意見交換が行われた それらの発言等を踏まえて来年度以降の事業方針等を検討することができた 	<ul style="list-style-type: none"> 支援機関メンバーを中心としつつ、新しい属性のメンバーの追加を検討
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">② 伴走支援</p> <p>外部専門家のアサイン</p>	<ul style="list-style-type: none"> 伴走支援の開始時の支援メンバーは主な機能別（金融、知財等）に最低限のメンバーで構成しており、支援先ニーズ等に応じて柔軟に外部専門家を活用することを当初から想定していた 	<ul style="list-style-type: none"> 支援先ニーズの把握後スムーズにアクションを起こし、伴走支援の中盤から、ブランディング、弁護士といった外部専門家をアサインできたことで、質の高い支援及び支援先の満足度の向上につながった RITAマーケティングパートナーズ社は、経営者自らが、知財が重要な経営資源であることを強く認識した結果、同社の「知財10年ビジョン」を自発的に作成し、それを基に伴走支援において、今後の取組をブラッシュアップした 	<ul style="list-style-type: none"> 士業等の外部専門家の関与の拡充 将来的なエコシステムの構築に向けて、熊本・九州等の比較的重点エリアに近い地域の専門家の活用を検討

熊本でのイノベーション創出関連イベントや熊本市のスタートアップ等関連事業の成果報告会との連携、事務局や支援先等の積極的な情報発信・普及啓発に努めました

ちぎまるプロジェクトで特筆すべき取組の内容（4 / 4）

特筆すべき取組等	概要	結果	来年度以降の取組への接続
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">③ 情報発信・PR</p> <p>関連イベントとの連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> Innovation Fes. Kumamoto (IFK) は、熊本内で実施されるイノベーション創出等に関わるプログラムを間の連携を強化する取組として、令和6年度から実施 THE POINT. KUMAMOTOは、熊本市のSU・中小企業支援等事業の報告会を取りまとめたイベント 	<ul style="list-style-type: none"> 主に成果報告会の周知面で連携し、THE POINT.の中で開催告知を行ったり、IFKの特設ページの中に成果報告会の開催情報や特許庁長官のコメントを掲載したりした イノベーション創出に知財が活用できる、というメッセージを広く発信 	<ul style="list-style-type: none"> IFKやTHE POINT.との継続的な連携を検討 熊本における各種プログラムや関係者とのネットワーク強化等も検討
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">③ 情報発信・PR</p> <p>積極的な情報発信</p>	<ul style="list-style-type: none"> 熊本市ホームページへの情報掲載による関係者への発信のみならず、他の情報媒体を活用した一般やスタートアップ関係への発信も意識 支援先が自社のWebページ等において、独自に作成した本事業に関する動画を公開 地域及び関係者間での事業の浸透を目的に、事業名の通称を「ちぎまるプロジェクト」とした。 	<ul style="list-style-type: none"> 11月下旬の地域連携会議及び1月の成果報告会の開催について、熊本市の公式LINEやPRTIMESで情報発信を実施 支援先が自ら情報発信に動いていること自体が、本事業の価値を伝えるメッセージになった 成果報告会については、支援機関メンバーでもある熊本市日日新聞の報道記事として掲載 	<ul style="list-style-type: none"> これまでも活用してきたチャネルにおける発信回数の増加を検討 新たに、Webページ等を活用した情報の掲載やストックを検討

事業プロデューサー・プロデューサー補佐について



ちざまるプロジェクト

熊本での知財関連の活動実績も豊富で、地域における知財の在り方等についても思いを持って活動されている小木様に、事業プロデューサーとして連携強化・伴走支援・情報発信等をリードいただきました

事業プロデューサー（PD）の紹介 & 熊本での活動実績（一部抜粋）



小木 智彦 / こぎ ともひこ

弁理士法人ソシディア知的財産事務所

代表弁理士

（主な活動拠点）

・九州全県、東京都、石川県、富山県、山口県等

■ 選定理由

1. 熊本市内にも事務所を置いており、既に熊本市域の関係者とのリレーションも有している
2. 自発的に地域知財勉強会を立ち上げて、九州地区を中心とした弁理士や知財専門家のネットワーク構築や地域における知財活用の在り方について検討している
3. 九州で個人・中小企業・スタートアップの特許・商標出願を10年以上支援してきた実績も有している

● 略歴

- 筑波大学大学院博士課程物理学研究科 物性理論専攻中退
- 外資系ベンダー勤務（通信系システムエンジニア）
- 都内特許事務所勤務（外資系IT企業の特許担当、ITベンチャー企業知財業務請負）
- 同事務所にて、九州、東京を中心に、年間約100のスタートアップ、中小企業様の発明、デザイン、商標の権利取得を支援

● 専門性・実績

- 佐賀大学発ベンチャー企業オプティムを上場まで知財支援
- 九州経済産業局「チーム伴走型知財経営モデル支援事業」支援チームリーダー
- 第3回 特許庁 IPBASE AWARD 知財専門家部門 奨励賞受賞
- 熊本市スタートアップ支援施設XOSS POINT. メンター ほか多数

< ちざまるプロジェクトへの意気込み >

- 経営を長期的に考える上で、知財の視点が大きな力になります。
- その価値を実感していただくことが、ちざまるプロジェクトの使命です。
- 熊本市は、従来知財意識が高い場所ですので、ここから熊本全体、九州全体に波及することを目指します。
- チーム一丸で取り組みますので、是非とも御期待ください。

< XOSS POINT. メンター >



< 知財関連イベント >



出所：IP BASE HP

坪内様には事業PD補佐兼PDチームリーダーとして、豊富な産学連携及び知財経営支援等の知見・ノウハウを活用して伴走支援をリードいただいたほか、10/22の研修会での講演に登壇いただきました

事業PD補佐 兼 PDチームリーダー



坪内 寛／つぼうち ひろし
UniBridge 知財事務所
代表・弁理士・RTTP
(主な活動拠点)
・福岡県、九州全域

■ 選定理由

1. 福岡を拠点に九州全域で積極的に知財経営支援の活動をしており、地域の関係者とのリレーションを有している
2. 長年、九州経済産業局「チーム伴走型知財経営モデル支援事業」支援チームリーダーを務め、大学・中小・スタートアップなど幅広い属性の企業の支援が可能
3. 特に、熊本市も注力領域においている大学発スタートアップについては、大学側とスタートアップ側の両方の視点から知財活用について支援が可能

● 略歴

- 九州大学大学院工学研究科修士課程修了後、株式会社東芝で水力発電機器事業に従事
- 2004年より、九州大学知的財産本部にて、技術移転グループ長、知財グループ長、等を担務
- 2016年、大学・中小・ベンチャー企業を伴走支援するために同事務所設立

● 専門性・実績

- 九州経済産業局「チーム伴走型知財経営モデル支援事業」支援チームリーダー
- J-Startup KYUSHU 推薦委員
- INPIT「窓口機能強化事業」登録専門家／「加速的支援事業」リーダー・専門家
- 福岡県商工会連合会「エキスパート・バンク事業」登録専門家
- 福岡市「スタートアップカフェ相談会」相談員 ほか多数

<ちざまるプロジェクトへの意気込み>

- 地域知財エコシステム形成の第一歩は、地域で活躍する支援機関同士が互いの強みを知り、相互理解を深めることです。
- 「ちざまるプロジェクト」では、複数の支援機関が協力しながら、企業の課題解決を伴走支援します。
- 実践的な伴走支援を通して「顔の見える支援」と「支援機関同士の実効性ある横のつながり」を目指します。

伴走支援において、よかったと思う支援内容・手法

- 疑問点等も含め、チームリーダーとして統括していただけた点
- 豊富な伴走支援の経験を生かした、他の支援者への話の振り方、連携
- 課題・対応内容の明確化、進行のスムーズさ

小林様には事業PD補佐兼PDチームリーダーとして、ヘルスケア領域やスタートアップへの支援経験を生かして伴走支援をリードいただいたほか、2/13の成果報告会での基調講演に登壇いただきました

事業PD補佐 兼 PDチームリーダー



小林 誠 / しばやし まこと
株式会社シクロ・ハイジア
代表取締役CEO
(主な活動拠点)
・東京都

■ 選定理由

1. 全国レベルで知財経営支援におけるトップランナーであり、業界関係者などと幅広いリレーションを有している
2. 長年、九州経済産業局「チーム伴走型知財経営モデル支援事業」支援チームリーダーを務め、九州地域のスタートアップへの支援実績も豊富に有する
3. 熊本市が注力領域に挙げている大学発スタートアップの支援には特に明るいが、それ以外でも幅広い領域をカバーできる柔軟性を有している

● 略歴

- 2003年より国際特許事務所にて、ベンチャー支援、特許戦略コンサルティング業務等に従事
- 2009年よりデロイト トーマツ ファイナンシャルアドバイザーに転籍し知的財産関連サービスを事業化。事業戦略・知的財産戦略コンサルティング業務等に従事。2019年4月より独立創業して現在に至る

● 専門性・実績

- 統括事業プロデューサー 特許庁 地方創生のための事業プロデューサー派遣事業
- 九州経済産業局「チーム伴走型知財経営モデル支援事業」支援チームリーダー
- 特任教授 大阪工業大学 知的財産学部
- 経済産業省 特許庁 令和6年度「知財功労賞（特許庁長官表彰）」受賞

< ちぎまるプロジェクトへの意気込み >

- 現地の専門家ではないからこそ、先入観のない視点から課題を掘り下げ、これまでの経験を生かし、経営課題・知財課題解決のための戦略立案・実行を支援していきます。
- そして、各支援機関の皆さま、そして熊本市の皆さまと共に、熊本市らしい独自の知財経営支援モデルの確立に貢献していきます。

伴走支援において、よかったと思う支援内容・手法

- 支援序盤に、適切に支援の方向性を示してスケジュールを組んだ点
- 豊富な伴走支援の経験を生かした、他の支援者への話の振り方、連携

次年度以降の方向性



ちざまるプロジェクト

企業価値向上を大きなテーマに、「熊本ならではの」のモデルとして「大学発スタートアップの創出強化」と「企業価値を将来へ引き継ぐ事業承継」に向けた体制強化を検討している旨を伝えました

特許庁及び熊本市それぞれの目指していることを踏まえた方向性

- 当該事業は、3 か年以内に連携の形をつくる。
- 4 年目以降は自治体が主導で取組を継続できるよう地域の自走化を図る。
- 地域での取組をモデル化することで、モデル事例の横展開を目指す。

創出したモデルケース・支援事例
の全国展開

特許庁

熊本市

熊本市だからこそ取り組めるテーマ
でのモデルケースの創出

- 熊本から世界に挑戦し、グローバルに成長する大学発などのスタートアップを創出
- グローバル展開を見据えた知財戦略策定の支援
※ 第2期スタートアップ・エコシステム拠点形成計画より
- 強固な関係者ネットワークを活用した支援

- 「熊本ならではの」のモデルとしては、他地方にも共通する課題である、大学発スタートアップの創出強化に向けて、各支援機関・専門家が相互に理解・連携し、技術シーズの創出と社会実装を通じた企業価値向上の実現に向けた取組を中心に据えることとしたい。
- 加えて、これまで培われてきた熊本ならではのネットワークを維持・強化すべく、研修会の機能を強化し、中小企業の事業承継（企業価値を将来へ引き継ぐ）にも取り組むこととする。

スタートアップ等地域中小企業の企業価値を向上する仕組みづくりに向けて、大学発スタートアップと事業承継の支援モデルの構築に特化した取組や研修メニューを検討している旨を伝えました

2年目のちぎまるプロジェクトの重点（案）



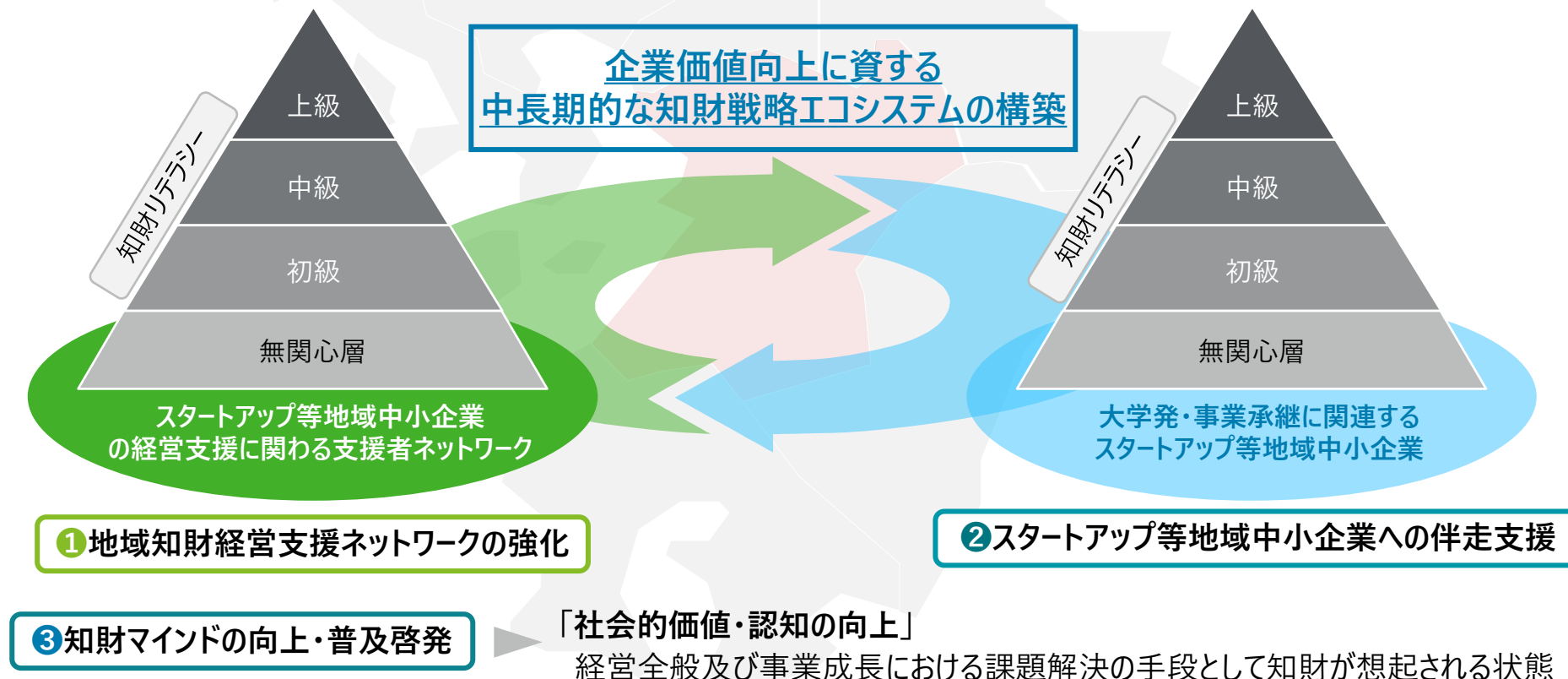
- ① 支援リソースの集中（創業前～シード期）
- ② 熊本大学への集中支援
- ③ 支援設計の標準化
- ④ 本年度支援企業への継続サポート
- ⑤ 3年目の仕組み化に向けたモデル形成

- ① 支援リソースの集中（事業承継期中小企業）
- ② 支援人材の育成
- ③ 支援設計の標準化
- ④ 金融機関の役割の可視化

経営全般及び事業成長における課題解決に資する知財経営支援の「需要と供給」「社会的価値・認知」を高めていくことで、熊本市版地域知財エコシステムの構築を目指している旨を伝えました

熊本市版地域知財エコシステムの構築に向けた取組イメージ

- 経営支援に関わる支援者ネットワーク側の知財リテラシーが向上することで、スタートアップ等地域中小企業への知財経営支援が促進される
- 金融機関（VC含む）や顧客・ユーザーが知財活用・活動を評価することで企業側での知財経営が促進される
- 伴走支援を通じてスタートアップ等地域中小企業の知財リテラシーが向上することで、支援者ネットワーク側への支援ニーズや要求が高まる
- 知財リテラシー向上により、経営全般及び事業成長における課題解決の手段として知財が想起される状態になる



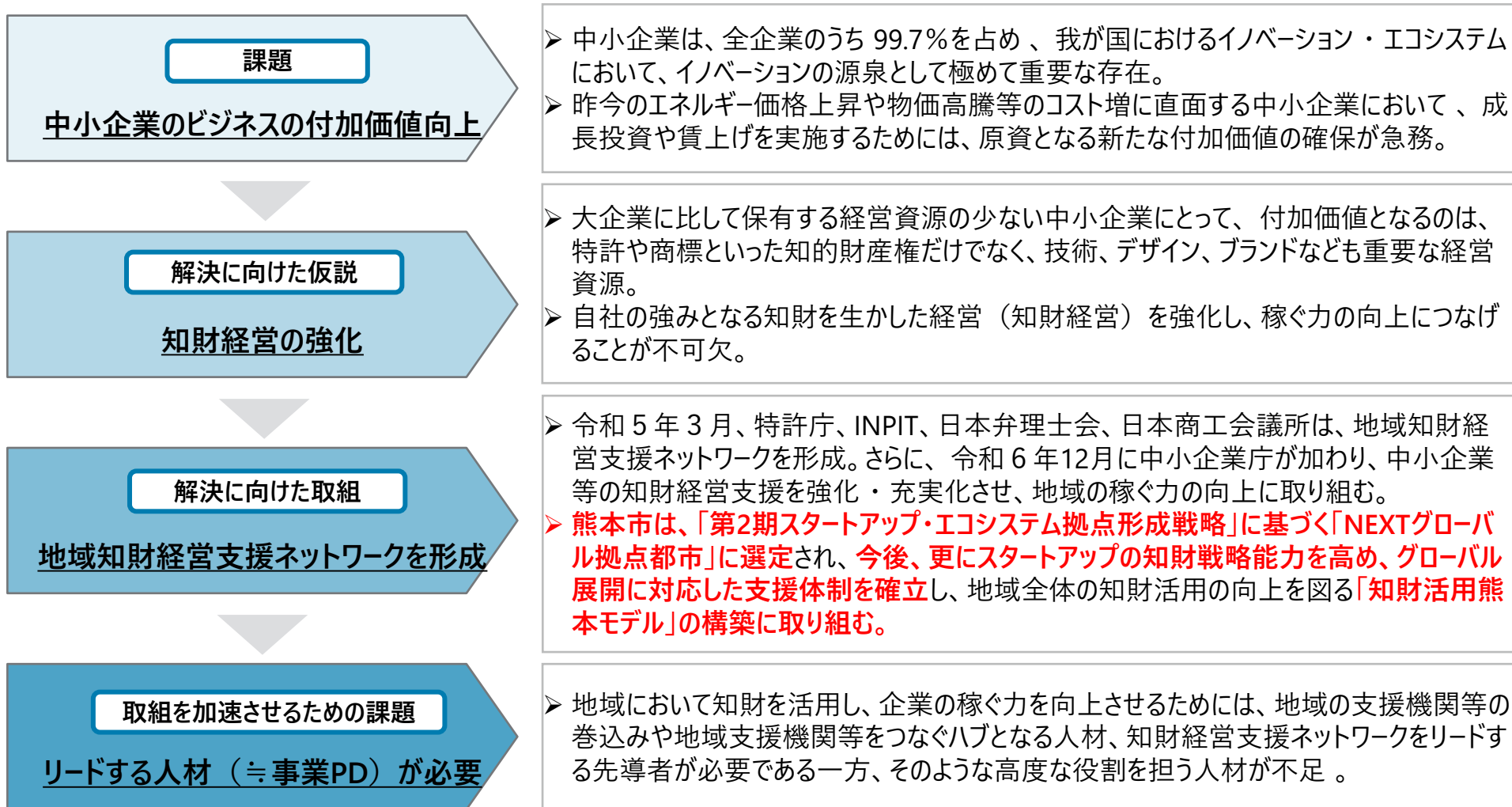
事業の全体像（目的、概要、運営体制）



ちざまるプロジェクト

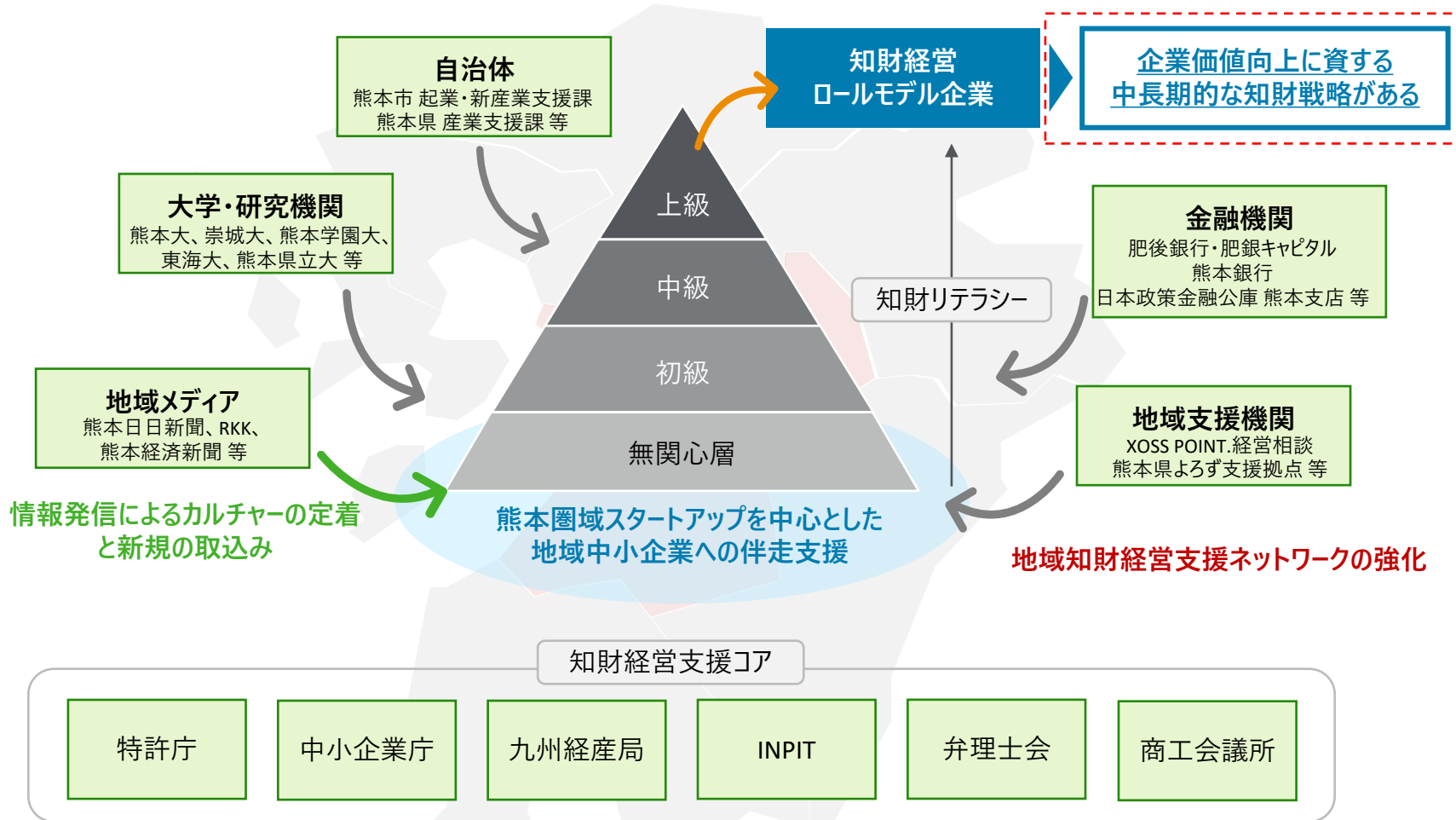
中小企業の知財経営を強化するために形成された地域知財経営支援ネットワークの取組を加速させるためには、関係者を巻き込みリードしていく人材が必要と考えています

本事業実施に至った背景



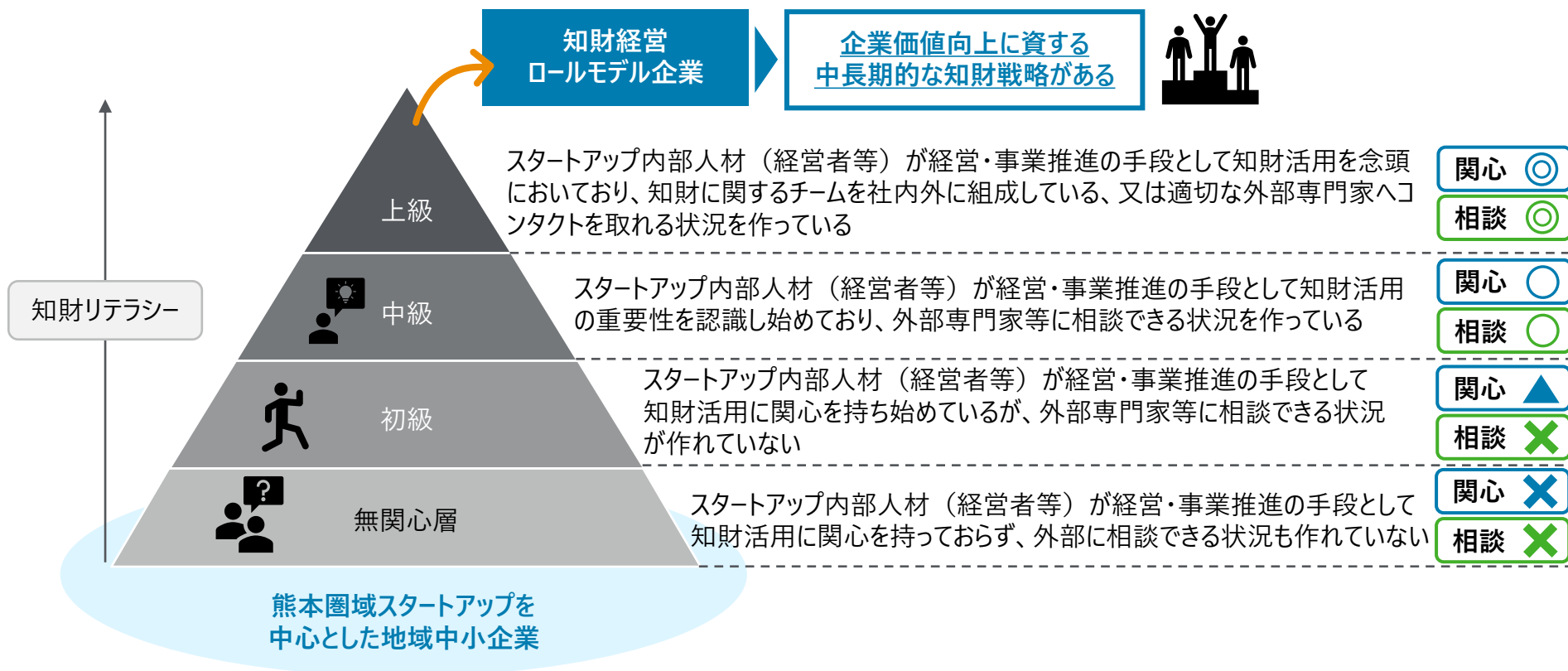
熊本のスタートアップ・中小企業に経営課題解決・事業成長に資する知財活用を促進し、「企業価値向上に資する中長期的な知財戦略」を構築できるエコシステムを目指します

熊本市版地域知財エコシステムの目指す姿



現時点では、企業価値向上に資する中長期的な知財戦略を有する「知財経営ロールモデル企業」を創出していくことを、ちぎまるPJにおける伴走支援の目的にしようと考えています

参考) 知財リテラシーの階層についての考え方



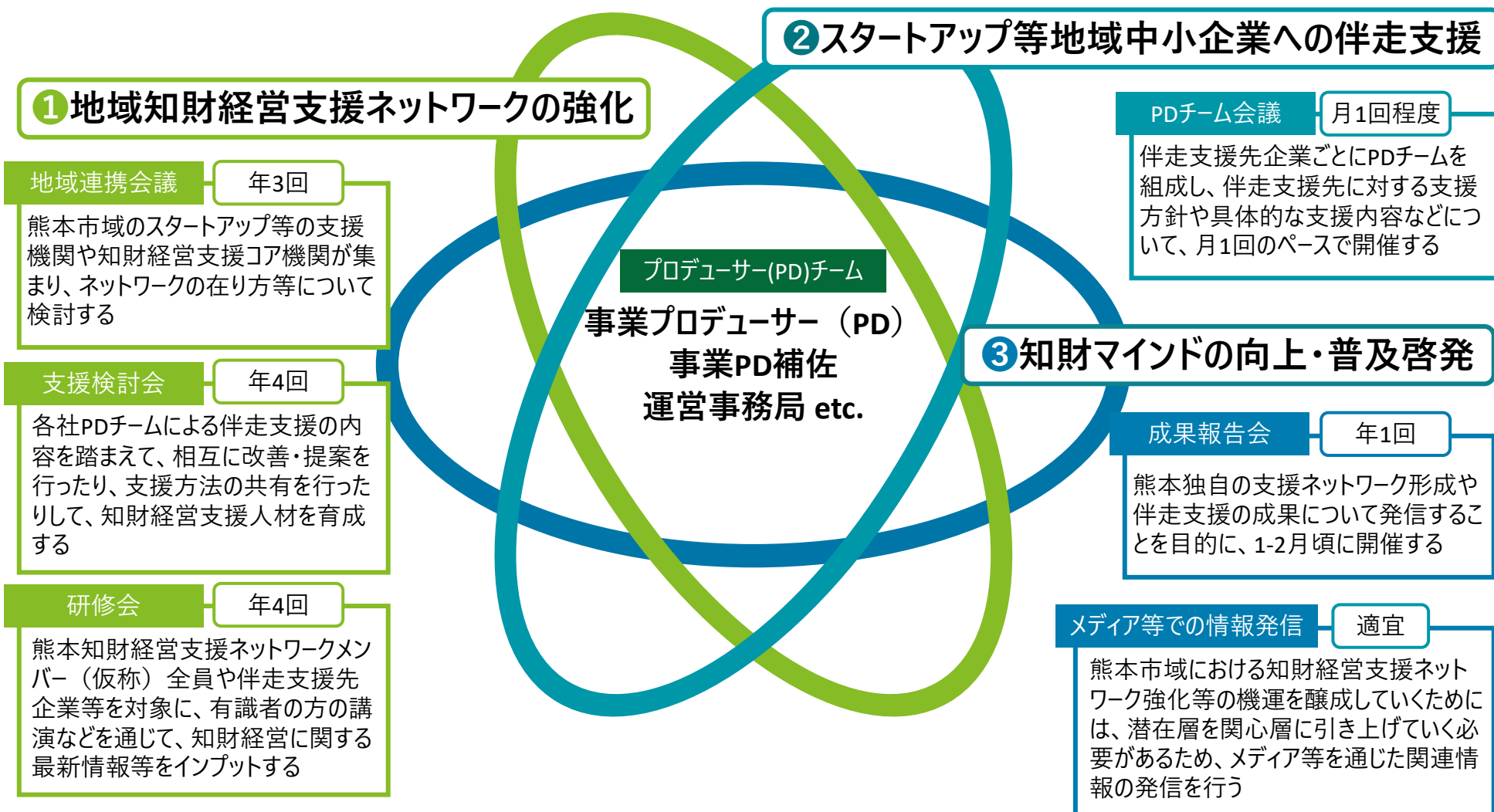
1年目はまず知財経営支援の機運を醸成させていき、2年目にネットワーク・支援の質の向上、3年目には支援方法に関して仕組み化を行い、4年目以降の自走化を目指します

熊本市版地域知財エコシステムの目指す姿

	1年目 機運醸成	2年目 ネットワーク・支援の質の向上	3年目 仕組み化	4年目以降 自走化
	目指す状態のイメージ (例)	目指す状態のイメージ (例)	目指す状態のイメージ (例)	目指す状態のイメージ (例)
	今年度			
スタートアップ等	<ul style="list-style-type: none"> できるだけ多くのスタートアップ等地域中小企業が経営課題や事業成長における知財の重要性を知る 無関心層が初級層に上がっている 	<ul style="list-style-type: none"> 他のスタートアップの知財活用事例を知り、具体的に自社での活用方法について検討できる 大半を占める初級層が中級層へ移行しつつある 	<ul style="list-style-type: none"> 経営課題や事業成長のキーワードとして「知財」を意識することが重要であると認識している 中級層が大半を占めるが、上級層も増えている 	<ul style="list-style-type: none"> 経営や事業成長のドライバーとして知財をうまく活用できるような、「知財経営ロールモデル企業」が複数存在している 多くの企業が各支援機関の知財担当者自らコンタクトができる
支援機関等	<ul style="list-style-type: none"> 各支援機関が「知財」という観点で、どのような取組をしているのか・できるのかということ、どのような支援が求められているのかを把握している 	<ul style="list-style-type: none"> 各支援機関が、自身が提供できる・すべき知財経営における支援内容を把握できており、ネットワーク内における役割を認識している 	<ul style="list-style-type: none"> 事業PDや事務局が各支援機関の役割や担当者を把握し、他の支援機関と連携した支援事例が複数生まれている 	<ul style="list-style-type: none"> 事業PDや事務局が存在せずとも、支援機関同士がお互いの機関の知財担当者や知財経営における役割を把握し、連携して支援を実践できている
ネットワークメンバーの関係性				

本事業（1年目）では、①地域知財経営支援ネットワークの強化、②スタートアップ等地域中小企業等への伴走支援、③知財マインドの向上・普及啓発を行いました

本事業の事業スキーム（取組内容）



地域連携会議・研修会・成果報告会には参画機関メンバーの方々にも参加いただき、伴走支援関係の支援検討会やPDチーム会議については、PDチームメンバーの方に参加いただきました

各種会議体等の内容と参加要否

会議名等	頻度	概要	会議体への参加要否								
			事務局3者	事業PD	事業PD補佐	PDチームリーダー	PDチームメンバー	参画機関メンバー	支援先企業	一般参加者	
① 連携強化	地域連携会議	年3回	熊本市域のスタートアップ等の支援機関や知財経営支援コア機関が集まり、ネットワークの在り方等について検討する	○	○	○	○	○	○	-	-
	研修会	年4回	熊本知財経営支援ネットワークメンバー（仮称）全員や伴走支援先企業等を対象に、有識者の方の講演などを通じて、知財経営に関する最新情報等をインプットする	○	○	○	○	○	○	○	○
	支援検討会	年4回	各社PDチームによる伴走支援の内容を踏まえて、相互に改善・提案を行ったり、支援方法の共有を行ったりして、知財経営支援人材を育成する	○	○	○	○	○	-	-	-
② 伴走支援	PDチーム会議	月1回	前回の伴走支援MTGの振り返りと、次回伴走支援MTGにおける支援内容の検討・方針決め。PDチーム内での役割等についても確認する	○	○	-	○	○	-	-	-
	伴走支援MTG	月1回	伴走支援先企業ごとに組成したPDチームで、月に1回・2時間程度のミーティングを実施する。作業の時間ではなく、議論を行う時間として設定する	○	-	-	○	○	-	○	-
	フォローアップ	月1回	伴走支援MTG後に、支援先企業ごとに実施。実施時間やツールは支援先企業と協議の上決定。伴走支援MTGを有意義な時間にするため、TODOや方針確認を行う	○	-	-	-	-	-	○	-
③ 情報発信・PR	成果報告会	年1回	熊本独自の支援ネットワーク形成や伴走支援の成果について発信することを目的に、1-2月頃に開催する	○	○	○	○	○	○	○	○
	メディア等での情報発信	適宜	熊本市域における知財経営支援ネットワーク強化等の機運を醸成していくためには、潜在層を関心層に引き上げていく必要があるため、メディア等を通じた関連情報の発信を行う	-	-	-	-	-	-	-	-

本プロジェクトでは運営事務局で方針検討をしつつ、事業プロデューサーとの週次MTG及び事業プロデューサー補佐を交えたMTGを実施して、方向性を決めながら進めました

ちぎまるプロジェクト運営体制

事業プロデューサー



小木 智彦／こぎともひこ
弁理士法人ソシデア知的財産事務所
代表弁理士
(主な活動拠点)
・九州全県、東京都、石川県、富山県、山口県等

事業プロデューサー補佐



坪内 寛／つぼうちひろし
UniBridge 知財事務所
代表・弁理士・RTTP
(主な活動拠点)
・福岡県、九州全域



小林 誠／こばやしまこと
株式会社シクロ・ハイジア
代表取締役CEO
(主な活動拠点)
・東京都

運営事務局

- 特許庁 普及支援課
- 熊本市 起業・新産業支援課
- 有限責任監査法人トーマツ 西日本アドバイザー

①地域知財経営支援ネットワークの強化

②スタートアップ等地域中小企業への伴走支援

プロデューサー(PD)チーム

事業プロデューサー (PD)
事業PD補佐
運営事務局 etc.

③知財マインドの向上・普及啓発

実施内容及び結果



ちざまるプロジェクト

実施内容及び結果

目次

①地域知財経営支援ネットワークの強化	p.31	②スタートアップ等地域中小企業への伴走支援	p.90
■ 各種会議体の開催概要	p.31	■ 伴走支援の概要	p.92
■ 各種会議体の実施内容（特筆ポイントの抜粋）	p.35	■ 支援先企業アンケート結果	p.109
・ 7/16 第1回地域連携会議	p.37	③知財マインドの向上・普及啓発	p.117
・ 9/3 第1回支援検討会	p.46	■ 成果報告会	p.118
・ 10/22 第2回地域連携会議 & 第1回研修会	p.53	■ メディア等での情報発信	p.141
・ 11/19 第2回支援検討会	p.60		
・ 12/25 第3回地域連携会議 & 第2回研修会	p.62		
・ 1/19 第3回支援検討会	p.80		
・ 3/6 第4回支援検討会 & 第4回研修会	p.86		
■ 特許庁セミナー in 熊本大学	p.88		

※第3回研修会は、2/13成果報告会のパネルディスカッションとして開催

①地域知財経営支援ネットワークの強化 各種会議体の開催報告



ちざまるプロジェクト

熊本市が注力している4つのテーマで分科会を開催し、テーマごとに知財に関連する課題・取組に関する議論を行い、互いの理解を深めつつ今後の連携可能性を検討できる仕掛けづくりをしました

本事業の事業スキーム | 地域連携会議

② スタートアップ等地域中小企業への伴走支援

① 地域知財経営支援ネットワークの強化

地域連携会議

年3回

熊本市域のスタートアップ等の支援機関や知財経営支援コア機関が集まり、ネットワークの在り方等について検討する

支援検討会

年4回

各社PDチームによる伴走支援の内容を踏まえて、相互に改善・提案を行ったり、支援方法の共有を行ったりして、知財経営支援人材を育成する

研修会

年4回

熊本知財経営支援ネットワークメンバー（ちごまるメンバー）全員や伴走支援先企業等を対象に、有識者の方の講演などを通じて、知財経営に関する最新情報等をインプットする

PDチーム会議

月1回程度

伴走支援先企業ごとにPDチームを



地域連携会議



分科会

会議名等	第1回	第2回	第3回
地域連携会議	開催日：7/16 現地27名 オンライン5名	開催日：10/22 現地26名 オンライン2名	開催日：12/25 現地24名 オンライン1名

必要があるため、メディア等を通じた関連情報の発信を行う

チームリーダーから伴走支援参画メンバー全員に対して、支援方針等を説明いただき、第3回はアンケートで質問を事前回収した上で、支援内容についてチームメンバーと議論できる場を設けました

本事業の事業スキーム | 支援検討会

① 地域知財経営支援ネットワークの強化

地域連携会議

年3回

熊本市域のスタートアップ等の支援機関や知財経営支援コア機関が集まり、ネットワークの在り方等について検討する

支援検討会

年4回

各社PDチームによる伴走支援の内容を踏まえて、相互に改善・提案を行ったり、支援方法の共有を行ったりして、知財経営支援人材を育成する

研修会

年4回

熊本知財経営支援ネットワークメンバー（ちどまるメンバー）全員や伴走支援先企業等を対象に、有識者の方の講演などを通じて、知財経営に関する最新情報等をインプットする

② スタートアップ等地域中小企業への伴走支援



支援検討会

月1回程度

啓発

※参加申込数/事務局除く

会議名等	第1回	第2回	第3回	第4回
支援検討会	開催日：9/3 オンライン15名	開催日：11/19 オンライン8名	開催日：1/19 オンライン13名	開催日：3/6 オンライン20名

報の発信を行う

一般の参加者も対象にしたイベント形式の研修会とすることで、無関心層を初級にしていくためのきっかけとできるようにしました

本事業の事業スキーム | 研修会

② スタートアップ等地域中小企業への伴走支援

① 地域知財経営支援ネットワークの強化

地域連携会議

年3回

熊本市域のスタートアップ等の支援機関や知財経営支援コア機関が集まり、ネットワークの在り方等について検討する

支援検討会

年4回

各社PDチームによる伴走支援の内容を踏まえて、相互に改善・提案を行ったり、支援方法の共有を行ったりして、知財経営支援人材を育成する

研修会

年4回

熊本知財経営支援ネットワークメンバー（ちぞまるメンバー）全員や伴走支援先企業等を対象に、有識者の方の講演などを通じて、知財経営に関する最新情報等をインプットする



研修会①

PDチーム会議 月1回程度

研修会②

ちぞまるトーク開催

なぜ今、知財戦略なのか？

12月25日(木)

12:00-13:00

XOSS POINT.

パネルディスカッション

倉崎 好太郎 (Notaro Kurasaki)

普及啓発

成果報

熊本独自の伴走支援を目的

※参加申込数/事務局除く

会議名等	第1回	第2回	第3回	第4回
研修会	開催日：10/22 現地26名 オンライン1名 (支援先企業2社含む)	開催日：12/25 現地40名 オンライン1名	開催日：2/13 現地39名 オンライン20名	開催日：3/6 オンライン20名

①地域知財経営支援ネットワークの強化 各種会議体の実施内容（特筆ポイントの抜粋）



ちざまるプロジェクト

以下のページから、各種会議体において特徴的なテーマや議題となった内容について抜粋した内容を記載しています

各種会議体における特筆ポイント

各種会議体	特筆ポイント
7/16 第1回地域連携会議	<ul style="list-style-type: none">■ 支援機関の期待役割等■ 伴走支援の支援先企業の選定プロセス・状況
9/3 第1回支援検討会	<ul style="list-style-type: none">■ 伴走支援の進め方■ 各社の伴走支援の支援全体方針（仮案）
10/22 第2回地域連携会議 & 第1回研修会	<ul style="list-style-type: none">■ 第1回分科会の開催
11/19 第2回支援検討会	<ul style="list-style-type: none">■ 伴走支援の支援内容及び進捗共有
12/25 第3回地域連携会議 & 第2回研修会	<ul style="list-style-type: none">■ 各参画機関メンバーにおける支援メニュー・知財関連の取組等の紹介■ 第2回分科会の開催■ ちざまるトーク vol.1の開催
1/19 第3回支援検討会	<ul style="list-style-type: none">■ 各参画機関へのアンケート回答を活用したディスカッション
3/6 第4回支援検討会 & 第4回研修会	<ul style="list-style-type: none">■ 次年度以降の方向性

①地域知財経営支援ネットワークの強化 7/16 第1回地域連携会議

特筆ポイント

- 支援機関の期待役割等
- 伴走支援の支援先企業の選定プロセス・状況



ちざまるプロジェクト

初回である第1回地域連携会議では、①事業概要や全体像、②事業プロデューサーを含む関係者、③伴走支援における支援候補先、の3つについて理解いただくことを目指しました

第1回地域連携会議のタイムテーブル | 7月16日

10:05～	10分	1. 事業概要説明
10:15～	15分	2. 事業プロデューサー（PD）の紹介
10:30～	65分	3. 出席者自己紹介
11:35～	10分	4. 伴走支援の支援先企業の選定状況について
11:45～	10分	5. 質疑応答
11:55～	5分	6. 今後の取組等について

支援機関の期待役割等



ちざまるプロジェクト

参画いただく支援機関の方々に期待する役割やPDチームとの関わり方を以下のとおり想定し、支援ネットワークや伴走支援をより価値のあるものにしたいと考えていました

支援機関の期待役割とアウトカム（1 / 4）

支援機関	期待役割	PDチームとの関わり方	アウトカム（目指したい成果）
九州経済産業局 知的財産室	<ul style="list-style-type: none"> 九州圏内における知財経営の実践企業や支援提供に関する事例の提供、他地域への情報発信を行い、九州全域での知財経営の機運醸成に貢献いただきたい 	<ul style="list-style-type: none"> PDチームメンバー又は事務局として、適宜知財活用に関わる支援プログラムや助成金情報を提供いただきたい 	<ul style="list-style-type: none"> 熊本で創出されたモデルがどのような要因やプロセスで形成されたのかを把握・分析し、九州の各地域で参考事例として活用されている
INPIT本部 INPIT熊本県知財総合支援窓口	<ul style="list-style-type: none"> 既存の知財支援機関との接続により本ネットワークの強化に貢献いただきたい 本事業の伴走支援終了後も、サポートいただきたい 	<ul style="list-style-type: none"> PDチームの一員として、支援先企業の知財活用における実務面でのサポートや知財活用に関わる支援プログラムや助成金情報等を提供いただきたい 	<ul style="list-style-type: none"> 熊本圏域におけるスタートアップ等地域中小企業のほぼ全てと接点を有し（一度は相談を受けて）、各社の身近な相談役となっている
日本弁理士会 九州会	<ul style="list-style-type: none"> 支援先企業の事業領域や課題に応じて専門性を有する弁理士の派遣やスタートアップ等地域中小企業の知財経営に関心のある会員弁理士を巻き込んでいただきたい 	<ul style="list-style-type: none"> PDチームの重要なポジションであるチームリーダー・メンバーとして、経営全般・事業成長における課題・支援ニーズと知財活用をうまく連携していただきたい 	<ul style="list-style-type: none"> スタートアップ等地域中小企業の知財経営支援に明るい弁理士が増え、ネットワーク関係者と密な連携ができています
熊本商工会議所等	<ul style="list-style-type: none"> 知財経営に関心のある会員企業の掘り起こしや地域中小企業における知財経営の機運を醸成に貢献いただきたい 「アツギベンチャー」について、候補先推薦をいただくとともに、PDチームに参画いただきたい 	<ul style="list-style-type: none"> PDチームメンバーとして、経営全般・事業成長に資する助言や会員企業等との協業ニーズ等がある場合にはマッチング等をフォローしていただきたい 	<ul style="list-style-type: none"> 会員企業に対する経営指導・支援の際に知財経営の観点を盛り込んでおり、多くの会員企業が知財経営に関心を持っている
中小機構 くまもと大学連携インキュベータ	<ul style="list-style-type: none"> 中小機構が有するネットワーク等を活用した先進事例情報の提供や本事業における事例・情報の発信等をしていただきたい 	<ul style="list-style-type: none"> PDチームメンバーとして、これまでの関与先企業への支援事例や既存プログラム情報を提供・共有していただきたい 	<ul style="list-style-type: none"> 関与先企業から知財の相談を受けた際に、内容に応じて直接本ネットワークの支援機関の担当者にコンタクトができる

参画いただく支援機関の方々に期待する役割やPDチームとの関わり方を以下のとおり想定し、支援ネットワークや伴走支援をより価値のあるものにしたいと考えていました

支援機関の期待役割とアウトカム（2 / 4）

支援機関	期待役割	PDチームとの関わり方	アウトカム（目指したい成果）
熊本県 商工労働部 産業振興局 産業支援課 産業戦略班	<ul style="list-style-type: none"> 熊本県内における知財経営の実践企業や支援提供に関する事例の提供、県内市町村への情報発信を行い、熊本県全体での知財経営の機運醸成に貢献いただきたい 	<ul style="list-style-type: none"> PDチームメンバーとして、適宜知財活用に関わる支援プログラムや助成金情報等を提供いただきたい 	<ul style="list-style-type: none"> 熊本県のスタートアップ等地域中小企業の支援において知財経営の重要性がより一層に認識され、県内全域での波及を目的とした支援事業などが検討されている
熊本県よろず支援拠点	<ul style="list-style-type: none"> 全国のよろず支援拠点が有するネットワーク等を活用した先進事例情報の提供や本事業における事例・情報の発信等をしていただきたい 	<ul style="list-style-type: none"> PDチームメンバーとして、経営全般・事業成長に資する助言や各種専門家等を紹介いただきたい 	<ul style="list-style-type: none"> 相談者から知財の相談を受けた際に、内容に応じて直接本ネットワークの支援機関の担当者にコンタクトができる
肥後銀行 産業イノベーション推進部 スタートアップ推進室	<ul style="list-style-type: none"> スタートアップ等地域中小企業の資金調達（特に融資）やM&A時の知財の価値評価における評価プロセスや実行に向けた議論をさせていただきたい 	<ul style="list-style-type: none"> PDチームの重要なポジションであるチームリーダー・メンバーとして、経営全般・事業成長における課題・支援ニーズを整理・把握し、資金提供の観点も踏まえて議論のリードや助言をいただきたい 	<ul style="list-style-type: none"> 資金調達における知財等の無形資産の価値評価のプロセスや方法が検討され、知財を活用した資金調達がしやすい環境になっている
肥銀キャピタル 創業支援グループ	<ul style="list-style-type: none"> スタートアップ等地域中小企業の資金調達（特に出資）時の知財の価値評価における評価プロセスや実行に向けた議論をさせていただきたい 	<ul style="list-style-type: none"> PDチームの重要なポジションであるチームリーダー・メンバーとして、経営全般・事業成長における課題・支援ニーズを整理・把握し、資金提供の観点も踏まえて議論のリードや助言をいただきたい 	<ul style="list-style-type: none"> 創業前後から知財を意識したスタートアップ等が増え、その知財を活用した出資による資金調達の方法や評価方法がわかりやすく整理されている
熊本銀行 ソリューション営業部 地域共創・グローバルグループ	<ul style="list-style-type: none"> スタートアップ等地域中小企業の資金調達（特に融資）やM&A時の知財の価値評価における評価プロセスや実行に向けた議論をさせていただきたい 	<ul style="list-style-type: none"> PDチームの重要なポジションであるチームリーダー・メンバーとして、経営全般・事業成長における課題・支援ニーズを整理・把握し、資金提供の観点も踏まえて議論のリードや助言をいただきたい 	<ul style="list-style-type: none"> 資金調達における知財等の無形資産の価値評価のプロセスや方法が検討され、知財を活用した資金調達がしやすい環境になっている

参画いただく支援機関の方々に期待する役割やPDチームとの関わり方を以下のとおり想定し、支援ネットワークや伴走支援をより価値のあるものにしたいと考えていました

支援機関の期待役割とアウトカム（3 / 4）

支援機関	期待役割	PDチームとの関わり方	アウトカム（目指したい成果）
日本貿易振興機構（JETRO） 熊本貿易情報センター	<ul style="list-style-type: none"> JETROが有するネットワーク等を活用した海外展開における知財活用の先進事例情報の提供や本事業における事例・情報の発信等をしていただきたい 	<ul style="list-style-type: none"> PDチームメンバーとして、適宜海外展開に関わる支援プログラムや助成金情報等を提供いただきたい 	<ul style="list-style-type: none"> 熊本のスタートアップ等地域中小企業が海外展開を検討する際の強みの一つとして知財が意識されている
くまもと産業支援財団 起業化支援室	<ul style="list-style-type: none"> 知財経営に関心のある県内企業の掘り起こしや既存の支援先企業における知財経営の機運醸成に貢献いただきたい 	<ul style="list-style-type: none"> PDチームメンバーとして、起業家支援の観点から経営全般・事業成長に資する助言やリレーションを有する企業等を紹介していただきたい 	<ul style="list-style-type: none"> 既存の支援先企業等から知財の相談を受けた際に、内容に応じて直接本ネットワークの支援機関の担当者にコンタクトができる
熊本大学 研究開発戦略本部 ベンチャー推進部門	<ul style="list-style-type: none"> 大学の研究シーズを活用した事業化・スタートアップ立上げにおける知財活用の事例共有や大学関係者に向けた情報発信をしていただきたい 	<ul style="list-style-type: none"> PDチームメンバーとして、支援先企業のニーズに応じて大学研究者を紹介いただきたい 支援手法や知財戦略の考え方を大学側での研究シーズの事業化等の参考にしていただきたい 	<ul style="list-style-type: none"> 大学発スタートアップ等の立ち上げ前後において、知財戦略の検討ができる環境が整い、他の地域における大学のモデルケースとなっている
XOSS POINT.	<ul style="list-style-type: none"> 施設利用者・入居企業に対する情報提供やイベント開催等を通じた本事業及び創出された事例等の発信をしていただきたい 	<ul style="list-style-type: none"> PDチームメンバーとして、起業家支援の観点から経営全般・事業成長に資する助言や各種専門家等を紹介いただきたい 	<ul style="list-style-type: none"> 起業前後の個人・チーム・企業が、事業を始める段階から知財の重要性を理解している
熊本日日新聞 ビジネス開発本部 デジタル・ソリューションビジネス部	<ul style="list-style-type: none"> びふれすやXOSS POINT.の関係者や保有する県内企業との豊富なリレーションを活用したへの情報提供や新聞・ウェブ等メディアを活用したマス層への情報発信をしていただきたい 	<ul style="list-style-type: none"> PDチームメンバーとして、起業家支援やメディアの観点から各種課題に対する助言やリレーションを有する企業等を紹介していただきたい 	<ul style="list-style-type: none"> 熊本県内のあらゆる事業者・支援者が「熊本は知財活用が盛ん」という認識・イメージを持っている状態になっている

参画いただく支援機関の方々に期待する役割やPDチームとの関わり方を以下のとおり想定し、支援ネットワークや伴走支援をより価値のあるものにしたいと考えていました

支援機関の期待役割とアウトカム（4 / 4）

支援機関	期待役割	PDチームとの関わり方	アウトカム（目指したい成果）
熊本県中小企業団体中央会	<ul style="list-style-type: none"> 知財経営に関心のある会員企業の掘り起こしや地域中小企業における知財経営の機運醸成に貢献いただきたい 	<ul style="list-style-type: none"> PDチームメンバーとして、適宜中小企業に関わる支援プログラムや助成金情報を提供いただきたい 	<ul style="list-style-type: none"> 会員企業に対する経営指導・支援の際に知財経営の観点を盛り込んでいただき、多くの会員企業が知財経営に関心を持っている
大熊本証券	<ul style="list-style-type: none"> 無形資産マッチングサービス「iAm（アイアム）」等を通じて、保有する関係者リレーションや支援ノウハウを活用して本ネットワークの強化・活性化に貢献いただきたい 	<ul style="list-style-type: none"> PDチームメンバーとして、経営全般・事業成長に資する助言や「iAm」を通じてリレーションを有する企業等を紹介していただきたい 	<ul style="list-style-type: none"> 事業承継やM&Aの際に知財等の無形資産が適切に評価される環境が整っている
日本政策金融公庫 熊本支店 国民生活事業	<ul style="list-style-type: none"> スタートアップ等地域中小企業の資金調達（特に融資）やM&A時の知財の価値評価における評価プロセスや実行に向けた議論をさせていただきたい 	<ul style="list-style-type: none"> PDチームの重要なポジションであるチームリーダー・メンバーとして、経営全般・事業成長における課題・支援ニーズを整理・把握し、資金提供の観点も踏まえて議論のリードや助言をいただきたい 	<ul style="list-style-type: none"> 本事業で検討された資金調達時の知財等の無形資産の価値評価のプロセスや方法が、全国他地域における先進事例として参考にされている

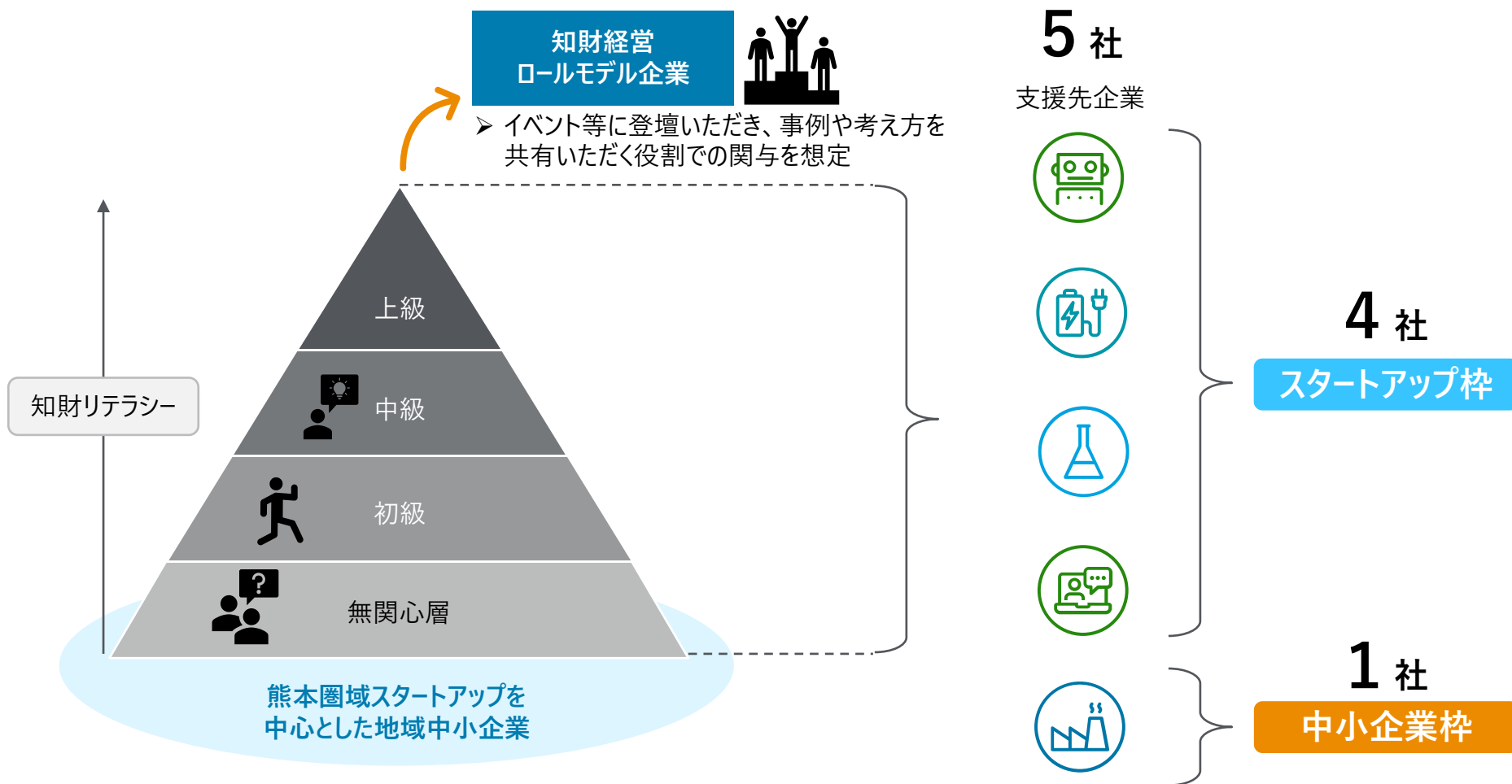
伴走支援の支援先企業の選定プロセス・状況



ちざまるプロジェクト

本事業における伴走支援では、熊本圏域のスタートアップ及び中小企業の中から5社の支援先企業を選定しました

支援先企業の選定



①地域知財経営支援ネットワークの強化 9/3 第1回支援検討会

特筆ポイント

- 伴走支援の進め方
- 各社の伴走支援の支援全体方針（仮案） ※公表版では非公開



ちざまるプロジェクト

各チーム10分程度で支援方針（仮案） について、PDチームリーダーから発表をしていただきました

第1回支援検討会のタイムテーブル | 9月3日

時間	内容	備考	担当
13:30	開始 開会挨拶		<ul style="list-style-type: none"> 司会進行：トーマツ 挨拶：特許庁・熊本市
13:35	本事業及び伴走支援の概要説明	✓ 説明（事業全体像、伴走支援概要、取組シート活用、PDチームリーダー自己紹介等）15分程度	<ul style="list-style-type: none"> トーマツ
13:50	各PDチームの支援方針（仮案）		<ul style="list-style-type: none"> 各PDチームリーダー
	13:50-14:00	✓ 支援先企業）シタテル ※予備：2分	<ul style="list-style-type: none"> PDチームリーダー）小木氏
	14:02-14:12	✓ 支援先企業）CAST ※予備：2分	<ul style="list-style-type: none"> PDチームリーダー）坪内氏
	14:14-14:24	✓ 支援先企業）エシカルプロダクツ ※予備：2分	<ul style="list-style-type: none"> PDチームリーダー）坪内氏
	14:26-14:36	✓ 支援先企業）Uromics ※予備：2分	<ul style="list-style-type: none"> PDチームリーダー）小林氏
	14:38-14:48	✓ 支援先企業）RITAマーケティングパートナーズ ※予備：2分	<ul style="list-style-type: none"> PDチームリーダー）小木氏
14:50	事業PDからのコメント 事務連絡	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 支援方針について触れていただく、5分程度 ✓ 今後のスケジュールや取組に関する連絡・案内、5分程度 	<ul style="list-style-type: none"> 事業PD 小木氏 トーマツ
15:00	閉会		<ul style="list-style-type: none"> トーマツ

伴走支援の進め方



ちざまるプロジェクト

評価項目による定量評価とプレヒアリングで聴取した情報を総合的に加味し、以下の5社をR7年度の支援先企業とし、約半年間（9月～2月）の伴走支援を実施しました

R7年度 支援先企業（5社）

スタートアップ枠

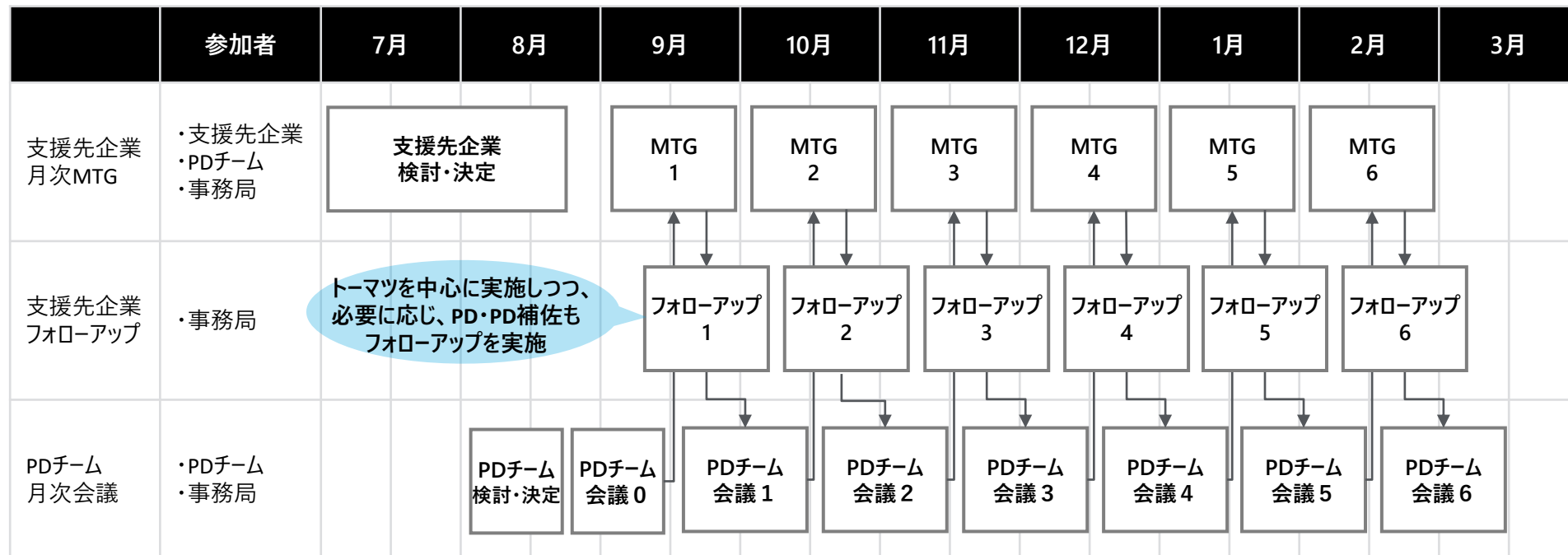
企業名	課題・ニーズ 優先度①	課題・ニーズ 優先度②	課題・ニーズ 優先度③	事業概要	PDチーム リーダー	初回伴走 支援MTG
シタテル株式会社	プロダクト 制作	知的財産	営業	<ul style="list-style-type: none"> 衣服生産のワークフローにおける情報管理と、工場とのコミュニケーションをデジタル化することで「業務の管理・見える化」「取引の効率化」「生産体制の強化によるサプライチェーンの最適化」を可能にするサービスsitateru CLOUDの開発・提供を行う。 	小木 智彦	9月16日(火) 12:00-14:00 @熊本市
株式会社CAST	採用 (人事評価)	知的財産	資金調達	<ul style="list-style-type: none"> 熊本大学の研究成果「ゾルゲル複合体圧電デバイス」技術を活用した、独自の耐熱・フレキシブル・薄型の特徴を有する超音波センサー、また超音波センサーを活用した配管等の厚みを測るモニタリングシステムからなる製品シリーズを展開。 	坪内 寛	9月16日(火) 15:00-17:00 @熊本市
エシカルプロダクツ株式会社	営業	プロダクト 制作 (開発)	資金調達	<ul style="list-style-type: none"> 粒状食品をメインとした、プラントベースフードの企画・開発・製造・販売。動物性原料を使用しない植物由来の食品を主力とし、食事制限がある人・健康志向・環境・宗教等、様々な消費者ニーズに応える商品を展開。 	坪内 寛	9月19日(金) 15:00-17:00 @水俣市
株式会社Uromics	プロダクト 制作	マーケティング	知的財産	<ul style="list-style-type: none"> 血液や尿に含まれている細胞の代謝産物である修飾ヌクレオシド測定で筋肉量測定や生活習慣病評価を行う検査事業、利用者や介護者の負担を減らす検査キットの開発や検査結果の通知・見守り機能のあるアプリケーションの開発を行う。 	小林 誠	9月18日(木) 10:00-12:00 @熊本市

中小企業枠

企業名	課題・ニーズ 優先度①	課題・ニーズ 優先度②	課題・ニーズ 優先度③	事業概要	PDチーム リーダー	初回伴走 支援MTG
株式会社RITAマーケティング パートナーズ	営業	マーケティング	知的財産	<ul style="list-style-type: none"> 契約更新等があるビジネスにおいて、安定EC立上げから運営代行まで実施するEC支援事業を展開。店舗集客からBtoBの問合せ獲得、マーケティング施策の設計提案、LP制作、Web広告の運用など多岐にわたる支援を実施。その他、持続可能な成長につながるふるさと納税支援を行う。 	小木 智彦	9月22日(月) 15:00-17:00 @熊本市

8月中に支援先企業を決定・各社PDチームの編成を行い、支援検討会後速やかに初回PD会議を開催し、9月中旬から伴走支援をスタートしました

伴走支援の全体スケジュール ※9/3時点



伴走支援では、PDチームリーダーが中心となって議論を展開していきつつ、適宜PDチームメンバーの専門性・ネットワークを活用した助言や事務局等によるフォローアップを行いました

伴走支援の進め方／MTG内容及び参加者の役割

●伴走支援MTG内容（各回2時間を想定）

時間	内容	担当
5 min	MTG開始・導入	事務局
20 min	前回の振り返り／進捗・宿題等の確認	PDチームリーダー／事務局
40 min	支援テーマ①に関するディスカッション	参加者全員
40 min	支援テーマ②に関するディスカッション	参加者全員
10 min	次回MTGに向けた課題整理・決定事項・TODOの確認	PDチームリーダー／事務局
5 min	事務連絡・日程調整	事務局

●伴走支援MTG開催方法



対面



オンライン

支援先企業・チームメンバーの要望等を踏まえて、対面・オンライン・ハイブリッド形式で開催しました

参加者	役割・実施事項
支援先企業	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 主担当and/or副担当で対応 ✓ 当日の議論や次回までの宿題などの対応
全体統括	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 事業PDが担う想定 ✓ PDチームメンバーの選定や支援全体の方針検討・進捗状況の確認を実施
PDチームリーダー	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 各社PDチームによる伴走支援の中心的存在として、支援先企業の課題に対する具体的な解決策や支援者・専門家の紹介等を行う
PDチームメンバー	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 自身が有する専門的な知見やネットワークを用いて支援先企業に助言や専門家紹介等を行う ✓ MTG中のみならずMTG前後におけるフォローアップも（状況に応じ、可能な範囲で）行う
事務局） 特許庁・九経局 熊本市	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 知財やスタートアップ等中小企業に関して支援先企業が活用できる支援や助成金といったプログラムを紹介する
事務局） トーマツ	<ul style="list-style-type: none"> ✓ MTGの調整及び司会進行 ✓ 各種情報・資料の事前・事後共有、議事録作成 ✓ 専門的な知見やネットワークを用いて支援先企業に助言等を行う

①地域知財経営支援ネットワークの強化 10/22 第2回地域連携会議 & 第1回研修会

特筆ポイント

- 第1回分科会の開催



ちざまるプロジェクト

地域連絡会議の前半1時間では取組状況や伴走支援等に関する説明・共有、後半1時間は分科会ごとにワークショップを実施、研修会ではセミナー・パネルディスカッションを行いました

第2回地域連携会議のタイムテーブル | 10月22日

時間	内容
14:00	開始 開会挨拶
14:05	本事業の取組状況の説明
14:20	伴走支援の状況共有
14:45	事業PDによるラップアップ
14:55	休憩
15:00	WGの概要説明
15:10	WGごとのディスカッション
15:45	各WGからの発表
15:55	事務連絡
16:00	閉会

第1回研修会のタイムテーブル | 10月22日

時間	内容
16:15	開始 開会挨拶
16:17	概要説明
16:20	セミナー（30分） 講師：事業PD補佐／坪内氏 「スタートアップ等地域中小企業向けの知財経営支援」
16:55	パネルディスカッション（40分） 「熊本におけるスタートアップエコシステムにおける知財経営支援の役割」 ファシリテート：事業PD／小木氏 パネリスト：事業PD補佐／坪内氏、特許庁／荻野氏、根生氏、熊本市／姫野氏
17:40	事務連絡
17:45	閉会
18:15	懇親会

第1回分科会の開催



ちざまるプロジェクト

熊本市として注力していきたい支援領域・テーマごとに分科会を設けて、知的財産を踏まえたコミュニケーションを取っていただくことで、参画機関の皆様の連携・協業のきっかけとしたいと考えています

熊本市として注力していきたい支援領域・テーマ

スタートアップを中心とした地域中小企業

注力していきたい支援領域・テーマ



熊本県・熊本市のセールスポイント
「熊本から世界に挑戦し、グローバルに成長する
大学発などのスタートアップを創出」
(第2期スタートアップエコシステム拠点形成計画より)

熊本県・熊本市のスタートアップ・エコシステム
形成に向けた今後の取組
「vcや金融機関等と連携し、県内のスタート
アップに特化したスタートアップファンドを組成」
(第2期スタートアップエコシステム拠点より)

熊本市「火の国アトツギプロジェクト」では、家
業を活かした新規事業開発やイノベーション創
出に取り組む中小企業等の後継者（候補）
への伴走支援を行い、熊本市のロールモデルと
なるアトツギ（※）の育成を図ります。

【今年度の分科会の目的】

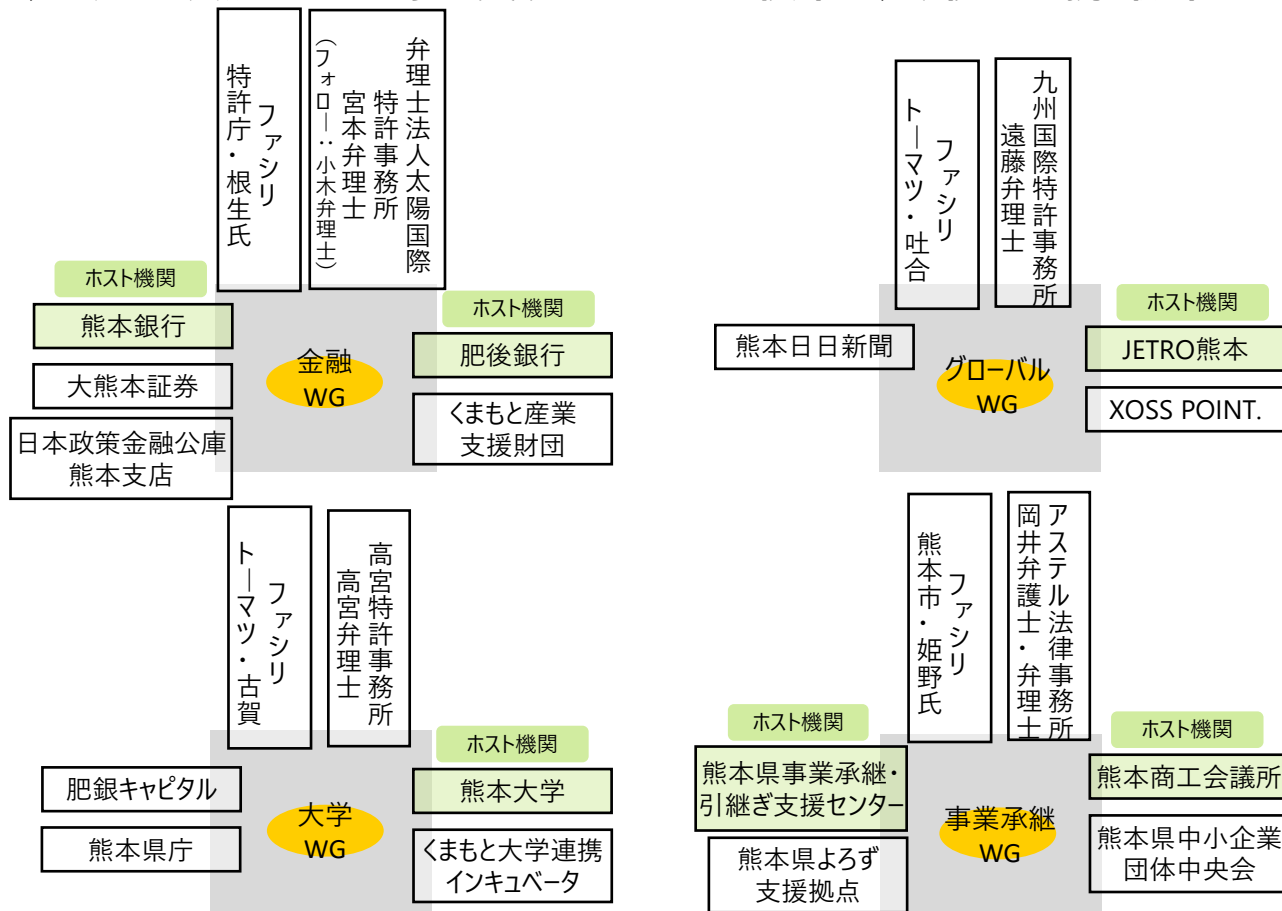
テーマごとに、知財の観点を加える事で実現できることを模索し、今後の連携・協業のきっかけとすること

4つのWGごとにホスト機関を選定し、そのホスト機関が設定した議題に対してWGメンバー同士で意見交換しつつ、弁理士が知財の観点で注意すべき又は貢献できる内容を助言しました

分科会（ワーキング・グループ、WG）の実施内容

【今年度の分科会の目的】

テーマごとに、知財の観点を加える事で実現できることを模索し、今後の連携・協業のきっかけとすること



【オブザーバー】

九州経済産業局 知的財産室

INPIT本部

日本弁理士会

株式会社フィールドワークス

INPIT熊本県知財総合支援窓口

ホスト機関の方々には、分科会における議題を事前に整理・提供いただき、議論の中心として積極的な発言や発表等をお願いしました

担当弁理士及びホスト機関

※敬称略・順不同

テーマ	担当弁理士
金融	日本弁理士会九州会 熊本委員会 副委員長 弁理士法人太陽国際特許事務所 弁理士／中小企業診断士 宮本 美紀氏 （熊本拠点） ※10/22は欠席のため、小木弁理士が代役
グローバル	日本弁理士会九州会 副会長 九州国際特許事務所 知財部 弁理士 遠藤 聡子氏 （福岡拠点）
大学	日本弁理士会九州会 副会長 日本弁理士会九州会 熊本委員会 高宮特許事務所 高宮 章氏 （熊本拠点）
事業承継	日本弁理士会九州会 熊本委員会 委員長 アステル法律事務所 弁護士・弁理士 岡井 将洋氏 （熊本拠点）

テーマ	ホスト機関
金融	肥後銀行
金融	熊本銀行
グローバル	JETRO熊本
大学	熊本大学
事業承継	熊本商工会議所
事業承継	熊本県事業承継・引継ぎ支援センター

ホスト機関への依頼内容と成果報告会での発表までの流れ

●協力依頼内容

- ・ 事前の議題の検討
- ・ 当日ディスカッション時の積極的な発言・話題提供
- ・ 当日ディスカッション後の発表
- ・ 成果報告会での発表

●成果報告会での発表までの流れ

< 地域連携会議②（10月22日） >

- ・ 設定した議題に対して意見交換を進め、今後議論とする内容の方向性検討やそのために各自確認すべき事項の整理

< 地域連携会議③（12月25日） >

- ・ 前回おおむね検討した議論の方向性とそのために各自実施していることを共有し、知財の観点で注意及び貢献できる内容の検討

< 個別ミーティング（1月下旬）※必要に応じて >

- ・ 成果報告会での発表内容を見据えて、これまで議論してきた内容の整理及びブラッシュアップ

< 成果発表会（2月13日） >

- ・ これまで議論してきた内容の発表（5分程度を想定）
- ・ 今後の連携や協業の可能性がありそうであれば、その点についても触れていただく

議論全体のファシリテートは事務局等が実施し、ホスト機関が検討・整理した議題を踏まえて参画メンバーの状況も把握した上で、弁理士から知的財産の観点で意見をいただきました

分科会の進め方のイメージ

時間	内容	内訳	備考	担当
10 min	WGの概要説明	10 min	✓ WGの目的や進め方・ゴールイメージについて説明する	・ トーマツ
35 min	WGごとのワークショップ	10 min	✓ ファシリテーターの事務局がリードしながら、まずホスト機関から事前に検討・整理した議題について説明いただく	・ ファシリ ・ ホスト機関
		10 min	✓ ホスト機関からの議題提供を受けて、その他の参画メンバーから関連する内容について自社の状況に触れながらお話しいただく	・ 参画メンバー
		10 min	✓ 話題に挙げた「課題／やりたいこと／目指す姿」等に対して、知的財産の観点での解決策のアイデアやリスクの可能性について、弁理士からのご意見も交えながらディスカッションいただく	・ 弁理士 ・ ホスト機関 ・ 参画メンバー
		5 min	✓ 2分程度で発表いただく内容の整理と発表者の選定	・ ファシリ ・ 弁理士 ・ ホスト機関 ・ 参画メンバー
10 min	各WGからの発表	10 min	✓ 2分程度／WG。今回のワークショップで議論した内容、今後のTODOや次回ワークショップの際に議論すべき内容について発表	・ ファシリ ・ ホスト機関

①地域知財経営支援ネットワークの強化 11/19 第2回支援検討会

特筆ポイント

- 伴走支援の支援内容及び進捗共有 ※公表版では非公開



ちざまるプロジェクト

冒頭に伴走支援の方向性について説明し、その後は各チーム12分程度で支援内容や状況の共有・ディスカッション、最後に事業PDからコメントをいただきました

第2回支援検討会のタイムテーブル | 11月19日

時間(仮)	内容	備考	担当
10:00	開始 開会挨拶		<ul style="list-style-type: none"> 司会進行：トーマツ 挨拶：特許庁・熊本市
10:05	伴走支援の方向性の説明	✓ ここまでのプロジェクト全体や伴走支援の内容等を踏まえた、本事業及び伴走支援における方向性について	<ul style="list-style-type: none"> トーマツ
10:15	各PDチームの支援内容	説明：8分 + 質疑応答：4分 + 予備：1分 = 13分 / チーム	<ul style="list-style-type: none"> 各PDチームリーダー
	10:15-10:28	✓ 支援先企業) シタテル	<ul style="list-style-type: none"> PDチームリーダー) 小木氏
	10:28-10:41	✓ 支援先企業) CAST	<ul style="list-style-type: none"> PDチームリーダー) 坪内氏
	10:41-10:54	✓ 支援先企業) エシカルプロダクツ	<ul style="list-style-type: none"> PDチームリーダー) 坪内氏
	10:54-11:07	✓ 支援先企業) Uromics	<ul style="list-style-type: none"> PDチームリーダー) 小林氏
	11:07-11:20	✓ 支援先企業) RITAマーケティングパートナーズ	<ul style="list-style-type: none"> PDチームリーダー) 小木氏
11:20	事業PDからのコメント 事務連絡	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 支援内容や方向性について触れていただく、5分程度 ✓ 今後のスケジュールや取組に関する連絡・案内、5分程度 	<ul style="list-style-type: none"> 事業PD 小木氏 トーマツ
11:30	閉会		<ul style="list-style-type: none"> トーマツ

①地域知財経営支援ネットワークの強化 12/25 第3回地域連携会議 & 第2回研修会

特筆ポイント

- 各参画機関メンバーにおける支援メニュー・知財関連の取組等の紹介
 - 第2回分科会の開催
 - ちざまるトーク vol.1の開催



ちざまるプロジェクト

今回の連携会議では各参画機関から支援メニュー・知財関連の取組等の共有、研修会では一般の参加者も加えて支援先企業と事業PDのパネルディスカッションを実施しました

第3回地域連携会議 & 第2回研修会のタイムテーブル | 12月25日

●開催概要

- 開催日時：2025年12月25日(水) 10:00-11:30 / 12:00-13:00
- 会場：くまもと森都心プラザ 6階B会議室 / XOSS POINT.
- 参加者：参画機関メンバー、事務局 ※研修会は一般参加OK

< 第3回地域連携会議 >

10:00～	開会挨拶 & 概要説明
10:10～	各参画機関メンバーにおける支援メニュー・知財関連の取組等の紹介
10:40～	事業PDからコメント
10:45～	分科会②の概要説明
10:50～	WGごとのディスカッション & WGごとの発表
11:30	閉会

< 第2回研修会 >

12:00～	開会挨拶 & 概要説明
12:10～	パネルディスカッション / 支援先企業 × 事業PD
12:55～	事務連絡等
13:00	閉会

知財 熊本市知財経営支援モデル地域創出事業 「ちざまるプロジェクト」

どなたでも参加可能

ランチを食べながらOK!

ちざまるトーク 開催

なぜ今、知財戦略なのか?

12月25日(木)

🕒 12:00-13:00

📍 XOSS POINT.
熊本県熊本市西区春日1丁目14-1 くまもと森都心プラザ2階

GUEST **倉崎 好太郎 氏**
Rotaro kurasaki

なぜ今、知財戦略なのか？

本事業の伴走支援における支援先企業の代表である倉崎氏をお招きし、このタイミングで経営における知財戦略の重要性を感じていた理由等についてもお話ししたいと思います。

フューチャー
ちざまるIP事業プロデューサー
小川 智彦 氏

1997年3月九州学院高等学校卒業、
2001年3月熊本学園大学卒業後、同年4月㈱キューネットに入社、2007年11月個人事業として創業、現在、RITAグループホールディングス株式会社の代表取締役。

各参画機関メンバーにおける支援メニュー ・知財関連の取組等の紹介



ちざまるプロジェクト

支援機関の皆様の「経営支援／取組等」の“見える化”の一環として、経営全般又は事業成長に資する支援と知的財産が「関連する」又は「関わりそうな」取組についての記載・発表をいただきました

ちざまるPJメンバーの経営支援・取組等（記載例）

ちざまるPJメンバー	経営全般又は事業成長に資する支援	知的財産が「関連する」又は「関わりそうな」取組
<p>< 記載例／知財関連機関 > 特許庁</p>	<ul style="list-style-type: none"> 中小スタートアップ、大学等を対象とする審査請求料・特許料（第1年分から第10年分）・PCT国際出願に係る手数料の軽減 「知財経営支援モデル地域創出事業」の実施 「つながる特許庁」の開催 ※本年度九州地域は、令和8年1月19日@鹿児島開催 「知財金融事業」：中小スタートアップの知財・無形資産を活用した経営戦略策定を支援、金融機関による知財を切り口とした事業性評価や顧客ニーズに合わせたソリューション提案を後押し 「産業財産権専門官」：企業や支援機関への説明会・セミナー等の実施 「IP BASE」：スタートアップの知財コミュニティポータルサイトの運営 「VC-IPAS」：ベンチャーキャピタル（VC）への知財専門家派遣 「政府模倣品・海賊版対策総合窓口」：模倣品・海賊版の相談受付 	
<p>< 記載例 > 熊本市 経済観光局 産業部 起業・新産業支援課</p>	<ul style="list-style-type: none"> 中小スタートアップへの伴走支援プログラムの実施 XOSS POINT.での各種セミナー・交流イベントの開催 各種相談窓口の設置 地元企業・大学・支援機関とのネットワーキング 実証実験フィールドの提供 	<ul style="list-style-type: none"> 各種伴走支援事業や相談対応を契機とした知財専門家とのネットワーキング 知財関連セミナーやワークショップの開催
<p>< 記載例 > 有限責任監査法人トーマツ 西日本アドバイザー</p>	<ul style="list-style-type: none"> 中小スタートアップ向けのアクセラレーションプログラムの企画・運営 スタートアップと大企業等とのマッチングを目的としたピッチイベント等の開催 経営方針や事業成長に関わる個社向けの伴走支援 	<ul style="list-style-type: none"> 中小スタートアップ向けの知財ハンズオン支援に関する企画・運営 知財専門家のネットワーク形成に関わる取組 経営支援における知財専門家の招へい

支援機関の皆様の「経営支援／取組等」の“見える化”の一環として、経営全般又は事業成長に資する支援と知的財産が「関連する」又は「関わりそうな」取組についての記載・発表をいただきました

ちざまるPJメンバーの経営支援・取組等（1／7）

ちざまるPJメンバー	経営全般又は事業成長に資する支援	知的財産が「関連する」又は「関わりそうな」取組
九州経済産業局 知的財産室	<p>●チーム伴走型知財経営モデル支援事業 内容：中堅・中小企業・スタートアップに対して、知財及び経営課題に対応できる専門家の支援チームを組成し、各社5回の伴走支援を実施 目的：企業の強み（知的財産）を経営戦略上必要な経営資源として位置づけ、積極的かつ戦略的に活用する「知的財産経営（知財経営）」を企業の経営活動の中に導入し、定着させる https://www.kyushu.meti.go.jp/support2/2506/250613_1.html</p> <p>●地域ブランド「稼ぐ力」育成支援事業 内容：地域ブランド化を目指す団体（商工会議所、自治体、組合等）に対して、地域の特性を生かした商品・サービスのブランドストーリー、デザイン、販売、広報、商標の知財戦略等を検討する専門家伴走支援を実施 目的：地域の「稼ぐ力」を育成すると共に、持続可能な経済成長につながるモデル創出を目指す https://www.kyushu.meti.go.jp/support2/2508/250812_1.html</p> <p>●中小企業等知的財産支援地域地連携促進事業 内容：「①地域ステークホルダーと連携した中小企業等への知的財産支援施策を拡充させる取組」及び「②地域ステークホルダーと連携した中小企業等に対する知的財産支援の先導的な施策を構築する取組」の実施に要する経費を補助 目的：産業支援機関の先導的・先進的な知財支援の取組（アイデア）を地域に定着・発展させ、地域ステークホルダーが連携した効果的な知財支援を実施することで、地域知財エコシステムの構築を目指す https://www.kyushu.meti.go.jp/support2/2506/250611_1.html</p> <p>●知財経営支援ネットワークによる取組 内容：経営指導員向け研修カリキュラムに知財講義を導入（福岡商工会議所全6回） 目的：九州各地の経営指導員に対して、中小企業支援に必要な知的財産の基礎知識と実務対応力を習得させること https://www.kyushu.meti.go.jp/seisaku/titeki/oshirase/251028_1.html</p> <p>●中小企業等向け海外展開・成長分野（水素・バイオ・航空機産業等）等における知財セミナー及びワークショップの実施 目的：地域の中小企業、支援機関及び地方公共団体等の担当者に対して知財リテラシーの向上を図る （例）九州経済産業局×中小機構九州本部×INPIT共催企画 「弁護士・知財の専門家と考えるワークショップ」～企業等に求められる情報管理～ https://www.kyushu.meti.go.jp/event/2506/250630_1.html</p>	

支援機関の皆様の「経営支援／取組等」の“見える化”の一環として、経営全般又は事業成長に資する支援と知的財産が「関連する」又は「関わりそうな」取組についての記載・発表をいただきました

ちぎまるPJメンバーの経営支援・取組等（2／7）

ちぎまるPJメンバー	経営全般又は事業成長に資する支援	知的財産が「関連する」又は「関わりそうな」取組
<p>INPIT本部 INPIT熊本県知財総合支援窓口</p>	<p>< INPIT本部 ></p> <ul style="list-style-type: none"> • INPIT知財総合支援窓口の運営（全国47都道府県に設置） • 産業財産権相談窓口（特許庁庁舎1階に設置した知的財産に関する相談窓口で電話、メール等の対応も可能） • 専門の支援窓口（営業秘密、海外展開、アカデミア、スタートアップの窓口を設置。知財戦略エキスパート（知財戦略に関する高度な専門知識と豊富な知財実務経験を有する支援のスペシャリスト）による支援を実施） • 加速的支援（複数の専門家による1～1年半程度の伴走支援） • 公募型の知財支援事業（iAca、iNat、IPAS） • IPランドスケープ支援事業（市場・事業・知的財産全般等の情報を分析し報告書を提供。公募制・費用無料） • INPIT外国出願補助金（外国出願経費の1/2を補助。上限300万円。公募制） • INPIT事業再編計画支援事業補助金（特定中堅企業者の工業所有権保護・活用の調査経費の1/3を補助。上限650万円） • いんぴっとONE（知財交流を目的としたセミナー、交流会） • グローバル知財戦略フォーラム（経営や知財戦略に関する国内外の最新のトピックを紹介） • J-PlatPatの提供（公報等の基本的な産業財産権情報をインターネット上で無料提供） • 新興国等知財情報データベース、開放特許情報データベース（新興国の知財情報、開放特許情報を無料提供） • 知財マネジメント人材育成教材普及事業、知財人材育成研修（知事人材育成を目的とした研修） • IP ePlat（インターネット上で知財に関するeラーニングができる学習教材の無料提供） • パテントコンテスト・デザインパテントコンテスト（高校、高専、大学、専修の学生に対するパテントコンテスト） <p>< INPIT熊本県知財総合支援窓口 ></p> <ul style="list-style-type: none"> • 各種手続に関する助言（特許・実用新案・意匠・商標等の権利取得に関する手続の支援） • 知財戦略の策定に関する支援（オープン＆クローズ戦略の提案など） • 専門家による個別相談（弁理士、弁護士、ブランド専門家などによる支援） • 電子出願のサポート（窓口を設置した電子出願用端末による出願手続や利用方法） • 補助金や減免制度の紹介・説明（外国出願補助金、出願経費の減免） • その他知的財産に関すること 	

支援機関の皆様の「経営支援／取組等」の“見える化”の一環として、経営全般又は事業成長に資する支援と知的財産が「関連する」又は「関わりそうな」取組についての記載・発表をいただきました

ちごまるPJメンバーの経営支援・取組等（3／7）

ちごまるPJメンバー	経営全般又は事業成長に資する支援	知的財産が「関連する」又は「関わりそうな」取組
<p>日本弁理士会 九州会</p>	<ul style="list-style-type: none"> 弁理士知財キャラバン スタートアップ支援セミナー（年間約10回） 地方自治体等と支援協定 	<ul style="list-style-type: none"> 知的財産に関する無料相談 出願支援制度（出願等の手続に要する費用の一部） 知的財産セミナー 知的財産価値評価（評価人推薦） 知財活用ビジネスプランコンテスト 知的財産活用表彰
<p>熊本商工会議所</p>	<ul style="list-style-type: none"> 経営指導員による企業への巡回や窓口相談（経営計画、資金繰り、労務、税務など経営全般） 補助金・給付金（例：小規模事業者持続化補助金）の活用支援、事業計画書の策定サポート 制度融資（マル経含む）活用による資金調達サポート 高度・専門的な課題解決に向けた専門家派遣 販路開拓に向けた商談会等への出展支援 	<ul style="list-style-type: none"> INPIT 熊本県知財総合支援窓口との連携による知財に関する無料相談会の実施（月1回／第4火曜） 知的財産を生かした新商品開発、ブランド戦略、事業再構築のサポート 知的財産活用に関するセミナーの開催
<p>中小機構 くまもと大学連携インキュベータ</p>	<ul style="list-style-type: none"> 入居企業の伴走支援 地域企業の相談対応 地元企業、大学、支援機関等とのネットワーク構築 	<ul style="list-style-type: none"> INPIT熊本県知財総合支援窓口様との連携による入居者支援（面談、先行技術調査、施策紹介等） 外国出願に伴う、くまもとデザイン協議会様との連携による補助金申請サポート 知財セミナーの開催（弁理士会九州会様との共催） IMによる知財相談対応（随時）
<p>熊本県 商工労働部 産業振興局 産業支援課 産業戦略班</p>	<ul style="list-style-type: none"> 大学の技術シーズ等の社会実装に向けた伴走支援 UXプロジェクトにおける実証実験フィールド、モニター、費用の支援 Pre-UXイノベーションハブでの各種セミナー・交流イベントの開催 開業ワンストップセンターにおける創業支援 中小企業経営幹部向けの講座開設 	<ul style="list-style-type: none"> 各種伴走支援事業や相談対応を契機とした知財専門家とのネットワーキング スタートアップエコシステムにおける知財関連支援機関との連携

支援機関の皆様の「経営支援／取組等」の“見える化”の一環として、経営全般又は事業成長に資する支援と知的財産が「関連する」又は「関わりそうな」取組についての記載・発表をいただきました

ちごまるPJメンバーの経営支援・取組等（4 / 7）

ちごまるPJメンバー	経営全般又は事業成長に資する支援	知的財産が「関連する」又は「関わりそうな」取組
<p>熊本県よろず支援拠点</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 中小企業・小規模事業者の経営課題をワンストップで支援する総合相談機関として、経営戦略策定や売上拡大に向けたマーケティング支援、資金繰り改善・金融機関対応、創業・第二創業支援、DXや業務効率化などの生産性向上を支援 • 知的財産活用や販路開拓、補助金・支援制度の活用提案、INPITや専門家との連携の支援を展開 • 全国本部にて相談事例、成功事例、支援プロセスや成果等を共有し“見える化” 	<ul style="list-style-type: none"> • 商品差別化やブランド力強化を目的として、新商品・サービス開発時のネーミングやロゴに関する商標の確認、デザイン性を有する製品の意匠活用、技術やノウハウの特許・ノウハウ管理への助言 • 知財を用いた競合との差別化戦略の検討 • 模倣品対策や自社独自性の明確化に向けた知財リスク診断、ブランド構築や地域資源活用における知財の位置付け整理、補助金申請時の知財の強み分析 • INPITや弁理士など専門家との連携支援による事業成長に資する知財活用促進
<p>肥後銀行 産業イノベーション推進部 スタートアップ推進室</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 肥銀GAP資金制度 • テックプランター事業 • スタートアップ関連ファンド （ベンチャーファンド3号・ベンチャーシードファンド） • 創業開業プラザ（スタハブくまもと） • 人材支援事業（REVICareer 地域企業経営人材マッチング促進事業） • 人材支援事業（肥銀オフィスビジネス） • 組織構築（肥銀ビジネス教育） 	<ul style="list-style-type: none"> • 肥銀GAP資金制度 • テックプランター事業 • スタートアップ関連ファンド （ベンチャーファンド3号・ベンチャーシードファンド） • 創業開業プラザ（スタハブくまもと）

支援機関の皆様の「経営支援／取組等」の“見える化”の一環として、経営全般又は事業成長に資する支援と知的財産が「関連する」又は「関わりそうな」取組についての記載・発表をいただきました

ちざまるPJメンバーの経営支援・取組等（5 / 7）

ちざまるPJメンバー	経営全般又は事業成長に資する支援	知的財産が「関連する」又は「関わりそうな」取組
肥銀キャピタル 創業支援投資グループ	<ul style="list-style-type: none"> 投資業務 販路拡大（ネットワークの提供）支援 事業計画、資本政策作成、組織体制構築アドバイス 	<ul style="list-style-type: none"> 各種相談対応を機に知財専門家の紹介 競合比較、市場調査 法人設立、資本政策策定支援 補助金申請支援
熊本銀行 ソリューション営業部 地域共創・グローバルグループ	<ul style="list-style-type: none"> 販路先拡大や事業拡大につながるマッチング支援（国内外） 事業計画策定における伴走支援 補助金活用に伴う各種支援 	<ul style="list-style-type: none"> 専門人材、大学等とのマッチング支援 グループ関連会社（コンサルタント・マーケティング・M&A等）を活用した伴走支援
日本貿易振興機構（ジェトロ） 熊本貿易情報センター	<ul style="list-style-type: none"> 熊本発のスタートアップや県内の中小企業の海外展開支援 日系・海外VCやアクセラレータとのネットワークの提供 海外事務所員からの現地の市場や規制についてのブリーフィング 	<ul style="list-style-type: none"> 知的財産に詳しい海外の現地専門家の紹介 海外の知的財産に関わる規制等の情報提供
くまもと産業支援財団 起業化支援室	<ul style="list-style-type: none"> スタートアップ向けピッチイベント「二火会」開催によるビジネスプランの周知支援 成長が見込まれるスタートアップへの投資 サポーターによる経営全般支援 県内外ベンチャーキャピタル（VC）とのコネクティング ものづくり系県内企業とのビジネスマッチング 	<ul style="list-style-type: none"> サポーターによる知財関連セミナーの開催 INPITや県内外弁理士とのコネクティング

支援機関の皆様の「経営支援／取組等」の“見える化”の一環として、経営全般又は事業成長に資する支援と知的財産が「関連する」又は「関わりそうな」取組についての記載・発表をいただきました

ちざまるPJメンバーの経営支援・取組等（6／7）

ちざまるPJメンバー	経営全般又は事業成長に資する支援	知的財産が「関連する」又は「関わりそうな」取組
<p>熊本大学 研究開発戦略本部 ベンチャー推進部門</p>	<ul style="list-style-type: none"> 認定制度:「熊本大学認定ベンチャー」の称号付与による信用力向上支援 施設提供:「インキュベーションラボ」「VBL」等の学内施設や、「くまもと大学連携インキュベータ」（中小機構運営）でのオフィス・ラボ貸与と経営アドバイス 資金・成長支援: GAPファンド（研究開発資金）の提供や、「J-Startup KYUSHU」等への選定支援 人材: クロスアポイントメント制度による研究者・URAの派遣、メンタリング 	<ul style="list-style-type: none"> ライセンス: 大学保有知財のライセンス契約（認定ベンチャーの要件） 戦略・管理: 研究段階からの知財戦略強化、職務発明の管理 契約支援: 共同研究における知財調整、MTA（有体物移転契約）・NDA（秘密保持契約）の締結支援 マッチング: 特許・シーズ集の公開による技術移転促進
<p>XOSS POINT.</p>	<ul style="list-style-type: none"> スモールオフィスの提供 創業支援室の提供 経営・融資等各種相談窓口 特定創業支援等事業 創業Sundayスクール 各種プログラム、セミナーの開催 早期起業家、創業希望者向け伴走支援「クロスアカデミー」 クロスポイントスタートアップ無料相談壁打ちDAY 	<ul style="list-style-type: none"> 知財関連のセミナー開催
<p>熊本日日新聞 ビジネス開発本部 デジタル・ソリューションビジネス部</p>	<ul style="list-style-type: none"> 経産省補助事業熊本版未踏的プロジェクトIPPO コワーキングスペース「びぶれすイノベーションスタジオ」の運営 コワーキングにおけるセミナー、イベント開催 	<p>経産省補助事業熊本版未踏的プロジェクトIPPO（採択者へ知財保護の観点での支援、メンタリング）</p>

支援機関の皆様の「経営支援／取組等」の“見える化”の一環として、経営全般又は事業成長に資する支援と知的財産が「関連する」又は「関わりそうな」取組についての記載・発表をいただきました

ちぎまるPJメンバーの経営支援・取組等（7 / 7）

ちぎまるPJメンバー	経営全般又は事業成長に資する支援	知的財産が「関連する」又は「関わりそうな」取組
熊本県中小企業団体中央会	<ul style="list-style-type: none"> 中小企業組合等が実施する知財活用に係る課題解決のための相談対応 	<ul style="list-style-type: none"> 中小企業組合等が実施する知財活用に係る課題解決のための専門家派遣等の支援 地域商標やその他知財に係る団体（主に事業協同組合等）の設立及び運営支援
大熊本証券	<ul style="list-style-type: none"> 地方証券会社連携コンソーシアムを通じた地域を越えたビジネスマッチング・産学連携支援 一財）地域未来創生機構を介した全国の大学研究機関を通じた技術課題解決 無形資産マッチングサービス（iAm）、INPITとの連携を通じた支援 	<ul style="list-style-type: none"> 産学連携、技術課題解決についてはアップサイクル・プロダクトに関し実績を積む iAm、INPIT連携による知財専門家を交えた支援体制
熊本県事業承継・引継ぎ支援センター	<ul style="list-style-type: none"> 中小企業の事業存続、技術、スキルの継承、サプライチェーンの保持、雇用の確保等を目的に、事業継続のためのサポート（親族内承継、M&A）を実施。 自治体、金融機関、商工団体、各種士業団体等とのネットワーク構築により事業承継にかかる相談者の掘り起こしに注力。 	<ul style="list-style-type: none"> 直接的な知的財産（知的財産権）に対する取組はこれまで実例としては少ないが、地域における企業の存在価値という意味では、これを守るための事業と考えている。 知財に関する知見を深めるために、INPITさまによる勉強会を実施。
日本政策金融公庫 熊本支店 国民生活事業	<ul style="list-style-type: none"> スタートアップ企業への金融支援 スタートアップ企業を対象としたセミナー開催、マッチングイベント等の周知・情報提供及び外部専門家への取次 令和6年6月にスタートアップ支援ポータルサイト「Startup Pop」開設し様々なコンテンツによる情報発信 	<ul style="list-style-type: none"> 知的財産を活用する企業に対しての新規開業・スタートアップ支援資金、資本性ローン等の融資制度による支援 各支援機関、知財専門家と連携した経営支援

第2回分科会の開催



ちざまるプロジェクト

ホスト機関の方々には、分科会における議題を事前に整理・提供いただき、議論の中心として積極的な発言や発表等をお願いしました

担当弁理士及びホスト機関

※敬称略・順不同

テーマ	担当弁理士
金融	日本弁理士会九州会 熊本委員会 副委員長 弁理士法人太陽国際特許事務所 弁理士／中小企業診断士 宮本 美紀氏 （熊本拠点）
グローバル	日本弁理士会九州会 副会長 九州国際特許事務所 知財部 弁理士 遠藤 聡子氏 （福岡拠点）
大学	日本弁理士会九州会 副会長 日本弁理士会九州会 熊本委員会 高宮特許事務所 高宮 章氏 （熊本拠点）
事業承継	日本弁理士会九州会 熊本委員会 委員長 アステル法律事務所 弁護士・弁理士 岡井 将洋氏 （熊本拠点）

テーマ	ホスト機関
金融	肥後銀行
金融	熊本銀行
グローバル	JETRO熊本
大学	熊本大学
事業承継	熊本商工会議所
事業承継	熊本県事業承継・引継ぎ支援センター

ホスト機関への依頼内容と成果報告会での発表までの流れ

●協力依頼内容

- ・ 事前の議題の検討
- ・ 当日ディスカッション時の積極的な発言・話題提供
- ・ 当日ディスカッション後の発表
- ・ 成果報告会での発表 **(パネルディスカッション含む)**

New

●成果報告会での発表までの流れ

< 地域連携会議②（10月22日） >

- ・ 設定した議題に対して意見交換を進め、今後議論とする内容の方向性検討やそのために各自確認すべき事項の整理

12/25

< 地域連携会議③（12月25日） >

- ・ 前回おおむね検討した議論の方向性とそのために各自実施していることを共有し、知財の観点で注意及び貢献できる内容の検討
- ・ 成果報告会での発表内容を見据えて、これまで議論してきた内容の整理及びブラッシュアップ

※必要に応じて、個別ミーティング（1月下旬～2月上旬）を検討

< 成果発表会（2月13日） >

- ・ これまで議論してきた内容の発表（5分程度を想定）とパネルディスカッションを予定
- ・ 今後の連携や協業の可能性がありそうであれば、その点についても触れていただく

12/25の分科会では、10/22の議論内容や各メンバーの支援・取組内容を踏まえて、分科会ごとに来年度以降どんな取組を進めていけそうかの共通イメージを持っていただくことを目指しました

前回10/22の議論内容と今回12/25に議論いただきたい内容

テーマ	議論及び発表された内容 ※議事概要からの抜粋及び一部編集	今回の分科会で議論いただきたい内容
金融	<ul style="list-style-type: none"> 現場の行員まで知財教育をするのは難しく、まずは本部で知識を蓄えていくということだろうと考えている。 知財の価値をビジネスにどう結びつけるか、無形資産の可視化・価値化が重要。まずは自分たちが「知財」をある程度語れるように、理解を深めておくことの必要性を感じた。 	<p>① 前回の議論内容や各メンバーの支援・取組内容を踏まえて、</p> <p>② 分科会ごとに来年度以降どんな取組を進めていくか（どのような取組であれば進めていけそうか）の共通イメージを持ってもらう</p> <p>※今回議論いただいた内容を成果報告会でホスト機関の方々から報告いただく予定</p>
グローバル	<ul style="list-style-type: none"> 支援機関で提供できる情報や得意分野が異なるので、支援機関同士での横のつながりを強化することが重要。 海外展開のハードル（マインドセット含む）、知財出願・活用の現状と課題、支援機関連携の重要性（どの支援機関に連絡したらよいか、企業側がわかっていないケースもある）、我が子を守る武器の一つが知的財産権。 	
大学	<ul style="list-style-type: none"> 研究シーズを知財に結び付けたりと大学内で知財戦略を検討できる人材が不在で、長期的には内部の人材を育成していきたい。 大学発スタートアップの知財戦略、教員・学生の知財意識向上、支援機関との連携（出向・兼業等もあり）。 	
事業承継	<ul style="list-style-type: none"> ここ10年で事業承継の話の中で「特許」「発明」というワードを聞いたことはなかったが、事業者が大切にしているもの自体が知財であると認識した。 事業承継の場面で「知財」という視点を当たり前に入れ込んでいく仕組みづくりが必要。支援機関同士が連携し、知財の発掘・評価・活用を事業承継支援のプロセスに組み込むことで、知財を活用した事業承継が実現できる可能性がある。 	

前回までの議論や各メンバーの支援・取組内容を踏まえて、来年度以降どんな取組を進めていくか（どのような取組であれば進めていけそうか）について議論いただきました

12/25 分科会の進め方

時間	内容	内訳	備考	担当
5 min	WGの概要説明	5 min	✓ WGの目的や進め方・ゴールイメージについて説明する	・ トーマツ
30 min	WGごとのワークショップ	10 min	✓ ファシリテーターの事務局がリードしながら、まずは各メンバーの支援・取組内容についての質疑応答等を行い理解を深める	・ ファシリ ・ ホスト機関
		15 min	✓ 前回までの議論や各メンバーの支援・取組内容を踏まえて、来年度以降どんな取組を進めていくか（どのような取組であれば進めていけそうか）について議論する ✓ 特に、知的財産の専門性を要する内容については担当弁理士の意見もいただきながら進める	・ ファシリ ・ ホスト機関 ・ 参画メンバー ・ 弁理士
		5 min	✓ 1-2分程度で発表いただく内容の整理と発表者の選定	・ ファシリ ・ 弁理士 ・ ホスト機関 ・ 参画メンバー
5 min	各WGからの発表	5 min	✓ 1-2分程度／WG ✓ 今回のワークショップで議論した内容、成果報告会での発表で触れたいポイントについて共有いただく	・ ファシリ ・ ホスト機関

ちざまるトーク vol.1の開催



ちざまるプロジェクト

記念すべき「ちぎまるトーク vol.1」の内容は、伴走支援先企業の代表取締役である倉崎さんと、本ちぎまるプロジェクトの事業プロデューサーを務めている小木さんのパネルディスカッションでした

12/25 第2回研修会（ちぎまるトーク vol.1）

●開催概要

< 第2回研修会（ちぎまるトーク vol.1） >

12:00～ 開会挨拶 & 概要説明

パネルディスカッション／支援先企業×事業PD

12:10～ RITAグループホールディングス 代表取締役 倉崎 好太郎 氏
ちぎまるプロジェクト事業プロデューサー 小木 智彦 氏
テーマ：なぜ今、知財戦略なのか？

12:55～ 事務連絡等

13:00 閉会

知財
熊本市知財経営支援モデル地域創出事業
「ちぎまるプロジェクト」

どなたでも参加可能

ランチを食べながらOK!

ちぎまるトーク 開催

なぜ今、知財戦略なのか？

12月25日(木)

🕒 12:00-13:00

📍 XOSS POINT.
熊本県熊本市西区春日1丁目14-1 くまもと森都心プラザ2階

GUEST
倉崎 好太郎 氏
Rotaro Kurasaki

1997年3月九州学院高等学校卒業、
2001年3月熊本学園大学卒業後、同年4月㈱キューネットに入社、2007年11月個人事業として創業、現在、RITAグループホールディングス株式会社の代表取締役。

なぜ今、知財戦略なのか？
本事業の伴走支援における支援先企業の代表である倉崎氏をお招きし、このタイミングで経営における知財戦略の重要性を感じていた理由等についてもお話ししたいと思います。

フシリテーター
ちぎまるプロジェクト事業プロデューサー
小木 智彦 氏

まずはファシリテーターの小木PDが「知財経営で解決できる経営課題」について説明し、それを踏まえて倉崎社長の考えや実際に取り組んだ内容等について説明しました

開催内容

●小木PDの考える「知財経営で解決できる経営課題」

知財経営で解決できる経営課題

① 価値ある無形資産の認識

強み・世界観・暗黙知・発明等の見える化、企業パーパス等の言語化 によって企業価値向上

コンサル・弁理士

② 知財法務

オープンクローズ管理（秘密情報管理、公開情報管理、知的財産権の権利化と活用、ライセンス、譲渡等）
ライセンス契約書、職務発明規定（インセンティブ・ストックオプション）

弁護士・INPIT・弁理士

③ 売上げ・販路拡大

マーケティング・ビッグデータ活用・グローバル進出

marketer・広告代理店

④ 新商品・新サービスの開発

新商品・新サービス開発、パッケージ開発、ネーミング開発

ブランディング専門家

⑤ ブランディング

商品やサービス・企業の価値を上げたい、離職率を下げたい・良い人材確保をしたい

金融機関・商工会議所

⑥ 他社と提携連携融合したい

オープンイノベーション支援、事業承継、M&A、産学連携

⑦ 経費削減

例:DX化・生成AI・セルフレジなどの知財導入で経費削減

DXコンサル・SDGsコンサル

⑧ SDGs対応

商品やサービスの原材料や製造工程で新技術導入

●RITAグループHDの倉崎社長の発言要旨

- ✓ バランスシート（BS）や決算書に載らない「見えない資産」を育てないと会社の成長がないと考えたため
- ✓ 知財経営は無形資産を棚卸しするところから始める必要があるが、それができている地方の企業が多くない
- ✓ 広告を使わずとも魅力的だと思わせるストーリーやブランドを作れていないと自覚した
- ✓ 伴走支援をきっかけに知財10年ビジョンをチームメンバーで作成した
- ✓ 足し算ではなく「掛け算の経営」をしないと高付加価値な企業にはならないと感じた（顧客リストの共有など）
- ✓ 「まねされたくないことは？」という問いで社内の強みを見える化した

●ちざまるトークvol.1の開催風景



●支援先企業の自主的な情報発信



【前編】

その投資、間違っていないか？決算書に載らない「見えない資産」の価値
<https://youtu.be/urHVoRsirI0?si=pYr2vXnuC2ZkqgWW>



【後編】

経営を加速させる「掛け算」の思考法 | 馬刺し×ペットフードで生まれた相乗効果
<https://youtu.be/cK9MCIHLzXg?si=NezYyHwf7x4T3bg->

①地域知財経営支援ネットワークの強化 1/19 第3回支援検討会

特筆ポイント

- 各参画機関へのアンケート回答を活用したディスカッション



ちざまるプロジェクト

1/19の支援検討会では、9月からスタートした伴走支援の内容や進め方についてチームリーダー等と議論し、伴走支援の質の向上を目指しました

第3回支援検討会 | 1月19日

●開催概要

- ・ 開催日時：2026年1月19日(月) 10:00-11:30
- ・ 会場：オンライン
- ・ 参加者：PDチームリーダー、チームメンバー、事務局

< 第3回支援検討会 >

10:00～ 開会挨拶

10:05～ 本事業及び伴走支援の概要説明

10:10～ 事業PDから本会の実施の意図・趣旨等の説明

10:15～ アンケートで事前回収した質問等を踏まえた議論

(事前質問の例)

「良かったと思う支援内容・手法」「支援の中で難しいと感じたこと」など

※事務局で回答内容を拾いながらチームリーダーにお答えいただくスタイルで実施

11:15～ 事業PDからのコメント、事務連絡等

11:30 閉会

④伴走支援について

33. 【④伴走支援について】
PDチームメンバーとして参加している伴走支援のチームリーダーをお選びください（複数選択可）*

小木PD
 坪内PD補佐
 小林PD補佐

34. 【④伴走支援について】
伴走支援のよかったと思う支援内容・手法をご教示ください

回答を入力してください

35. 【④伴走支援について】
伴走支援で素晴らしいと思う支援内容・手法をご教示ください

回答を入力してください

36. 【④伴走支援について】
なぜそのアプローチをしたのか聞きたい支援内容・手法をご教示ください

回答を入力してください

37. 【④伴走支援について】
伴走支援の中で難しいと感じたことをご教示ください。

回答を入力してください

本事業全体及び事業PD評価の観点について、各支援機関からいただいたアンケートの回答を活用して伴走支援の進め方等について議論しました

回答をお願いしたアンケート概要

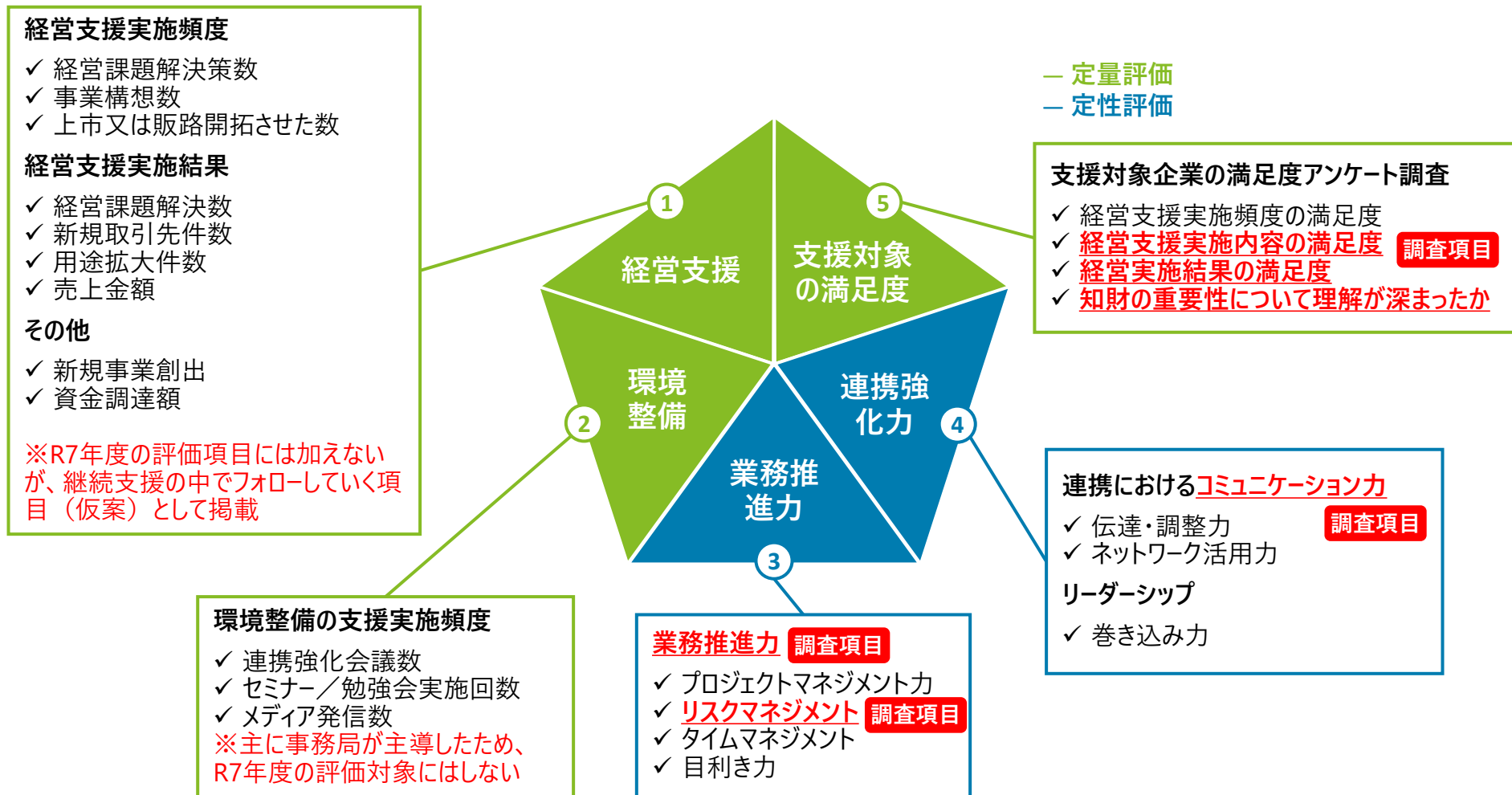
* は必須、それ以外は任意

- ①基本情報
- ①地域知財経営支援ネットワーク
 - 地域連携会議
 - 満足度（1~5点の5段階）*
 - 良い点（記述）
 - 改善点（記述）
 - その他（記述）
 - 研修会・イベント（ちざまるトーク）
 - 参加有無*
 - 満足度（1~5点の5段階）*
 - 良い点（記述）
 - 改善点（記述）
 - その他（記述）
- ②知財マインドの向上・普及啓発
 - メディア等での情報発信
 - 満足度（1~5点の5段階）*
 - 良い点（記述）
 - 改善点（記述）
 - その他（記述）
- ③スタートアップ等地域中小企業への伴走支援
 - 伴走支援への参画有無*
 - 伴走支援
 - 満足度（1~5点の5段階）*
 - 良い点（記述）
 - 改善点（記述）
 - その他（記述）
 - 支援検討会
 - 満足度（1~5点の5段階）*
 - 良い点（記述）
 - 改善点（記述）
 - その他（記述）
 - PDチーム会議
 - 満足度（1~5点の5段階）*
 - 良い点（記述）
 - 改善点（記述）
 - その他（記述）

- ④伴走支援について
 - チームリーダーの選定
 - 小木PD／坪内PD補佐／小林PD補佐*（複数選択）
 - 良かったと思う支援内容・手法（記述）
 - 実施してほしいと思う支援内容・手法（記述）
 - なぜそのアプローチをしたのか聞きたい支援内容・手法（記述）
 - 支援の中で難しいと感じたこと（記述）
- ⑤事業プロデューサー（PD）／小木氏について ※小木さんには直接共有はしません
 - 総評（1~5点の5段階）*
 - 推進力（1~5点の5段階）*
 - コミュニケーション力（1~5点の5段階）*
 - リスクマネジメント力（1~5点の5段階）*
 - ネットワーク構築力（1~5点の5段階）*
 - その他評価する点や改善点すべき点等について（記述）
- ⑥その他
 - ちざまるプロジェクト全体についての感想やコメント（記述）

事業PDの評価基準として①～⑤を候補とした上で、今年度については支援機関メンバーに③・④、伴走支援先企業に⑤について回答いただきました

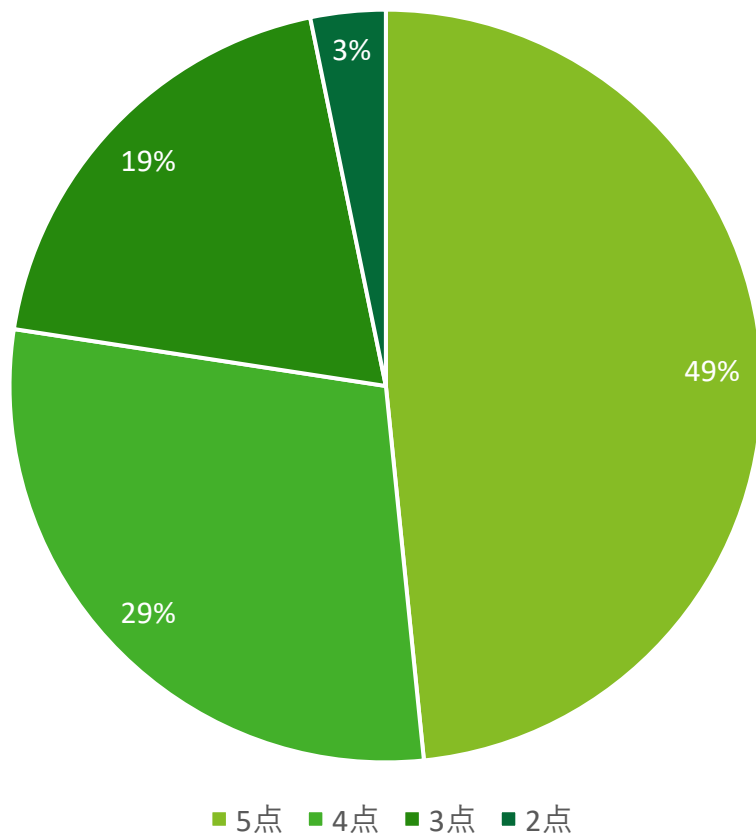
PD活動の評価基準 ※仮案含む



全体統括の位置付けであった事業PD小木氏について、支援機関メンバーからの総合評価及び推進力いずれも8割近くが4-5点と高評価であった

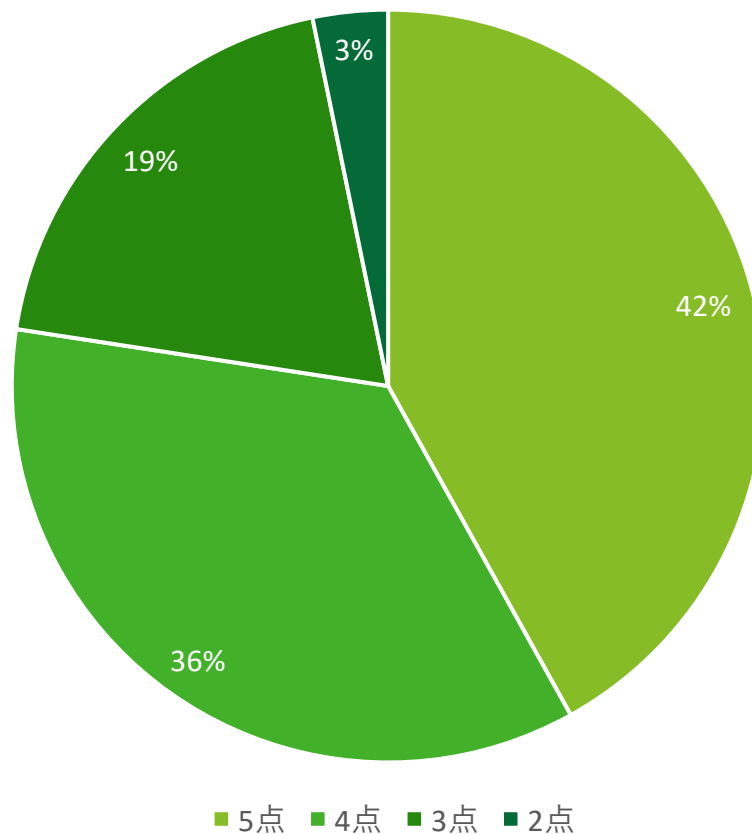
総合評価 (n=31)

事業PD小木氏の総合評価



推進力評価 (n=31)

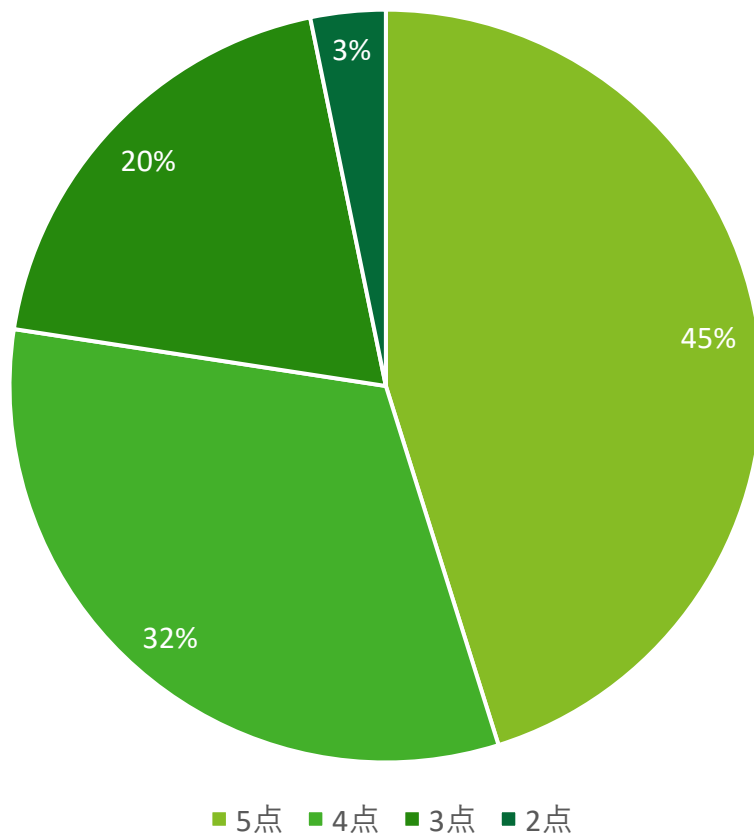
事業PD小木氏の推進力評価



連携強化に不可欠なコミュニケーション力や、全体を取りまとめる上で重要なリスクマネジメント力についても7-8割が4-5点をつけており、軒並み高評価であった

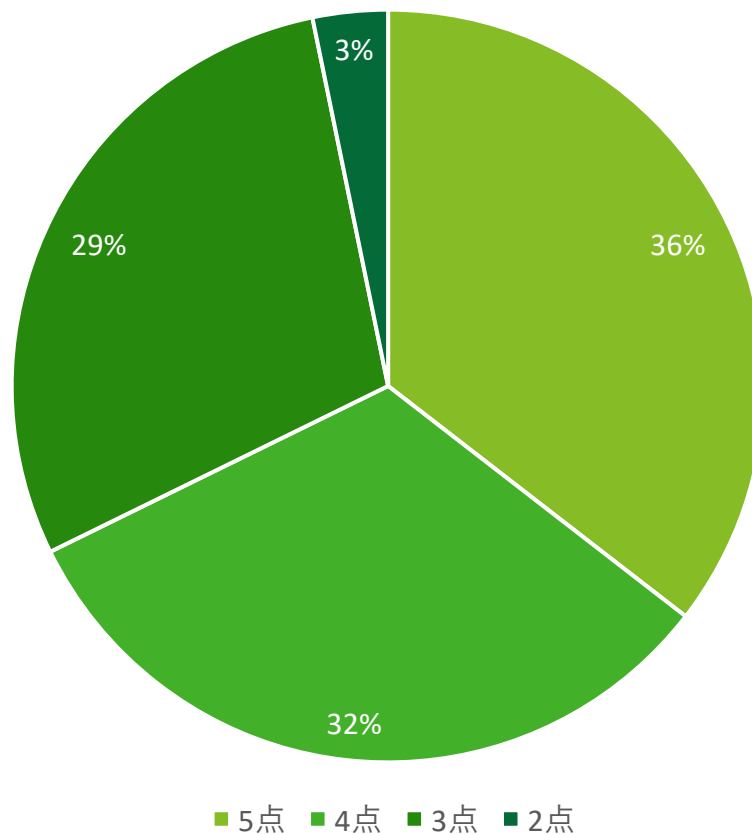
コミュニケーション力評価 (n=31)

事業PD小木氏のコミュニケーション力評価



リスクマネジメント力評価 (n=31)

事業PD小木氏のリスクマネジメント力評価



①地域知財経営支援ネットワークの強化 3/6 第4回支援検討会 & 第4回研修会

特筆ポイント

- ちざまるPJメンバーとのディスカッション ※公表版では非公開



ちざまるプロジェクト

前半の支援検討会④では初年度（1年目）の総括・振り返りと来年度（2年目）に向けた方針共有とディスカッション、後半の研修会④では伴走支援のノウハウと心構え等の共有を行いました

3/6 第4回支援検討会 & 第4回研修会

●開催概要

- ・ 開催日時：2026年3月6日(金) 9:30-12:00
- ・ 会場：オンライン
- ・ 参加者：参画機関メンバー、事務局

< 第4回支援検討会 >

9:30～	開会挨拶 & 概要説明
9:35～	本事業の活動実施概要の説明
9:45～	伴走支援の総括（5チーム×4分）
10:05～	来年度以降の事業方針等について
10:20～	ちぎまるPJメンバーとのディスカッション・質疑応答
10:50～	事業PDから総括
10:55	閉会

- ・ 初年度（1年目）の総括・振り返り
- ・ 来年度（2年目）に向けた方針共有とディスカッション

< 第4回研修会 >

11:00～	開会挨拶 & 概要説明
11:05～	事業PD + PD補佐による伴走支援におけるポイント等の説明
11:50～	質疑応答 & 事務連絡
12:00	閉会

- ・ 伴走支援のノウハウと心構え等の共有

特許庁セミナー in 熊本大学



ちざまるプロジェクト

熊本大学主催で、熊本大学の教職員や学生を対象としつつも、県内大学やちぎまるメンバー、その他関心のある方はどなたでも参加いただけるセミナーの開催を促進しました

特許庁セミナー in 熊本大学

<セミナー内容>

「知的財産とは何か?」「どのような効果や役割があるのか?」といった基礎知識から、大学における研究成果の新たな出口としての「産学連携」や「社会実装」について考えるヒントまで、分かりやすく解説いただきます。

1. 知的財産とは
2. 特許制度の概要
3. 大学における研究成果と知的財産
4. 知財の落とし穴事例

<開催概要>

- ・ 日 時：3月26日(木) 14:00～15:30 / 90分
- ・ 会 場：熊本大学 黒髪キャンパス ベンチャービジネスラボラトリー1階「YUMEPRO BASE」
- ・ 対 象：教職員、研究者、学生など ※県内大学・高専の担当者にも案内
- ・ 参加者：23名
- ・ 参加費：無料
- ・ 主 催：熊本大学 研究開発戦略本部 ベンチャー推進部門

<講師>

- ・ 特許庁総務部普及支援課 支援企画第一係長 荻野 忍 氏
- ・ 特許庁総務部普及支援課 産業財産権専門官 根生 拓弥 氏



周知フライヤー

セミナー資料 (表紙)

②スタートアップ等地域中小企業への伴走支援



ちざまるプロジェクト

共通のフォーマットである「取組シート」を活用して、関係者が情報を整理・確認しやすいようにしつつ、支援先企業のニーズに応じて柔軟に外部専門家をアサインしました

本事業の事業スキーム | 伴走支援

① 地域知財経営支援ネットワークの強化

伴走支援MTG
(現地)



プロデューサー(PD)チーム
事業プロデューサー (PD)
事業PD補佐
運営事務局 etc.

熊本独自の支援ネットワーク形成や伴走支援の成果について発信することを目的に、1-2月頃に開催する

研修会

年4回

熊本知財経営支援ネットワークメンバー(ちどまるメンバー)全員や伴走支援先企業等を対象に、有識者の方の講演などを通じて、知財経営に関する最新情報等をインプットする

② スタートアップ等地域中小企業への伴走支援

PDチーム会議

月1回程度

伴走支援先企業ごとにPDチームを組成し、伴走支援先に対する支援方針や具体的な支援内容などについて、月1回のペースで開催する

③ 知財マインドの向上・普及啓発

成果報告会

年1回

熊本独自の支援ネットワーク形成や伴走支援の成果について発信することを目的に、1-2月頃に開催する

メディア等での情報発信

適宜

熊本市域における知財経営支援ネットワーク強化等の機運を醸成していくためには、潜在層を関心層に引き上げていく必要があるため、メディア等を通じた関連情報の発信を行う



伴走支援MTG
(オンライン)

伴走支援の概要







ちざまるプロジェクト

PDチームリーダーを中心に、知財専門家・金融機関・大学等のチームメンバーやINPIT熊本窓口の方々に加えて、支援ニーズを踏まえた外部専門家も適宜参画して進めました


R7年度 支援先企業（5社）／伴走支援の概要 ※最終版

スタートアップ枠

※敬称略

企業名	課題・ニーズ 優先度①	課題・ニーズ 優先度②	課題・ニーズ 優先度③	PDチーム リーダー	知財 専門家	外部 専門家	チーム メンバー	チーム メンバー	INPIT 熊本窓口	事務局 3者
 シタテル株式会社	プロダクト 制作	知的財産	営業	小木 PD	-	-	肥銀 キャピタル 新宅	-	吉本	<ul style="list-style-type: none"> 特許庁 熊本市 トーマツ
 株式会社CAST	採用 (人事評価)	知的財産	資金調達	坪内 PD補佐	-	-	肥銀 キャピタル 富ヶ原	熊本大学 松浦	吉本	<ul style="list-style-type: none"> 特許庁 熊本市 トーマツ
 エシカルプロダクツ株式会社	営業	プロダクト 制作 (開発)	資金調達	坪内 PD補佐	遠藤 弁理士	岡井 弁護士 ※第4回～	熊本銀行 大畑	-	荒岡	<ul style="list-style-type: none"> 特許庁 熊本市 トーマツ
 株式会社Uromics	プロダクト 制作	マーケティング	知的財産	小林 PD補佐	宮本 弁理士	-	肥後銀行 山本	熊本大学 高見	山内	<ul style="list-style-type: none"> 特許庁 熊本市 トーマツ

中小企業枠

企業名	課題・ニーズ 優先度①	課題・ニーズ 優先度②	課題・ニーズ 優先度③	PDチーム リーダー	知財 専門家	外部 専門家	チーム メンバー	チーム メンバー	INPIT 熊本窓口	事務局 3者
 株式会社RITAマーケティングパートナーズ	営業	マーケティング	知的財産	小木 PD	-	石坂 ブランディング 専門家 ※第5回～	熊本銀行 大畑	熊本商工 会議所 大野 河野	宮崎	<ul style="list-style-type: none"> 特許庁 熊本市 トーマツ

9月上旬からPDチーム会議と伴走支援MTGをそれぞれ毎月1回のペースで開催しており、2月中に全6回の伴走支援MTGが完了しました

R7年度 支援先企業（5社）／伴走支援関連会議

スタートアップ枠

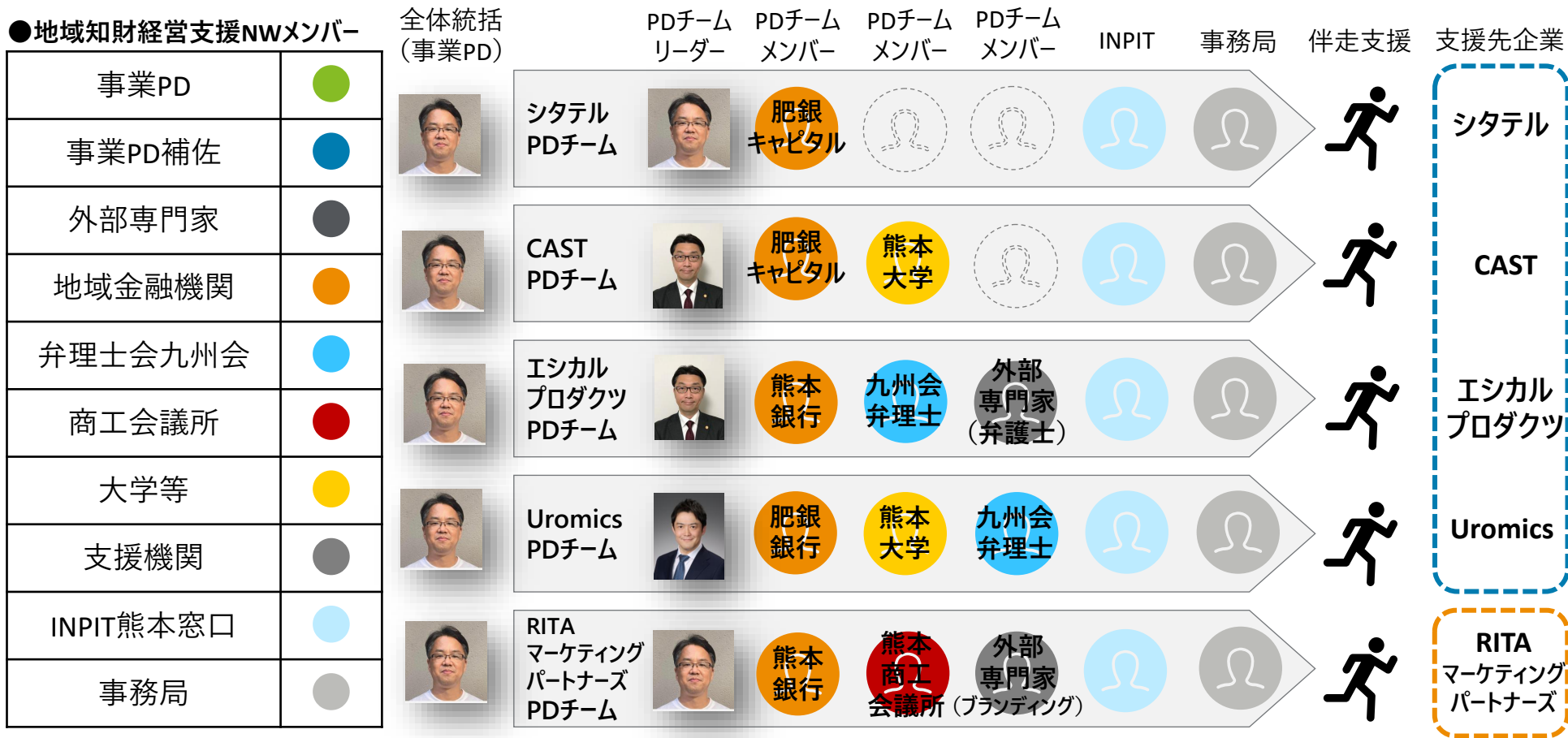
企業名	PDチーム 会議0	伴走支援 MTG1	PDチーム 会議1	伴走支援 MTG2	PDチーム 会議2	伴走支援 MTG3	PDチーム 会議3	伴走支援 MTG4	PDチーム 会議4	伴走支援 MTG5	PDチーム 会議5	伴走支援 MTG6
 シタテル株式会社	9/4	9/16	10/2	10/15	11/11	—	—	—	—	—	—	—
 株式会社CAST	9/4	9/16	10/21	10/29	11/7	11/14	12/15	12/19	1/9	1/15	2/16	2/20
 エシカルプロダクツ株式会社	9/4	9/19	10/14	10/21	11/13	11/21	12/15	12/22	1/15	1/22	2/17	2/24
 株式会社Uromics	9/10	9/18	10/17	10/23	11/14	11/20	12/12	12/18	1/16	1/22	2/9	2/16

中小企業枠

企業名	PDチーム 会議0	伴走 MTG1	PDチーム 会議1	伴走 MTG2	PDチーム 会議2	伴走 MTG3	PDチーム 会議3	伴走 MTG4	PDチーム 会議4	伴走 MTG5	PDチーム 会議5	伴走 MTG6
 株式会社RITAマーケティングパートナーズ	9/5	9/22	10/20	10/28	11/4	11/12	12/2	12/10	1/7	1/13	2/9	2/10

支援先企業の経営課題・事業成長に資する支援ニーズや本事業の趣旨を踏まえ、PDチームリーダー及びPDチームメンバーを検討しました

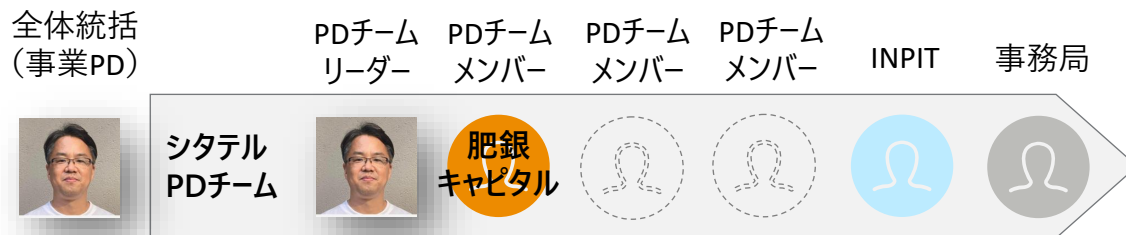
PDチーム編成 ※最終版



※必要に応じて **外部専門家** のアサインしました

チームリーダーの小木氏が弁理士として知財専門家の役割も担い、金融機関からはシタテル社の出資元でもある肥銀キャピタルに参画いただきました

シタテルPDチーム



組織名	部署等	職名	氏名	ふりがな	属性
ソシデア知的財産事務所		代表弁理士	小木 智彦	こぎともひこ	事業PD
肥銀キャピタル	創業支援グループ	マネージャー	新宅 祥平	しんたくしょうへい	金融機関
INPIT熊本県知財総合支援窓口		支援担当者	吉本 隆夫	よしもとたかお	知財経営支援ネットワーク
特許庁	普及支援課	支援企画第一係長	荻野 忍	おぎのしのぶ	事務局
特許庁	普及支援課	産業財産権専門官	根生 拓弥	ねおいたくや	事務局
熊本市	経済観光局 産業部 起業・新産業支援課	参事	坂口 亮	さかぐちりょう	事務局
熊本市	経済観光局 産業部 起業・新産業支援課	主事	姫野 寛司	ひめのかんじ	事務局
有限責任監査法人トーマツ	西日本アドバイザー	シニアマネジャー	田島 大地	たじま だいち	事務局
有限責任監査法人トーマツ	西日本アドバイザー	シニアスタッフ	古賀 正泰	こがまさやす	事務局
有限責任監査法人トーマツ	西日本アドバイザー	シニアスタッフ	吐合 友紀	はきあいとものり	事務局
有限責任監査法人トーマツ	西日本アドバイザー	ジュニアスタッフ	岡崎 早映子	おかざき さえこ	事務局

大学発SU支援に知見のある坪内氏をチームリーダーとし、金融機関からはCAST社の出資元でもある肥銀キャピタルに、熊本大学からも知見共有の位置付けでURAに参画いただきました

CAST PDチーム

全体統括
(事業PD)

PDチーム
リーダー

PDチーム
メンバー

PDチーム
メンバー

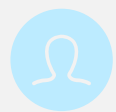
PDチーム
メンバー

INPIT

事務局



CAST
PDチーム



組織名	部署等	職名	氏名	ふりがな	属性
UniBridge知財事務所		代表／弁理士／RTP	坪内 寛	つぼうち ひろし	PD補佐
肥銀キャピタル	創業支援グループ	マネージャー	冨ヶ原 七海	とみがはら ななみ	金融機関
熊本大学	研究開発戦略本部	研究コーディネーター (URA)	松浦 佳子	まつうら よしこ	その他支援機関
INPIT熊本県知財総合支援窓口		支援担当者	吉本 隆夫	よしもと たかお	知財経営支援ネットワーク
特許庁	普及支援課	支援企画第一係長	荻野 忍	おぎのしのぶ	事務局
特許庁	普及支援課	産業財産権専門官	根生 拓弥	ねおいたくや	事務局
熊本市	経済観光局 産業部 起業・新産業支援課	参事	坂口 亮	さかぐちりょう	事務局
熊本市	経済観光局 産業部 起業・新産業支援課	主事	姫野 寛司	ひめのかんじ	事務局
有限責任監査法人トーマツ	西日本アドバイザー	シニアマネージャー	田島 大地	たじま だいち	事務局
有限責任監査法人トーマツ	西日本アドバイザー	シニアスタッフ	古賀 正泰	こが まさやす	事務局
有限責任監査法人トーマツ	西日本アドバイザー	シニアスタッフ	吐合 友紀	はきあい ともり	事務局
有限責任監査法人トーマツ	西日本アドバイザー	ジュニアスタッフ	岡崎 早映子	おかざき さえこ	事務局

坪内氏をチームリーダーとし、弁理士会九州会から遠藤弁理士、金融機関からは熊本銀行に加えて、先方ニーズに応じて第4回からは岡井弁護士・弁理士にも参画いただきました

エシカルプロダクツ PDチーム

全体統括
(事業PD)

PDチーム
リーダー

PDチーム
メンバー

PDチーム
メンバー

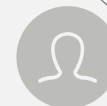
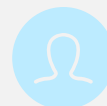
PDチーム
メンバー

INPIT

事務局



エシカル
プロダクツ
PDチーム



組織名	部署等	職名	氏名	ふりがな	属性
UniBridge知財事務所		代表／弁理士／RTPP	坪内 寛	つぼうちひろし	PD補佐
熊本銀行	ソリューション営業部 地域共創・グローバルグループ	主任調査役	大畑 健太	おおはた けんた	金融機関
九州国際特許事務所	知財部	弁理士	遠藤 聡子	えんどう さとこ	知財経営支援ネットワーク
アステル法律事務所	※九州会熊本委員会の委員長	弁護士・弁理士	岡井 将洋	おかい まさひろ	知財経営支援ネットワーク
INPIT熊本県知財総合支援窓口		支援担当者	荒岡 慶志	あらおか けいし	知財経営支援ネットワーク
特許庁	普及支援課	支援企画第一係長	荻野 忍	おぎのしのぶ	事務局
特許庁	普及支援課	産業財産権専門官	根生 拓弥	ねおい たくや	事務局
熊本市	経済観光局 産業部 起業・新産業支援課	参事	坂口 亮	さかぐちりょう	事務局
熊本市	経済観光局 産業部 起業・新産業支援課	主事	姫野 寛司	ひめのかんじ	事務局
有限責任監査法人トーマツ	西日本アドバイザー	シニアマネジャー	田島 大地	たじま だいち	事務局
有限責任監査法人トーマツ	西日本アドバイザー	シニアスタッフ	古賀 正泰	こが まさやす	事務局
有限責任監査法人トーマツ	西日本アドバイザー	シニアスタッフ	吐合 友紀	はきあい ともり	事務局
有限責任監査法人トーマツ	西日本アドバイザー	ジュニアスタッフ	岡崎 早映子	おかざき さえこ	事務局

ヘルスケア領域に知見のある小林氏をチームリーダーとし、弁理士会九州会から宮本弁理士に、金融機関からは肥後銀行に、熊本大学からは契約関係でも窓口になっているURAに参画いただきました

Uromics PDチーム

全体統括
(事業PD)



Uromics
PDチーム

PDチーム
リーダー



PDチーム
メンバー



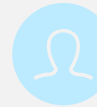
PDチーム
メンバー



PDチーム
メンバー



INPIT



事務局



組織名	部署等	職名	氏名	ふりがな	属性
シクロ・ハイジア		代表取締役CEO	小林 誠	こばやし まこと	PD補佐
肥後銀行	産業イノベーション推進部	推進役代理	山本 晃輔	やまもと こうすけ	金融機関
熊本大学	研究開発戦略本部	研究コーディネーター (URA)	高見 宏美	たかみひろみ	その他支援機関
弁理士法人太陽国際特許事務所		弁理士／中小企業診断士	宮本 美紀	みやもと みき	知財経営支援ネットワーク
INPIT熊本県知財総合支援窓口		支援担当者	山内 信義	やまうち のぶよし	知財経営支援ネットワーク
特許庁	普及支援課	支援企画第一係長	荻野 忍	おぎのしのぶ	事務局
特許庁	普及支援課	産業財産権専門官	根生 拓弥	ねおいたくや	事務局
熊本市	経済観光局 産業部 起業・新産業支援課	参事	坂口 亮	さかぐちりょう	事務局
熊本市	経済観光局 産業部 起業・新産業支援課	主事	姫野 寛司	ひめのかんじ	事務局
有限責任監査法人トーマツ	西日本アドバイザー	シニアマネジャー	田島 大地	たじまだいち	事務局
有限責任監査法人トーマツ	西日本アドバイザー	シニアスタッフ	古賀 正泰	こがまさやす	事務局
有限責任監査法人トーマツ	西日本アドバイザー	シニアスタッフ	吐合 友紀	はきあいともり	事務局
有限責任監査法人トーマツ	西日本アドバイザー	ジュニアスタッフ	岡崎 早映子	おかざき さえこ	事務局

チームリーダーの小木氏が弁理士として知財専門家の役割も担い、同社が会員でもある熊本商工会議所、金融機関からは熊本銀行に、先方ニーズに応じて第5回からは石坂様にも参画いただきました

RITAマーケティング パートナーズPDチーム

全体統括
(事業PD)

PDチーム
リーダー

PDチーム
メンバー

PDチーム
メンバー

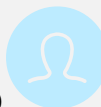
PDチーム
メンバー

INPIT

事務局



RITA
マーケティング
パートナーズ
PDチーム



組織名	部署等	職名	氏名	ふりがな	属性
ソシデア知的財産事務所		代表弁理士	小木 智彦	こぎ ともひこ	事業PD
熊本銀行	ソリューション営業部 地域共創・グローバルグループ	主任調査役	大畑 健太	おおはた けんた	金融機関
熊本商工会議所	経営支援部	部長	大野 清隆	おおの きよたか	知財経営支援ネットワーク
熊本商工会議所	経営支援部 専門指導課	主事	河野 慎太郎	かわの しんたろう	知財経営支援ネットワーク
合同会社Design and Management		Brand Designer, CEO	石坂 昌也	いしざか まさや	外部専門家
INPIT熊本県知財総合支援窓口		支援担当者	宮崎 聖子	みやざき せいこ	知財経営支援ネットワーク
特許庁	普及支援課	支援企画第一係長	荻野 忍	おぎの のぶ	事務局
特許庁	普及支援課	産業財産権専門官	根生 拓弥	ねおい たくや	事務局
熊本市	経済観光局 産業部 起業・新産業支援課	参事	坂口 亮	さかぐち りょう	事務局
熊本市	経済観光局 産業部 起業・新産業支援課	主事	姫野 寛司	ひめの かんじ	事務局
有限責任監査法人トーマツ	西日本アドバイザー	シニアマネジャー	田島 大地	たじま だいち	事務局
有限責任監査法人トーマツ	西日本アドバイザー	シニアスタッフ	古賀 正泰	こが まさやす	事務局
有限責任監査法人トーマツ	西日本アドバイザー	シニアスタッフ	吐合 友紀	はきあい ともり	事務局
有限責任監査法人トーマツ	西日本アドバイザー	ジュニアスタッフ	岡崎 早映子	おかざき さえこ	事務局

基本情報である企業概要やビジネス面・知財面の現状分析を踏まえた支援全体方針や各回の支援の記録を「取組シート」を用いて管理し、関係者間で共有しました

伴走支援の進め方／取組シートの活用

1 【企業概要】

事前調査・ヒアリング等の内容を記載

- ・ 基本情報：企業名、所在地、ウェブサイト、連絡担当者、従業員数、資本金、設立、業種、売上高、売上高／従業員数（任意）
- ・ 知財情報：特許権、実用新案権、意匠権、商標権（必要に応じて出願状況なども追加）
- ・ 事業概要：主要事業の概要、新規事業等の概要
- ・ 企業側の課題認識：現在抱える経営課題、知財面の課題、希望する支援、関心のあるテーマ
- ・ その他：支援参加者、専門家活用経験、経済産業省・INPIT等の支援経験有無 など

2 【ビジネス・知財の現状分析】

事前調査・ヒアリング等の内容を記載

- ・ 【ビジネス面】事業戦略の確認：ターゲット顧客（顧客像、ニーズ等）、ビジネスモデルの現状と課題、関係者との相関図（仕入先、販売先等）、主な仕入先、主な販売先、競合他社・製品
- ・ 【知財面】知財戦略の確認：知財保護・活用の方向性の現状と課題、権利化と営業秘密管理の方針確認、権利関係の整理、競合優位性が高い要素の抽出（＝知財の棚卸：技術、ブランド、製造方法等）
- ・ ヒアリング内容の深掘り：「現在抱える経営課題」の深掘り、「知財面の課題」の深掘り
- ・ 分析結果サマリー：優先課題の特定、優先課題に対する対応策の特定、支援の方向性の特定

3 【支援全体方針】

PDチーム編成後に記載

- ・ 重点実施項目：対象とする優先課題（2-3課題を列挙）、それぞれの課題の内容及び対応策
- ・ 知財経営の定着に向けた取組方針・ポイント（中長期）
- ・ 支援内容：今期の支援テーマ、支援における目標、目標達成に向けたスケジュール、支援体制
- ・ 支援キーワード：2つ程度選定（例：知財戦略、ブランディング）

4 【伴走支援記録】

各伴走支援実施後に記載

- ・ 支援実施概要：実施日時、場所、参加者（支援先企業、PDチーム、その他）、今回の支援テーマ、主なアジェンダ
- ・ 支援内容：実際の支援内容・協議内容・決定事項の記録、備考
- ・ 次回に向けたアクション：次回日程（予定）、次回支援内容（予定）、次回までのTo Do（支援先企業、PDチーム）とその期日
- ・ 個別フォロー：実施日、対応者、内容
- ・ 【最終回】成果の確認と今後の方向性：伴走支援成果の確認、今後の方向性の確認

基本情報である企業概要やビジネス面・知財面の現状分析を踏まえた支援全体方針や各回の支援の記録を「取組シート」を用いて管理し、関係者間で共有しました

伴走支援の進め方／取組シートのイメージ

【取組シート】①企業概要

1. 基本情報

企業名	
所在地	
ウェブ	
連絡担当者	所属： 氏名： Email：
従業員数	
資本金	
設立	
業種	
年間	2021年：円 2022年：円 2023年：円
売上高/ 従業員数	2023年：従業員1人当たり

2. 知財情報

特許権	X件
実用新案権	X件
意匠権	X件
商標権	X件

※記入がない場合は「なし」にて出願状況などを追加

令和7年度熊本市知財経営支援モデル地域創出事業 3

【取組シート】③支援全体方針

1. 重点実施項目

優先課題1

課題のテーマ	
課題の内容	
課題への対応策	

優先課題2

課題のテーマ	
課題の内容	
課題への対応策	

優先課題3

課題のテーマ	
課題の内容	
課題への対応策	

2. 知財経営の定着に向けた取り組み方針・ポイント（中長期）

ポイント1	
ポイント2	

3. 支援内容（今期）

支援テーマ	
支援における目標	
目標達成に向けたスケジュール	
支援体制	

4. 支援キーワード

（ご参考）支援キーワード例

事業系	知財系
事業戦略	特許戦略
事業開発	営業秘密保護
製造工程改善	技術ブランド化
営業戦略	強みの見える化
海外展開	ブランドデザイン
販売戦略	新商品開発
差別化戦略	特許情報活用
社内体制整備	IPマネジメント
ブランディング	IPマネジメント
IPマネジメント	IPマネジメント

※こちらに記載のないキーワードを設定いただいても構いません

令和7年度熊本市知財経営支援モデル地域創出事業 12

【取組シート】②ビジネス・知財の現状分析

1. 【ビジネス面】事業戦略の確認

ターゲット顧客の確認（顧客像、ニーズ等）	
ビジネスモデルの現状と課題	
関係者の整理図（仕入れ先、販売先等）	
主な仕入れ先	
主な販売先	
競合他社・製品	
その他（事業戦略関連）	

2. 【知財面】知財戦略の確認

知財保護・活用の方性の現状と課題	
権利化と高価値管理の方針確認	
権利管理の課題	
特許の活用性が高いと思われる特許の抽出	
特許の活用方法：販路・人材：その他！	
その他（知財関連）	

事前ヒアリング結果を入力

令和7年度熊本市知財経営支援モデル地域創出事業 9

【取組シート】④伴走支援記録（第1回）

1. 支援実施概要

実施日時	2024年○月○日（○）XXXX-XXXX
場所	
参加者	支援企業： 支援チーム： その他：
今回の支援テーマ	
主なアジェンダ	

2. 支援内容

支援・協議内容	
決定事項	
その他備考	

第1回伴走支援後に入力

令和7年度熊本市知財経営支援モデル地域創出事業 14

伴走支援では、PDチームリーダーが中心となって議論を展開していきつつ、適宜PDチームメンバーの専門性・ネットワークを活用した助言や事務局等によるフォローアップを行いました

伴走支援の進め方／MTG内容及び参加者の役割

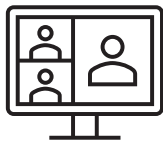
●伴走支援MTG内容（各回2時間を想定）

時間	内容	担当
5 min	MTG開始・導入	事務局
20 min	前回の振り返り／進捗・宿題等の確認	PDチームリーダー／事務局
40 min	支援テーマ①に関するディスカッション	参加者全員
40 min	支援テーマ②に関するディスカッション	参加者全員
10 min	次回MTGに向けた課題整理・決定事項・TODOの確認	PDチームリーダー／事務局
5 min	事務連絡・日程調整	事務局

●伴走支援MTG開催方法



対面



オンライン

支援先企業・チームメンバーの要望等を踏まえて、対面・オンライン・ハイブリッド形式で開催しました

参加者	役割・実施事項
支援先企業	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 主担当and/or副担当で対応 ✓ 当日の議論や次回までの宿題などの対応
全体統括	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 事業PDが担う想定 ✓ PDチームメンバーの選定や支援全体の方針検討・進捗状況の確認を実施
PDチームリーダー	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 各社PDチームによる伴走支援の中心的存在として、支援先企業の課題に対する具体的な解決策や支援者・専門家の紹介等を行う
PDチームメンバー	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 自身が有する専門的な知見やネットワークを用いて支援先企業に助言や専門家紹介等を行う ✓ MTG中のみならずMTG前後におけるフォローアップも（状況に応じ、可能な範囲で）行う
事務局） 特許庁・九経局 熊本市	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 知財やスタートアップ等中小企業に関して支援先企業が活用できる支援や助成金といったプログラムを紹介する
事務局） トーマツ	<ul style="list-style-type: none"> ✓ MTGの調整及び司会進行 ✓ 各種情報・資料の事前・事後共有、議事録作成 ✓ 専門的な知見やネットワークを用いて支援先企業に助言等を行う

伴走支援記録

【最終回】成果の確認と今後の方向性

伴走支援の成果	<ul style="list-style-type: none"> プラットフォームビジネスを展開しており、他社の模倣を避けたいと考えていた。そこで、特許出願が有効であると考えていたが、どのような特許が取得できるのか、特許取得の効果や限界を理解いただいた。 その上で、自社の知的財産としては、ビックデータが重要であることを認識していただき、ビックデータを活用した価値向上や、強みについて検討することが有効であるという認識を得ることができた。
成果につながったポイント	<ul style="list-style-type: none"> 特許出願に固執することなく、プラットフォーム全体における自社の知的財産は何かという議論をしっかり行うことで、ビックデータの重要性に気が付いたのではないかと。 一方で、プラットフォームビジネスの特許取得について、AIやビジネスモデルを含めて、広く深く議論した。自分たちが特許出願した場合に、どのような効果と限界があるか深く理解できたと考えられる。
今後の方向性の確認	<ul style="list-style-type: none"> 現在、発明発掘を中断しているが、特許出願を検討する場合は、都度、支援していきたい。
その他備考	

伴走支援記録

成果の確認と今後の方向性

伴走支援の成果	<ul style="list-style-type: none"> エンジニア等の開発者の評価制度を整理・検討し、開発者の評価と会社への貢献を可視化したシンプルな制度の骨格作りができた 発明者への報償について支援チームとの議論を重ねたことで、支援先企業にとって納得感ある制度ができた 当初は「ビジネスモデルの検討」「人事評価制度の検討」の2テーマで支援を開始したが、支援先企業とも協議して支援中盤以降は後者に絞って支援したことで、限られた期間と回数の中で一定の成果につなげることができた
成果につながったポイント	<ul style="list-style-type: none"> 支援先企業の要望を確認しつつ支援の方向性を適宜微修正したことで、効果的な伴走支援ができた 支援チームメンバーそれぞれの強み・得意領域を踏まえた上で情報提供や議論の時間を適時設けることができた（例：肥銀キャピタル・富ヶ原氏「ビジネスモデル事例・評価」、熊大・松浦氏「職務発明規程」、INPIT吉本氏「職務発明（相当の利益）」など） これまで支援先企業が優先度を上げて着手できずにいた評価制度の構築について、本支援を通じたTODOのフォローアップや継続的な議論をしたことで、一定の成果につなげることができた
今後の方向性の確認	<ul style="list-style-type: none"> 知財戦略を検討するための社内会議体を設計・設置する方針 IPランドスケープ支援事業（令和8年度公募）の情報収集を行い、活用を検討する
その他備考	

伴走支援記録

成果の確認と今後の方向性

<p>伴走支援の成果</p>	<p>■ 強みの可視化： 産業技術センターに協力を仰ぎつつ自ら試験データを取得。高塩分濃度下における膜強度等の客観的データを取得し、他社製品との比較した優位性を可視化中。</p> <p>■ 契約の適正化： 弁護士の助言を踏まえ、NDAのひな形を整備。NDA以外の契約についても、その必要性や締結のタイミング等を共有。</p> <p>■ 営業秘密の管理： レシピの秘匿や見学時の制限など、ノウハウ保護に向けた情報管理の重要性を認識。具体的運用に向けた助言を提供。</p> <p>■ 調査手法の理解： J-PlatPatを用いた特許調査を経験。開発を効率化するスキルの習得を目指した。</p>
<p>成果につながったポイント</p>	<p>■ 専門家による多角的支援： 弁理士、弁護士、銀行、INPIT、産業技術センター、等が連携し、法務・知財・事業面から実践的な助言を提供できた。</p> <p>■ 情報管理手法の指導： 見学ルートの制限や開示情報の選別など、実務に直結する具体的な情報漏えい対策を助言した。</p> <p>■ 主体的な行動の促進： 支援機関が代行するのではなく、支援先が自ら測定機器を操作して試験を実施するなど、実践的な場を設けた。</p>
<p>今後の方向性の確認</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 自社製造か製造委託か等の事業モデルを明確化していく。 ✓ 取引先との基本契約締結と特許調査の継続実施をおこなう。 ✓ 熊本銀行等を活用したマッチングや販路拡大を検討する。
<p>その他備考</p>	

伴走支援記録

成果の確認と今後の方向性

伴走支援の成果	<ul style="list-style-type: none"> 創業初期のタイミングで、事業化に向けたプロダクト開発・サービス展開の方向性やその際に知財面で留意すべきポイントについて整理をすることができた 今後のサービス展開を見据えた実証実験の実施に向けて、定期的な伴走支援MTGによる状況確認やビジネス面を考慮した実証内容の設計（アンケート項目の検討など）を行ったことにより、短期間でのサンプル検査キットの制作や実証実験の成功につながった 大学発スタートアップとして、大学との共同契約を行っていくに当たって、企業及び大学の両方の側面から共同研究契約及び新規ライセンスの譲渡条件・対価設定（ストックオプションの付与条件等）について協議し、方向性を見出すことができた
成果につながったポイント	<ul style="list-style-type: none"> 当初より知財面（例：特許出願等）だけではなく、経営全般及びプロダクト開発・サービス展開についても議論・方向性を議論していたことにより深い事業理解や伴走支援先との信頼関係構築につながった。 また、深い事業理解やサービス展開を想定できていたことにより、事業の各所における攻めと守りの知財について議論することができた 共同研究契約等の議論については、永芳氏が当該法人のメリットだけではなく、大学側や今後の大学発スタートアップの立場で客観的な意見を持っており、かつ大学側の担当URAの高見氏と良好な関係性を構築していたことにより、短期間でありがた効率かつ効果的な議論を行うことができた
今後の方向性の確認	<ul style="list-style-type: none"> 実証実験の結果を踏まえた、県内外企業との連携可能性の検討 大学側でのライセンス条件等に関する覚書案のブラッシュアップ
その他備考	

伴走支援記録

成果の確認と今後の方向性

伴走支援の成果	<ul style="list-style-type: none"> • 主に馬刺しとペットフードのEC販売の経営課題を支援した。 • 今後10年の事業成長に必要なこととして、足し算の経営ではなく、掛け算の経営をしていきたいということ。 • そのキーとなる考え方が知財であるとして、更なる売上拡大をどうすれば実現できるかを議論した。 • 売上を伸ばすためのマーケティングに関しては実績があったが、ブランディングに対する素養が弱かったため、ブランディングの専門家にブランディングの考え方と、支援企業の状況をどう分析して、考えていくか、他社事例を参考に説明してもらった。 • さらに、具体的にどのような行動をすればよいか、一例を挙げてもらった。 • 今回の支援で、自社でどのようにブランディングを行っていけばよいかのヒントは捉えたように感じられた。
成果につながったポイント	<ul style="list-style-type: none"> • 社長を中心に社員全員で本気で経営課題に考えていく姿勢が感じられた。
今後の方向性の確認	<ul style="list-style-type: none"> • 伴走支援を通じて、「リブランディング」という観点で具体的なアクションやマイルストーンを決めることができたため、まずは自社のリソース・ペースでアクションを行っていく。 • 必要に応じて知財専門家等にも相談していきたい。
その他備考	

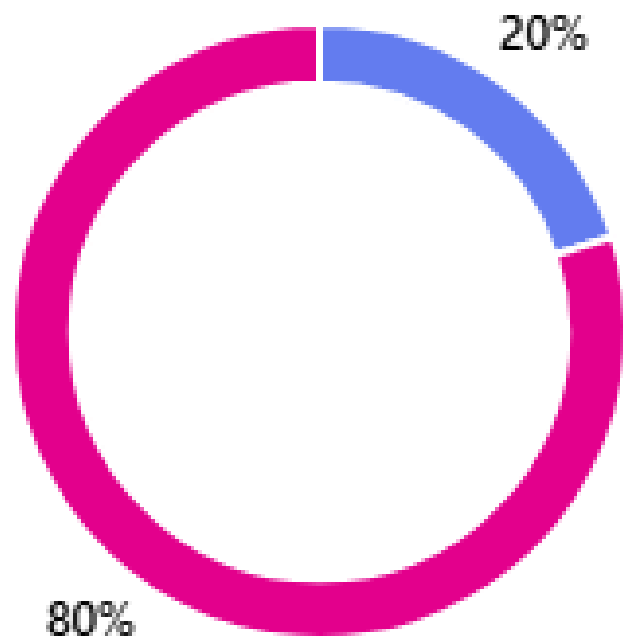
支援先企業アンケート結果



ちざまるプロジェクト

支援先企業 5 社全てから、「満足している」以上の評価をいただきました

伴走支援全体に関する満足度を教えてください

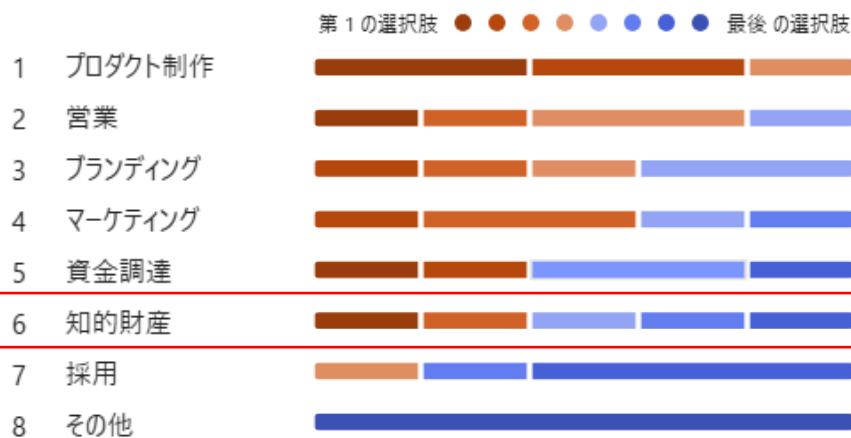


● 非常に満足している	1
● 満足している	4
● 満足していない	0
● 全く満足していない	0

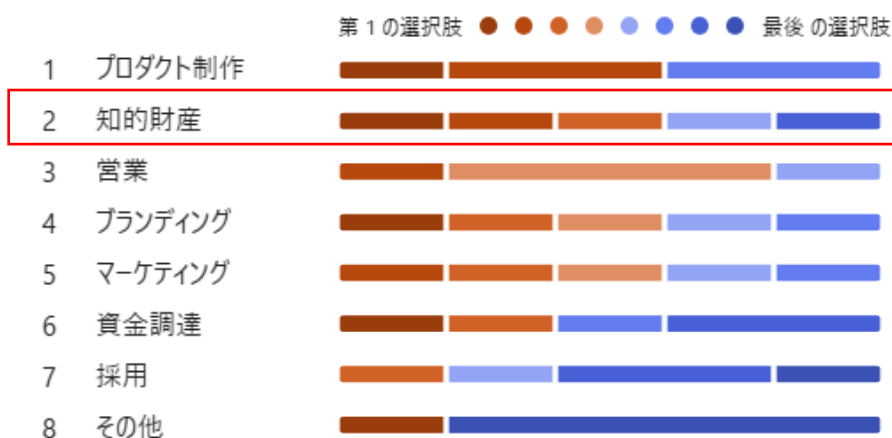
知財は、経営全般及び事業成長における課題として、伴走支援を受ける前は「6番目」でしたが、伴走支援後は「2番目」まで上昇しました

知財を「資金、人材と同じように経営資源のひとつ」と捉えた上で、経営全般及び事業成長における課題として重要視していた／している項目を高い順に並べ替えてください（1高い～8低い）

伴走支援を受ける「前」の時点



伴走支援を受けた「後（現時点）」



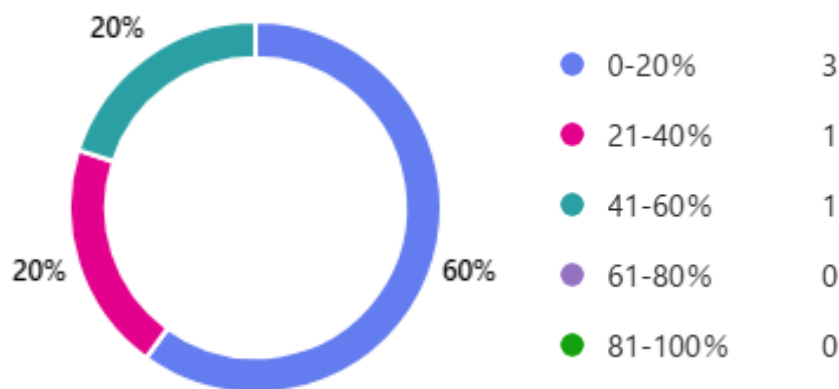
< 支援先からのコメント >

- ✓ 本プロジェクトによる伴走支援によりビジネスモデルが具体化され、プロダクト制作が想定より早く進捗したため
- ✓ 全て重要な項目ではあるが、資金調達、マーケティングをうまく進めるために、知財戦略を明確に持つべきだと感じた
- ✓ 権利を守ることばかりが知財と捉えていましたが、自社では気が付けなかった人財やノウハウ、情報なども知財であることに気づき、知財を生かした事業戦略を考えるようになったからです。

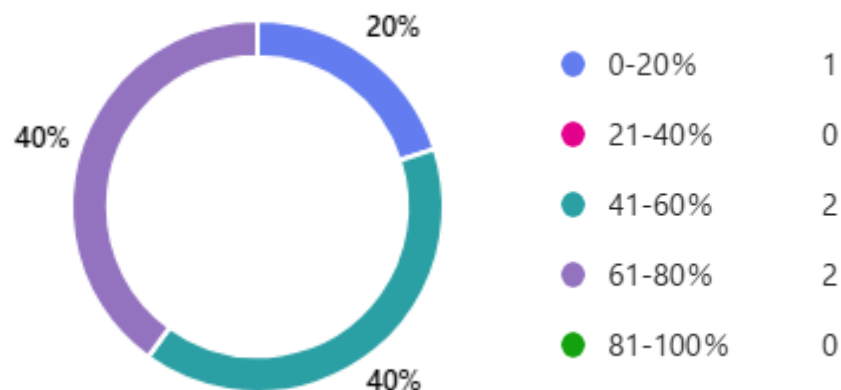
知財が経営課題の解決に重要だという認識について、伴走支援を受ける前は「0-20%」が多数を占めていましたが、伴走支援後は全体的に「41-60%」「61-80%」に上昇しました

どのくらい知財が経営課題の解決に重要だと認識していましたか／できました？（5段階評価）

伴走支援を受ける「前」の時点



伴走支援を受けた「後（現時点）」

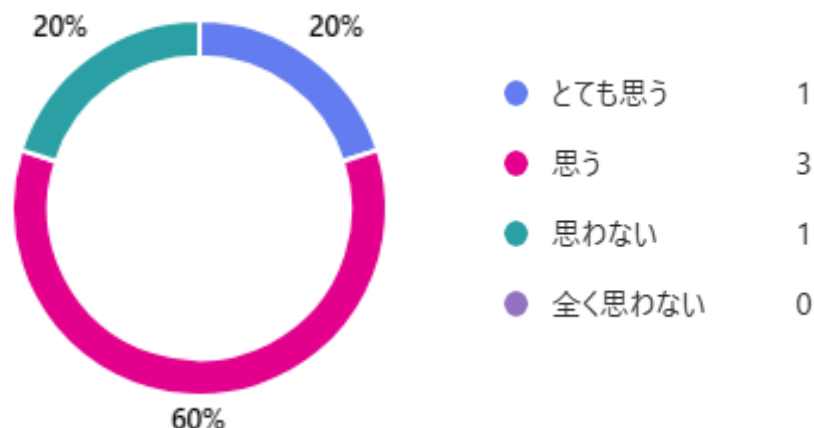


<支援先からのコメント>

- ✓ 研究開発のみならず、多くの部分（商標やシステムなど）も知財と関連することを本プロジェクトで学んだから
- ✓ 元々特許出願の経験はあり、その大変さや費用面について知っているだけに後回しに考えていた。
- ✓ 事業発展のためにも知財の活用や保護等について十分に検討し権利化が必要と判断すれば計画的に権利化を進めていく必要があると思ったため。

支援先企業の大多数が、限られたリソース（お金・時間）を使ってでも「経営全般及び事業成長における課題」における知財の支援を受けたいと回答しました

限られたリソース（お金・時間）を使ってでも「経営全般及び事業成長における課題」における知財の支援を受けたいと思いますか？



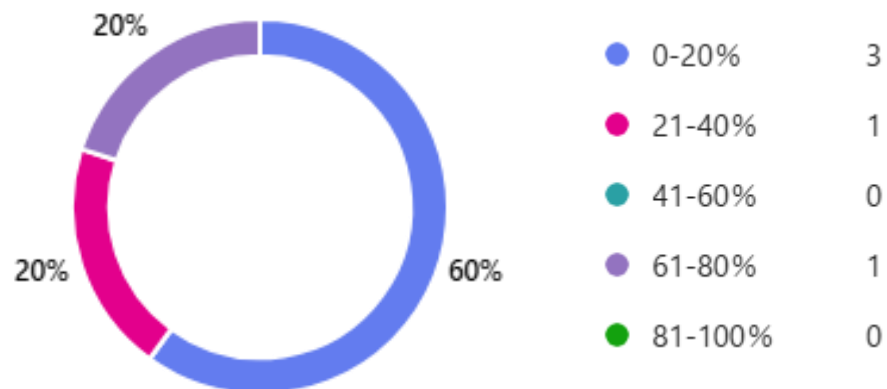
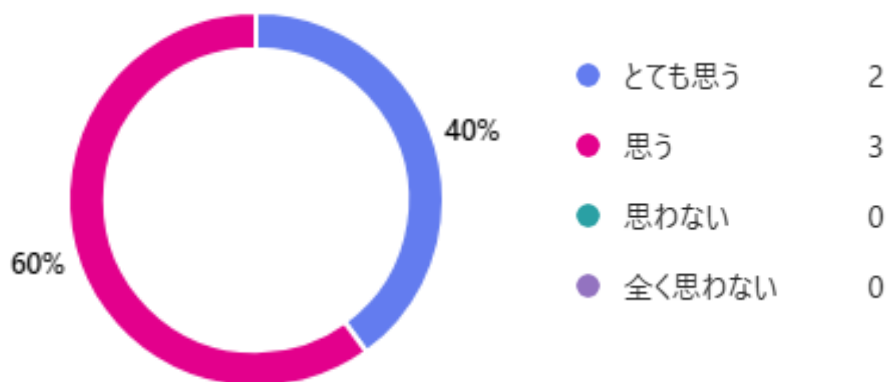
< 支援先からのコメント >

- ✓ 我々のようなディープテックスタートアップは知財戦略そのものが鍵となることを本支援で再認識したから。
- ✓ 元々特許を取得していた製法とは違った製法を現在使っており、これをノウハウとするか権利化するかを検討していきたいため。
- ✓ 限られたリソースだからこそ、その使い方に課題があり、知財に関する事項も優先度が高いと感じたから
- ✓ 今回知財の伴走支援を通してリブランディングという結果に着地しましたが、リブランディングにおいては専門家への相談機会があると非常に良いと感じたからです。
- ✓ AI時代における付加価値の定義の変化と事業の可変要素

全ての支援先企業が、企業価値向上に資する中長期的な知財戦略は重要だと思っ ていますが、それを構築できていないと感じている企業が多数を占めていました

企業価値向上に資する中長期的な知財戦略は重要
だと思いますか？

企業価値向上に資する中長期的な知財戦略をどのく
らい構築できていますか？（5段階評価）

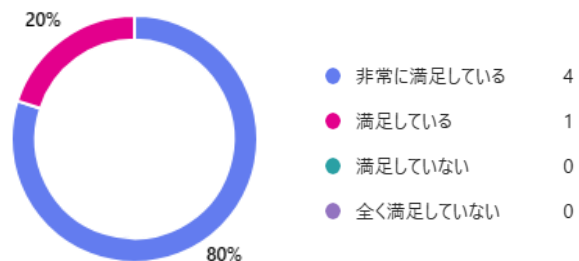


<支援先からのコメント>

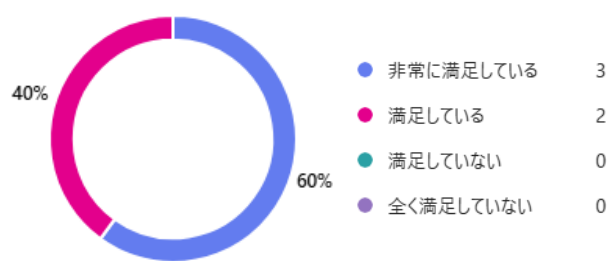
- ✓ 伴走支援を経て、知財を生かした事業戦略を中長期的に立てることができたから
- ✓ 知財戦略を考える重要性はこの1年でとても理解できたが、一方で私どものような大学発スタートアップに関しては大学との知財の兼ね合いという背景があるため、中長期的な視点での戦略構築にはまだ至っていない。
- ✓ 当社は代表自らが発明した技術を持っているが、戦略構築のために何かしたと答えられるものがないと思ったから。

チームリーダー、チームメンバー、外部専門家、全ての項目で「満足している」以上の回答をいただきました

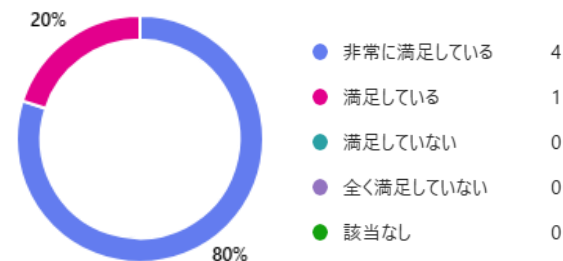
チームリーダーの満足度



チームメンバー（支援メンバー）の満足度



外部専門家の満足度

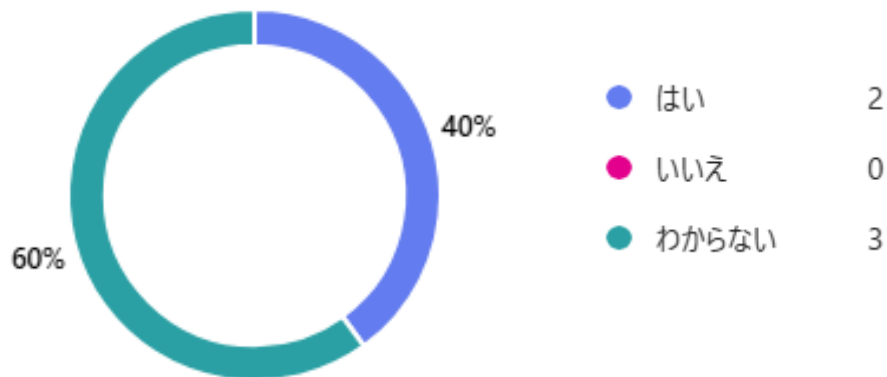


< 支援先からのコメント >

- ✓ 知識は十分であり、当社の課題に合わせたチームコーディネートも十分検討してもえた。また、こちらの説明がうまくできなくても、しっかり理解してくださり、まとめる能力を持っておられた。
- ✓ 素人の私にも都度、詳細な解説を入れつつ事業支援をしていただきました。とても感謝しております。
- ✓ 自身の専門以外の分野でも親身になって寄り添っていただき、ブランディングの専門家の方もご紹介いただいたから。
- ✓ 全てのメンバーの方には、それぞれの専門性を生かした支援をしていただきました。前述いたしました弁理士の先生や金融機関から参画いただいているメンバーの方には実情に応じた情報提供も多数いただきとても勉強になりました。
- ✓ 皆様それぞれのお立場から、ご意見や提案などしてくださり感謝しております。
- ✓ 知識や経験が十分にあられることに加え、相手が固くならなりすぎないような相談しやすい雰囲気を心がけておられるように感じた。

来年度も本事業における伴走支援を「希望する」と回答した企業は2社で、「わからない」と回答した企業は3社でした

来年度も本事業における伴走支援を希望しますか？



< 支援先からのコメント >

- ✓ 今回、定期的なミーティングが行われることで、私どもの事業進捗も格段に進んだと感じております。最初は2時間のミーティングに対して、長いかな？とも思いましたが、ミーティング準備を行うにつれ事業が効率的に進捗していくのを強く実感しました。今後は特に新規研究開発の知財戦略を中心に支援いただけるとありがたいと思います。
- ✓ これからリブランディングに注力していくことになりましたが、その上で必要なタイミングがあればお願いしたいと考えています。
- ✓ 知財の権利化の検討、ブランディング、契約書等の整備について取り組みたい。
- ✓ 知財戦略会議（戦略的な知財活用）については、会社として取り組みたい事項ではあります

③知財マインドの向上・普及啓発



ちざまるプロジェクト

③知財マインドの向上・普及啓発 成果報告会



ちざまるプロジェクト

熊本におけるスタートアップ関連イベント（Innovation Fes. Kumamoto, IFK）と連携することで関係者への周知や認知度向上につなげるための施策を実施しました

本事業の事業スキーム | 成果報告会



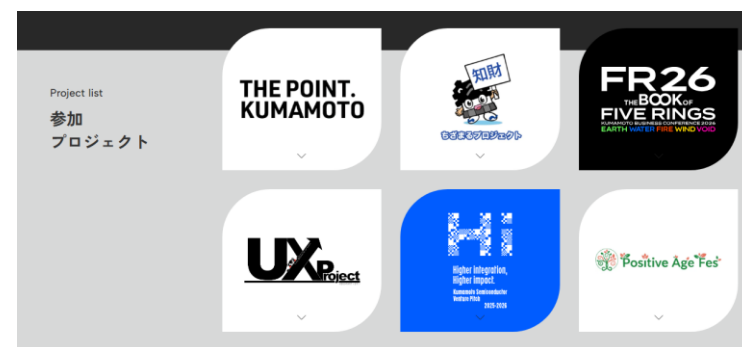
ちぎまるプロジェクト成果報告会では、「支援先企業及び分科会WGからの成果報告」「グローバル×知財に関する基調講演」「分科会のホスト機関をパネリストとしたセッション」を実施しました

ちぎまるプロジェクト成果報告会

<2/13 成果報告会 & 第3回研修会>

13:00～	開会挨拶
13:05～	本日の流れ・プロジェクト概要説明
13:20～	事業プロデューサーの挨拶
13:25～	支援先企業成果報告／7分×5社＋10分予備
14:10～	休憩
14:20～	分科会WG成果報告／5分×4WG＋10分予備
14:50～	基調講演／小林事業PD補佐 テーマ仮：グローバルを目指すスタートアップの知財戦略
15:15～	休憩
15:20～	パネルディスカッション① テーマ：スタートアップにおける知財経営 パネリスト：金融WG・グローバルWG・大学WGのホスト機関
15:45～	パネルディスカッション② テーマ：事業承継と知的財産 パネリスト：事業承継WGのホスト機関
16:10～	PD／PD補佐＋事務局メンバーからのコメント
16:30	閉会挨拶
16:40-17:40	交流会 ※同会場（XOSS POINT.）で開催

●Innovation Fes. Kumamoto (IFK) との連携



- 「熊本から新産業を生みだそう」「イノベーションを起こそう」というプロジェクトが連携
- 特許庁・熊本県・熊本市・株式会社再春館共創ラボラトリー・一般社団法人FIVE RINGSと共催で実施

© 2026. For information, contact Deloitte Tohmatsu Group.

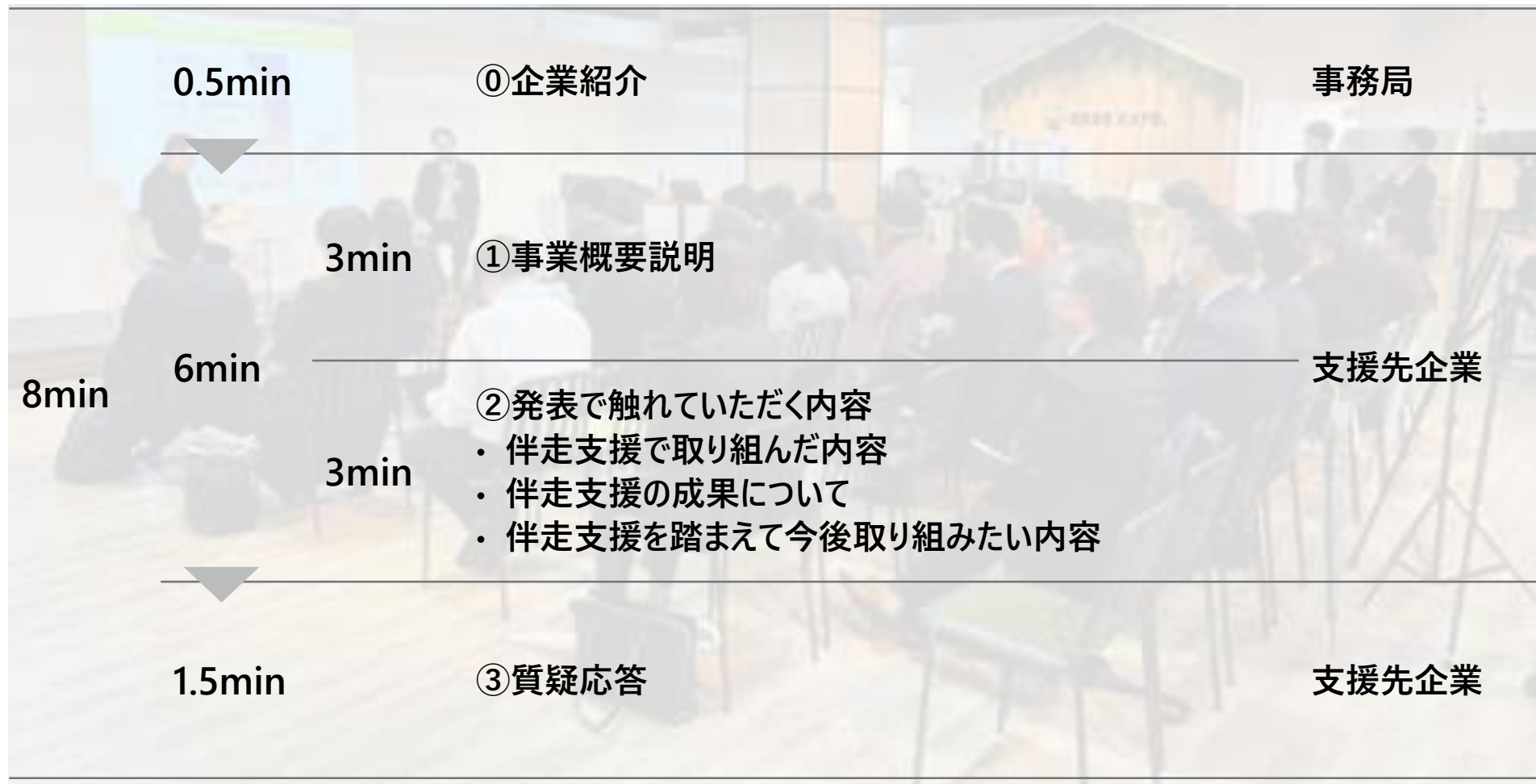
オープニングには「ちぎまるくん」も登場し、その後も各登壇者の発表に対する質問や活発な意見交換が行われました

成果報告会の様子



冒頭に事務局から企業紹介を行った後に、事業概要と伴走支援で取り組んだ内容やその成果・今後取り組みたい内容について発表いただき、最後に質疑応答の時間を設けました

支援先企業成果報告／発表構成



本伴走支援で取り組んだ内容

(1)ビジネスモデルの検討・具体化

→検査事業・検査キット／アプリ事業の整理とターゲットの明確化

(2)検査キット・アプリ開発の具体化

→キット製作から実証実験まで仕様や開発スケジュールを整理

(3)大学との関係整理・契約・知財の整理

→特許・営業秘密・商標を組み合わせた知財保護方針

伴走支援の成果について

事業方向性の明確化

→実証実験を起点とした段階的な事業化の方向性が明確に！

開発の前進

→検査キット・アプリが実証段階まで具体化

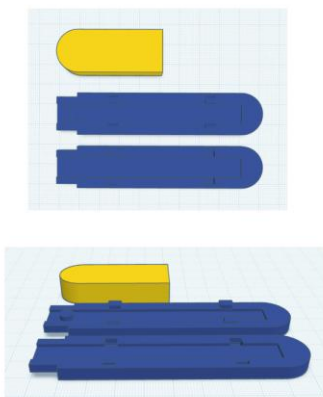
知財リスク低減

→大学との契約・知財に関するリスクや論点が整理

事業基盤の整備

→資金調達や外部連携に活用できる知財ストーリーが構築

独自開発の尿回収キット



今後取り組みたい内容

実証実験の実施

→下甌島での実証実験から、有効性と事業性を検証

知財の実行

→特許・商標出願およびクリアランス調査を進め、知財戦略を実装する。

サービス開始

→BtoB展開や新規検査項目への展開を見据えつつサービスを開始

特許相談プロジェクトレポート

■ プロジェクト概要

本レポートは、プロジェクトは途中ではあったが、特許相談チームとの連携プロセスと特許化を進める上で、課題が明確になった報告である。

■ タイムライン

開始：2024年10月10日

状況：検討判断の整理

[第1回企業伴走支援（振り返りと今後の予定）]

支援テーマ：繊維系システム特許の相談で支援依頼

To Do：

- ・ 発明提案書の整理
- ・ 発明の特許要件をクリアにする
- ・ 類似特許の調査 / シソーラス概念整理
- ・ 発明提案書をプラットフォームに載せる場所の検討
- ・ アパレルサプライチェーンの検討

備考：アパレル及び特許のサプライチェーンを学び、製造プロセス内のタッチポイントへ、分散システム展開の必要性を確認

[第2回伴走支援へ向けて]

To Do：

- ・ 発明提案書の社内共有
- ・ ファッションテック共創基盤構築プロジェクト参画
- ・ 類似特許の調査
- ・ 自社技術の独自性を明確化し計画提案書へ記載
- ・ プラットフォーム特許調査報告との比較自動化
- ・ 特許情報収集の仕組み化

[プロジェクトの学びと今後課題]

【良い学び】

- ・ チームで充実した支援内容、プロセスにおける合意形成も誠実
- ・ 事業成長の可能性を見ていただき信頼関係を構築

【今後の課題】

- ・ 特許化可否の不確実性を考慮した事業判断、特許化判断
- ・ 取捨選択と有益な特許化提案の模索

HANDS-ON SUPPORT

	課題	支援・アドバイス内容
知財関連	バージョンアップした現在の製法で特許出願するか？	<ul style="list-style-type: none"> ・旧製法との違いを数値的に明確にし、その上で再検討 ・検査方法や内容の検討
	海外への販路拡大に伴う知財保護について	<ul style="list-style-type: none"> ・商標については、展示会出展の段階でも出願しておく事が重要 ・現商品名をそのまま使うかブランディングの観点から検討
	知財保護に係る費用負担の軽減方法について	<ul style="list-style-type: none"> ・海外出願はINPIT外国出願補助金やマドリッド・プロトコル（マドプロ）の使用により出願の手間や費用を軽減できる。 ・補助事業を調べて計画的に進める



HANDS-ON SUPPORT

	課題	支援・アドバイス内容
契約関連	他社コラボ品の開発における注意点	<ul style="list-style-type: none"> ・単純な受託生産ではなく、共同開発形式の場合は秘密保持契約と共同研究開発契約の締結が必要。 ・雛形は特許庁オープンイノベーションポータルサイトより取得可能
	量産製造委託に備えたリスクマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> ・他社製造委託を行う場合は、秘密保持契約と製造委託契約が必要。

情報の取扱い

費用負担

新技術の特許

利益分配
(ライセンス)

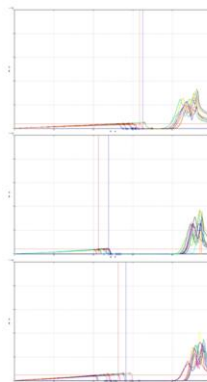


ACTIONS

既存特許との相違点整理

秘密保持契約書案の作成

製法変更による効果の数値化



NEXT STEPS

製法変更による効果の数値化

特許出願の検討

補助事業等の調査と活用検討

ブランド戦略

商標出願の検討

補助事業等の調査と活用検討

自社契約書類の整備

各種契約への対応





■ 今回の伴奏支援で取り組んだ内容



	内容	成果
課題① ビジネスモデルの検討	<ul style="list-style-type: none"> ☑「ハードウェア販売」以外のビジネスモデルの検討 ・ハード+サブスク ・VC、金融機関からの評価も考慮 	<ul style="list-style-type: none"> ☑リース活用 ・リース会社さまと検討 ☑リカーリング収入 ・保守+サービス
課題② 知財に関するインセンティブ制度	<ul style="list-style-type: none"> ☑製品の売上がいかに開発者へ還元するか ・モチベーションの向上（離職防止） 	<ul style="list-style-type: none"> ☑職務発明規程の改定 ・対象製品の売上に応じて、実績報償を賞与の一部として支払う制度への変更を検討中

■ 今後の取り組み事項



	今後の取り組み事項
課題① ビジネスモデルの検討	<ul style="list-style-type: none"> ☑リース活用 ・スキームの確定 ・事例の創出 ☑リカーリング収入 ・予兆保全サービス等への取組検討
課題② 知財に関するインセンティブ制度	<ul style="list-style-type: none"> ☑職務発明規程の改定 ・制度の確定 ・社内への周知 ・運用の開始

取り組み概要

事業内容	ふるさと納税支援事業、EC・Webマーケティング支援事業
支援期間	2025年9月1日～2026年2月28日（6ヶ月）
背景と課題	<ul style="list-style-type: none"> 経営戦略としての知財戦略が不在であった 自社の強みは「当たり前」で、源泉（知財）であると認識・言語化ができていなかった 100億企業へビジネスモデルを変革するために「足し算」の経営から「掛け算」の経営へ転換が必要であった
成果	<ul style="list-style-type: none"> 知財を単なる「権利（特許・商標）」ではなく、「顧客情報資産」「ブランド」「ノウハウ」といった「競争力の源泉となる見えない資産」と広義に定義し直したことで、経営戦略の中心に据えることができた 自社の「当たり前」が他社がまねできない「強力な知財」であることに気づき、言語化された 自社の強みを戦略的に育て、守り、活用して稼ぐ会社へと進化するための土台作りができた
今後の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 「馬刺しのとらや」を目指し、圧倒的なブランドへのリブランディングを行う アライアンス推進による自社のブランド価値向上と新規顧客獲得の土台構築 知財ガバナンスを強化し、各事業の戦略を行う体制の整備を行う

COPYRIGHT © RITA Marketing Partners Co., Ltd. ALL RIGHTS RESERVED

事業別知財の特定と今後の戦略

RITA MARKETING PARTNERS

各事業の「強み」を収益化と防御の武器へ

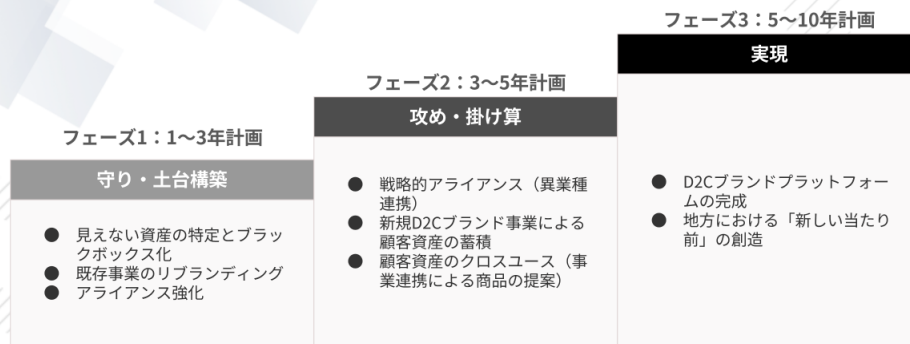
事業領域	特定された主要知財	戦略の方向性
馬刺し	通販日本一の実績・物流網	質・文化を売る「王道ブランド」へ
ドッグフード	商品・ビジネスモデル	ただのドッグフード屋からの脱却、ワンちゃんとの暮らし全体をサポート
ふるさと納税支援	企画提案書・運営ノウハウ	ノウハウのパッケージ化と秘匿管理
パーソナルトレーニングジム	152時間の教育プログラム	再現性の高い教育システムの資産化

COPYRIGHT © RITA Marketing Partners Co., Ltd. ALL RIGHTS RESERVED

今後の展望：実行フェーズへの移行

RITA MARKETING PARTNERS

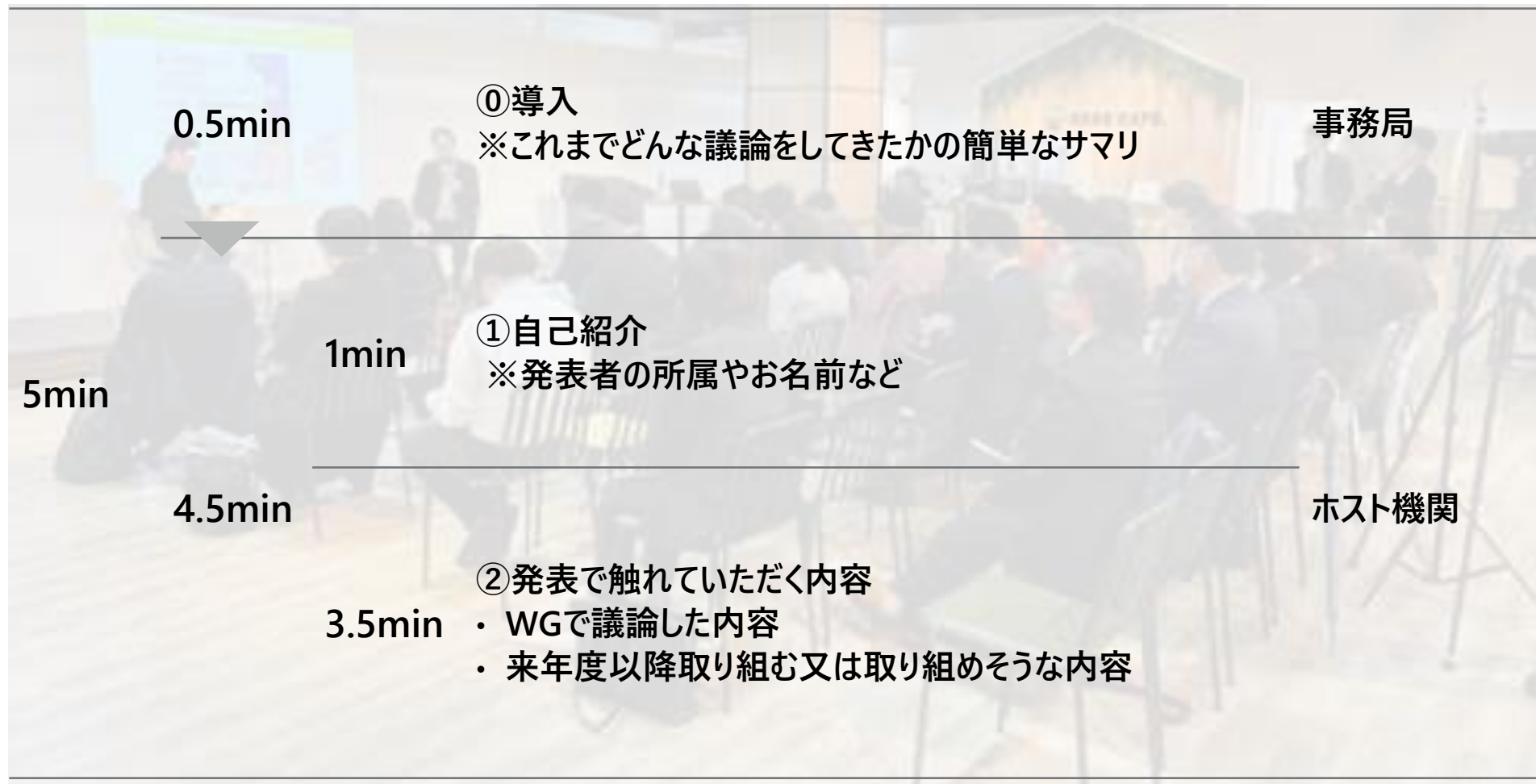
「守り」を固めつつ「攻め」のブランディングを開始



COPYRIGHT © RITA Marketing Partners Co., Ltd. ALL RIGHTS RESERVED

冒頭に事務局から簡単な導入を行った後に、事務局が作成した資料にて、WGで議論した内容
来年度以降取り組む又は取り組めそうな内容について説明いただきました

分科会WG成果報告／発表構成



1 グループ目／金融WG

第1回分科会（10/22）



第2回分科会（12/25）



※順不同

ホスト機関

肥後銀行、熊本銀行

グループメンバー

くまもと産業支援財団、大熊本証券、日本政策金融公庫 熊本支店

知財専門家

宮本弁理士（弁理士法人太陽国際特許事務所）※活動拠点：熊本

ファシリテーター

事務局 根生氏（特許庁）

金融WG

報告内容



●ホスト機関 ※順不同

- 肥後銀行／担当者：産業イノベーション推進部 推進役代理 山本 晃輔 様
- 熊本銀行／担当者：ソリューション営業部 地域共創・グローバルグループ 主任調査役 大畑 健太 様

議論及び発表された内容 ※議事概要からの抜粋及び一部編集

第1回 分科会

- 現場の行員まで知財教育をするのは難しく、まずは本部で知識を蓄えていくということだろうと考えている。
- 知財の価値をビジネスにどう結びつけるか、無形資産の可視化・価値化が重要。まずは自分たちが「知財」をある程度語れるように、理解を深めておくことの必要性を感じた。

第2回 分科会

- 金融機関の持つ課題感として、「知財の価値をどうビジネスにつなげるか」「無形資産であるものを可視化すること」が挙げた。
- 金融機関自身が知財の評価や知財面での事業性評価を行い、それに基づいた融資を実行するのは難しいところ、中小企業診断士や弁理士といった専門家を事業性評価のスキームに組み込む必要があると考えている。

来年度以降どんな取組を進めていくか（どのような取組であれば進めていけそうか）のイメージ

- ✓ 特許庁の知財金融事業等を活用しながら金融機関同士足りないところを補っていくことで、中小企業や取引先の支援につながるのではないか

2 グループ目／グローバルWG

第1回分科会（10/22）



第2回分科会（12/25）



※順不同

ホスト機関

日本貿易振興機構（ジェトロ） 熊本貿易情報センター

グループメンバー

熊本日日新聞、XOSS POINT.

知財専門家

遠藤弁理士（九州国際特許事務所） ※活動拠点：福岡

ファシリテーター

事務局 吐合（トーマツ）

グローバルWG

報告内容



●ホスト機関

➤ 日本貿易振興機構（JETRO）／担当者：熊本貿易情報センター 係長 舟根 宏紀 様

テーマ	議論及び発表された内容 ※議事概要からの抜粋及び一部編集
第1回 分科会	<ul style="list-style-type: none">支援機関で提供できる情報や得意分野が異なるので、支援機関同士での横のつながりを強化することが重要。海外展開のハードル（マインドセット含む）、知財出願・活用の現状と課題、支援機関連携の重要性（どの支援機関に連絡したらよいか、企業側がわかっていないケースもある）、我が子を守る武器の一つが知的財産権。
第2回 分科会	<ul style="list-style-type: none">海外の展示会に出すことでビジネスが模倣されたり、商標を取られたりしてしまうことがよくあり、支援機関としては、そういった知財に関する知識・リスクを発信していくことが重要。



来年度以降どんな取組を進めていくか（どのような取組であれば進めていけそうか）のイメージ

- ✓ 海外展開のサポートを行いつつ、JETRO、XOSS POINTでカバーできない専門的な領域については、弁理士等の専門家につなげていきたい
- ✓ 他の機関と連携しながら、海外の市場等に目を向けるような情報提供をする必要がある

3 グループ目／大学WG

第1回分科会（10/22）



第2回分科会（12/25）



※順不同

ホスト機関

熊本大学

グループメンバー

熊本県庁、くまもと大学連携インキュベータ、肥銀キャピタル

知財専門家

高宮弁理士（高宮特許事務所） ※活動拠点：熊本

ファシリテーター

事務局 古賀（トーマツ）

大学WG

報告内容

●ホスト機関

➤ 熊本大学／担当者：研究開発戦略本部 特任助教 猪俣 雄也 様



テーマ	議論及び発表された内容 ※議事概要からの抜粋及び一部編集
第1回 分科会	<ul style="list-style-type: none">研究者支援は行っているが、大学発SU（法人）の支援をより強化していきたい。研究シーズを知財に結び付けたりと大学内で知財戦略を検討できる人材が不在で、長期的には内部の人材を育成していきたい。大学発スタートアップの知財戦略、教員・学生の知財意識向上、支援機関との連携（出向・兼業等もあり）。
第2回 分科会	<ul style="list-style-type: none">熊本大学URAにおける知財人材不足を踏まえて、12/24に特許庁とミーティングを実施。ビジネスと知財、技術の3つの視点で見られる人材が理想的であり、それが将来的に育成したい人材像。



来年度以降どんな取組を進めていくか（どのような取組であれば進めていけそうか）のイメージ

- ✓ 足下の取組としては、ベースを引き上げるという点で、特許庁のセミナーを大学教職員向けに開催予定
- ✓ 長期的な人材育成といった点では、INPITの支援制度（iAca）を活用しながら、知財リテラシーを醸成していく

4 グループ目／事業承継WG

第1回分科会（10/22）



第2回分科会（12/25）



※順不同

ホスト機関

熊本商工会議所、熊本県事業承継・引継ぎ支援センター

グループメンバー

熊本県よろず支援拠点、熊本県中小企業団体中央会

知財専門家

岡井弁護士・弁理士（アステル法律事務所） ※活動拠点：熊本

ファシリテーター

事務局 姫野氏（熊本市）

事業承継WG

報告内容



●ホスト機関 ※順不同

- 熊本商工会議所／担当者：経営支援部 部長 大野 清隆 様
- 熊本県事業承継・引継ぎ支援センター／担当者：統括責任者 山田 博昭 様

議論及び発表された内容 ※議事概要からの抜粋及び一部編集

第1回 分科会

- ここ10年で事業承継の話の中で「特許」「発明」というワードを聞いたことはなかったが、事業者が大切にしているもの自体が知財であると認識した。
- 事業承継の場面で「知財」という視点を当たり前に入れ込んでいく仕組みづくりが必要。支援機関同士が連携し、知財の発掘・評価・活用を事業承継支援のプロセスに組み込むことで、知財を活用した事業承継が実現できる可能性がある。

第2回 分科会

- 中小企業が持つ技術やノウハウ、営業秘密、レシピなどの知財価値に事業者自身が気づいていない。
- 経営指導員も資金調達や販路拡大に比べて知財を経営課題として認識できていない。
- 知財を磨き上げることで企業評価や譲渡価格が高まる可能性があるが、売り手側の時間的制約や、磨く前の段階での評価の難しさが障壁となっている。

来年度以降どんな取組を進めていくか（どのような取組であれば進めていけそうか）のイメージ

- ✓ INPIT（工業所有権情報・研修館）などの専門機関と連携した経営指導員等向け勉強会の開催、弁理士が同席する相談窓口の設置、具体的な事例共有による気づきの促進など、段階的な支援体制の構築

<テーマ>

スタートアップの知財経営支援における支援機関連携

パネリスト

- 肥後銀行／産業イノベーション推進部 推進役代理 山本 晃輔 様
- 日本貿易振興機構（JETRO）／熊本貿易情報センター 係長 舟根 宏紀 様
- 熊本大学／研究開発戦略本部 特任助教 猪俣 雄也 様

ファシリテーター

- 事業プロデューサー補佐／UniBridge 知財事務所 代表・弁理士・RTTP 坪内 寛 様



ちざまるプロジェクト

登壇者からは、各支援機関・専門家が連携していく上で、「ロールモデル」となるようなスタートアップを創出することが重要ではないか、という意見も出ました

<テーマ> スタートアップの知財経営支援における支援機関連携 ※ファシリテーターの投影資料

UniBridge

【ディスカッションのテーマ】

- スタートアップは経営資源（①ヒト、②モノ、③カネ、④情報、⑤時間、⑥知財）が絶対的に不足
- 課題は『複数かつ広範囲』
 - 課題解決に向けた支援を単独（1つの支援機関・1人の専門家）でカバーするのは困難
 - 支援機関や専門家の連携が必要だが、現場は『手探り』の状態
 - **各支援機関・専門家が連携していくためのヒントを共に考える**

【ディスカッションの進め方】

1. 単独支援の限界と悩み

建前論ではなく、現場の「本音」を...各機関が抱える現実

（『目の前の業務に追われて連携まで手が回らない』『具体的に誰にどう頼めばいいかわからない』……）

2. 連携支援による可能性と理想

支援機関・専門家同士の連携における「理想のバトンパス」「理想のスクラム」とは？

他機関への要望（どう繋がりたいか）

<テーマ>

～事業承継×知財の対話～

事業承継で大切にしているものが知財

パネリスト

- 熊本銀行／ソリューション営業部 地域共創・グローバルグループ 主任調査役 大畑 健太 様
- 熊本商工会議所／経営支援部 部長 大野 清隆 様
- 熊本県事業承継・引継ぎ支援センター／統括責任者 山田 博昭 様

ファシリテーター

- 事業プロデューサー／弁理士法人ソシデア知的財産事務所 代表弁理士 小木 智彦 様



ちざまるプロジェクト

登壇者からは、「強みを承継の文脈でより意識していくべきだと感じ、これからその観点で事業承継に関わっていきたい」との趣旨の発言もありました

<テーマ> ～事業承継×知財の対話～ 事業承継で大切にしているものが知財連携 ※ファシリテーターの投影資料

～事業承継×知財の対話～ 事業者が承継で大切にしているものが知財

★事業承継の基本を教えてください

事業承継が行わる際の流れ

成功例と課題(難しい点は?)

現場のあるあるは? ……「人間関係」「株式」「借入金」「後継者育成」

事業承継のためのツールは? ……事業承継診断シート、経営デザインシート、ローカルベンチマーク

「事業者が承継で大切にしているものが知財」の説明

★知財(強み・暖簾)の承継はできるのか?

ノウハウの承継 (水俣:ゲロパンの承継)

従業員(人的資本)を含めた承継(例:タクシー会社の承継:運転手)

事業の強みが見えないと承継者が現れない? そもそも、強みの分析はやるのか?

承継前に、強みの磨き上げが必要?

★決算書(BS/PL)に表れない魅力をどう見える化するか?

創業60年で、承継するために初めて商標権を取得

「仲介側が思ってもいないところに、魅力を感じて引き継ぐ人がいる」



③知財マインドの向上・普及啓発 メディア等での情報発信



ちざまるプロジェクト

熊本市からPRTIMES等を活用したプレスリリースや、各種会議体の開催実績・一般参加のイベント周知等、認知度向上や機運醸成につながる取組を行いました

本事業の事業スキーム | メディア等での情報発信

① 地域知財経営支援ネットワークの強化



研修会

年3-4回

これとは別途、熊本日日新聞様に
成果報告会の記事掲載をいただきました

熊本知財
バー（仮称）
企業等を
演などを通じて、知財経営に関する
最新情報等をインプットする

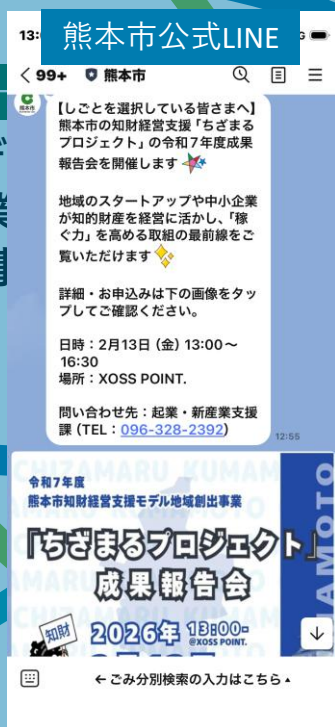
② スタートアップ等地域中小企業への伴走支援

メディア等での情報発信

PDチーム会議

月1回程度

伴走支援先企業ごとにPDチームを
組成し、伴走支援先に対する支援
方針や具体的な支援内容などにつ
いて、月1回のペースで開催する



③ 知財マインドの向上・普及啓発

成果報告会

年1回

熊本独自の支援ネットワーク形成や
伴走支援の成果について発信するこ
とを目的に、1-2月頃に開催する

メディア等での情報発信

適宜

熊本市域における知財経営支援ネット
ワーク強化等の機運を醸成していくた
めには、潜在層を関心層に引き上げていく必
要があるため、メディア等を通じた関連情
報の発信を行う

事業PD派遣によって得られた知識・ノウハウ



ちざまるプロジェクト

伴走支援のノウハウ共有と質の向上を目的に、チームリーダーから伴走支援におけるポイントである「理解」「方針」「チーム」の観点で整理いただきました

伴走支援ノウハウ共有の目的とポイント

● 目的

01 ちぎまるメンバーへの伴走支援ノウハウ共有
試行錯誤しながら伴走支援を進めてきたチームリーダーの支援ノウハウを共有いただき、地域におけるチームリーダー候補の育成に活用いただく

02 伴走支援の質向上
チームリーダーの伴走支援の進め方について議論を深めることにより、次年度以降の伴走支援の進め方や質の向上につなげていく

● 伴走支援におけるポイント



企業・事業の理解及び課題の整理を行う上でのポイント



支援方針を検討・決定する上でのポイント



支援チームメンバー及び外部専門家を活用する上でのポイント

伴走支援における3つのポイント



【理解】企業・事業の理解及び課題の整理を行う上でのポイント

- 経営者（支援先）のパーパスやMVVを理解しておくこと
- 当初より知財面（例：特許出願等）だけでなく、経営全般及びプロダクトの開発・サービス展開についても議論・方向性を検討すること
- 個別の課題検討ではなく、事業化に向けた一連のプロセスを考えること



【方針】支援方針を検討・決定する上でのポイント

- 深い事業理解や伴走支援先との信頼関係を構築する
- 当事者だけでなく関係者（ステークホルダー）の目的や立場を理解した上での客観的な視点を持つ
- 他方で、支援側もチームメンバーとして自分ごと、自分たちごととして捉えた当事者意識を持つ
- 事業の成功に向けた目的の明確化と、事業の各所における攻めと守りの知財について議論する



【チーム】支援チームメンバー及び外部専門家を活用する上でのポイント

- 当事者としての目的や方針、考え方、課題感を伝えること
- 知財面だけでなく、企業としての理念や事業の目的、実現したい将来像を共有すること
- 知財の課題解決の相談ではなく、事業課題解決として捉えて、知財面の相談をすること
- まず「森」を見てから「木」を議論すること

伴走支援における3つのポイント



【理解】企業・事業の理解及び課題の整理を行う上でのポイント

- 「知財」という言葉を多用しない。「工夫」や「コツ」に置き換えて、構えることなく自社の「強み」を語れる場を作る。
- 支援先が「自分事」と感じやすくなる環境を作る。支援先の同業者の事例等を自分の言葉で共有する。
- 「知財」の話題を出すタイミングは大事。支援先が腹落ちするタイミングを常に意識しながら支援する。



【方針】支援方針を検討・決定する上でのポイント

- 権利取得に拘泥しない。支援先の「工夫」を事業にどう生かすかという、実益を最優先に支援する。
- 答えを肩代わりして提供しない。判断の軸となる考え方と専門家に任せるべき基準(内容・タイミング)を共有する。
- 自社の「強み」の解像度を上げる。交渉や提携の場で支援先が自らの言葉で「強み」を語れる道筋を共に描く。



【チーム】支援チームメンバー及び外部専門家を活用する上でのポイント

- 状況に応じて支援先に代わって支援者に質問する。支援者同士の対話を通して支援先の理解の解像度を上げる。
- 専門領域を超えて周辺の課題を広く拾う。一人で抱え込まずに最適な支援者へ早めに繋いで解決の質を高める。
- 別の支援者へつなぐときは丸投げしない。引き継ぎ当初はその支援者にも伴走しつつシームレスな支援を心がける。

伴走支援における3つのポイント



【理解】企業・事業の理解及び課題の整理を行う上でのポイント

- 経営課題を解決するために知財というツールが他の支援よりも価値があると心から理解いただく
- 支援する知財は、広義の知財（知的財産“権”のみではない）であると認識してもらい、支援チームが経営課題を含めてヒアリングできる雰囲気を作る
- 製造業のみではなく、サービス業・商社など、どの会社にも知財があり、その知財を伸ばすことで企業価値の向上を狙えることを、支援側が有効な支援を行って理解してもらう



【方針】支援方針を検討・決定する上でのポイント

- 短期よりも長期の経営課題に対する解決を支援していくことが、知財支援には適している傾向がある
- 知財というイメージで思い当たる課題自体を企業が理解していない場合には、コーチングのスタイルで広くヒアリングを行い、多くの経営課題の中から、本支援の優先順位を決定し、長期的に行うアクションをスケジュールすることが望ましい
- 支援側だけで知財経営の方針や行動スケジュールを決めるのではなく、むしろ、企業側の自主的な判断を優先する。
- 企業側が自主的に支援してほしいと言ってきたことは、優先的に取り組み、成果を得る。支援側の都合で知財に関係ないとして無視しない。



【チーム】支援チームメンバー及び外部専門家を活用する上でのポイント

- 支援チームのリーダー（事業PD、補佐達）と、支援チーム各人との信頼関係が最も大切。リーダーが何ができて、何ができないか、支援チーム各人がそれを把握できるようにコミュニケーションが必要
- 逆に、支援チームの各人が具体的な支援内容として何ができるか、事業PD・PD補佐が理解していないと依頼しにくい（このためのコミュニケーションを惜しまずやる）
- リーダー（事業PD等）のやり方を支援チーム各人もやりたくなるぐらいに、質の高い支援を行うことを目指したい
- INPIT熊本窓口様・日本弁理士会熊本委員会様に関しては、本事業終了後、中核となってエコシステムをリードするべきと考えられるので今後の積極的な関与が肝要

Deloitte. トーマツ.

デロイト トーマツ

デロイト トーマツグループは、日本におけるデロイト アジア パシフィック リミテッドおよびデロイト ネットワークのメンバーである合同会社デロイト トーマツグループならびにそのグループ法人（有限責任監査法人トーマツ、合同会社デロイト トーマツ、デロイト トーマツ 税理士 法人およびDT 弁護士 法人を含む）の総称です。デロイト トーマツグループは、日本で最大級のプロフェッショナルグループのひとつであり、各法人がそれぞれの適用法令に従いプロフェッショナルサービスを提供しています。また、国内30都市以上に2万人超の専門家を擁し、多国籍企業や主要な日本企業をクライアントとしています。詳細はデロイト トーマツグループWebサイト、www.deloitte.com/jpをご覧ください。

Deloitte（デロイト）とは、Deloitte Touche Tohmatsu Limited（“Deloitte Global”）、そのグローバルネットワーク組織を構成するメンバーファームおよびそれらの関係法人（総称して“デロイト ネットワーク”）のひとつまたは複数を指します。Deloitte Globalならびに各メンバーファームおよび関係法人はそれぞれ法的に独立した別個の組織体であり、第三者に関して相互に義務を課しまたは拘束させることはありません。Deloitte Globalおよびその各メンバーファームならびに関係法人は、自らの作為および不作為についてのみ責任を負い、互いに他のファームまたは関係法人の作為および不作為について責任を負うものではありません。Deloitte Globalはクライアントへのサービス提供を行いません。詳細はwww.deloitte.com/jp/aboutをご覧ください。

デロイト アジア パシフィック リミテッドは保証有限責任会社であり、Deloitte Globalのメンバーファームです。デロイト アジア パシフィック リミテッドのメンバーおよびそれらの関係法人は、それぞれ法的に独立した別個の組織体であり、アジア パシフィックにおける100を超える都市（オークランド、バンコク、北京、ベンガルール、ハノイ、香港、ジャカルタ、クアラルンプール、マニラ、メルボルン、ムンバイ、ニューデリー、大阪、ソウル、上海、シンガポール、シドニー、台北、東京を含む）にてサービスを提供しています。

Deloitte（デロイト）は、最先端のプロフェッショナルサービスを、Fortune Global 500®の約9割の企業や多数のプライベート（非公開）企業を含むクライアントに提供しています。デロイトは、資本市場に対する社会的な信頼を高め、クライアントの変革と繁栄を促進することで、計測可能で継続性のある成果をもたらすプロフェッショナルの集団です。デロイトは、創設以来180年の歴史を有し、150を超える国・地域にわたって活動を展開しています。“Making an impact that matters”をパーパス（存在理由）として標榜するデロイトの約46万人の人材の活動の詳細については、www.deloitte.comをご覧ください。

本資料は皆様への情報提供として一般的な情報を掲載するのみであり、Deloitte Touche Tohmatsu Limited（“Deloitte Global”）、そのグローバルネットワーク組織を構成するメンバーファームおよびそれらの関係法人（総称して“デロイト ネットワーク”）が本資料をもって専門的な助言やサービスを提供するものではありません。皆様の財務または事業に影響を与えるような意思決定または行動をされる前に、適切な専門家にご相談ください。本資料における情報の正確性や完全性に関して、いかなる表明、保証または確約（明示・黙示を問いません）をするものではありません。またDeloitte Global、そのメンバーファーム、関係法人、社員・職員または代理人のいずれも、本資料に依拠した人に関係して直接または間接に発生したいかなる損失および損害に対しても責任を負いません。Deloitte Globalならびに各メンバーファームおよび関係法人はそれぞれ法的に独立した別個の組織体です。



IS 669126 / ISO 27001



BCMS 764479 / ISO 22301

IS/BCMSそれぞれの認証範囲はこちらをご覧ください
<https://www.bsigroup.com/clientDirectory>